

科学技術と倫理 S

15204

担当者名 / Instructor 鶴田 尚美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

現代の科学技術の進歩によって生じた、医療における倫理的問題を扱う。
 本年は、ヒトゲノム、クローンなど、先端医療の諸問題を取り上げる。

到達目標 / Focus and Goal

1. 問題を考えるにあたって必要な知識を習得すること。
2. 倫理的諸問題について自分で考える態度を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	生命倫理学の概要と問題設定	
2	基本的な倫理原則	功利主義、カント、四原理
3	インフォームド・コンセント	自己決定、患者の自律
4	医学実験(1)	臨床試験、インフォームド・コンセント
5	医学実験(2)	動物実験
6	ヒトゲノム(1)	遺伝子診断、遺伝子治療
7	ヒトゲノム(2)	
8	臓器移植(1)	脳死移植、人工臓器、異種移植
9	臓器移植(2)	
10	クローン技術(1)	
11	生殖医療(1)	人工授精、出生前診断、代理母・代理出産
12	生殖医療(2)	
13	生殖医療(3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	80 %	期末に2000字程度のレポートを課す。講義で取り上げたテーマの中から自由に選択し、それについて自分の考えを論理的に述べること
日常点	20 %	コミュニケーションペーパーの提出を出席点と見なす。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献がある場合は授業レジュメに記載する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

現代の人権 S

13015

担当者名 / Instructor 徐 勝

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

21世紀を迎えて、人権、環境、平和、ジェンダーなどが新しい世紀のキーワードとして登場してきている。これらの課題のすべてが、「人間が人間らしく生きることのできる世界」の創造を目指しているが、人権はその中心を成すものであり、21世紀は「人権の世紀」と言われてきた。しかし、9・11以後、アメリカが「対テロ戦争」の旗印をかけた、世界は「戦争の世紀」を迎えており、不安におびえている。アメリカの一国覇権のもとで、国際政治・国際法が満足に機能しない状況を迎えており、イラク戦争で明らかになったように、人権が広範にじゅうりんされている。今日、人権ほど広く用いられている言葉は少ないが、明確に説明できる人は少ない。本講義では、「国家の強大な権力」からの自由という人権の基本的な概念をふまえて、人権の歴史や、いくつかのトピックを取り上げて、日本とアジアの関係を視野におきながら、分かりやすく理解することを目指す。

到達目標 / Focus and Goal

人権とは何かを、歴史的過程をふまえて、本質的な理解を得ること。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

憲法

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	世界人権憲章(世界人権宣言、国際人権規約)を読む。	世界人権宣言、人権の国際化
	第2次世界大戦と世界人権宣言の成立	第2次世界大戦、ジェノサイド、国連、国連憲章
	人権とはなにか	人権、人権の普遍性、天赋人権、自然権
	市民社会の形成と人権の成立	市民社会、フランス人権宣言、アメリカ独立、抵抗権
	自由権的人権	社会契約説、公権力からの自由
	人権論の展開(社会権)	原生的蓄積、労働人権、社会主義
	発展権的人権	発展権、第三世界、民族自決権
	アメリカの人権外交	人権外交、国益と人権
	アジア的人権論	人権の特殊性、文化相対主義、集団的人権
	国家安全保障論(非常事態論)と人権	国家安全保障、人間の安全保障
	人権と戦争	戦争論、正戦論、イラク戦争
	人道介入の論理と実際	人道介入、ICC条約(国際刑事裁判所条約)
	戦後補償(日本とアジア)	強制連行、南京虐殺、日本軍「慰安婦」、
	まとめ	
	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	50 %	
レポート	50 %	中間に2~3回のレポートを課す。

期末試験と中間レポートを課す。それぞれ50%として総合する。講義における積極的な発言は歓迎する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

社会問題に関心を持ち、毎日、新聞を読むこと。「なぜ?」という疑問を常に抱いて、自らに問いかけ、重要なキーワードを正確に理解することに心がけていただきたい。

教科書 / Textbooks

テキストは特に無い。配布するプリントにしたがって講義を進める。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
人権宣言集	高木八尺他 / 岩波文庫 / /
国際人権条約・宣言集	田畑茂次郎他 / 東信堂 / /
世界人権宣言50周年	立命館土曜講座シリーズ4 / / /
テキストブック国際人権法	阿部浩己・今井直 / 日本評論社 / /

世界人権宣言やフランス人権宣言のような古典的な人権文書を読んで、吟味していただきたい。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

国連オンライン <http://www.unic.or.jp/>

外務省HP人権 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiiko/jinken.html>

その他 / Others

主題にそって講義を行うが、可能な限りビデオや映像を用い理解の助けとする。受講者の積極的意見表明と質問、討論の時間を設けたい。「他人の自由が始まるまでが自分の自由」です。他受講者の迷惑にならないように、受講秩序を守ること。原則として欠席は認めない。

現代の人権 N

20316

担当者名 / Instructor 嚴 敬俊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

21世紀を迎えて、人権、環境、平和、ジェンダーなどが新しい世紀のキーワードとして登場してきている。これらの課題のすべてが、「人間が人間らしく生きることのできる世界」の創造を目指しているが、人権はその中心を成すものであり、21世紀は「人権の世紀」と言われてきた。しかし、9・11以後、アメリカが「対テロ戦争」の旗印をかけたが、世界は「戦争の世紀」を迎えており、不安におびえている。アメリカの一国覇権のもとで、国際政治・国際法が満足に機能しない状況を迎えており、イラク戦争で明らかになったように、人権が広範にじゅうりんされている。今日、人権ほど広く用いられている言葉は少ないが、明確に説明できる人は少ない。本講義では、「国家の強大な権力」からの自由と言う人権の基本的な概念をふまえて、人権の歴史や、いくつかのトピックを取り上げて、日本とアジアの関係を視野におきながら、分かりやすく理解することを目指す。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	世界人権憲章(世界人権宣言、国際人権規約)を読む。	世界人権宣言、人権の国際化
第2回目	第2次世界大戦と世界人権宣言の成立	第2次世界大戦、ジェノサイド、国連、国連憲章
第3回目	人権とはなにか	人権、人権の普遍性、天賦人権、自然権
第4回目	市民社会の形成と人権の成立	市民社会、フランス人権宣言、アメリカ独立、抵抗権
第5回目	自由権的人権	社会契約説、公権力からの自由
第6回目	人権論の展開(社会権)	原生的蓄積、労働人権、社会主義
第7回目	発展権的人権	発展権、第三世界、民族自決権
第8回目	アメリカの人権外交	人権外交、国益と人権
第9回目	アジアの人権論	人権の特殊性、文化相対主義、集団的人権
第10回目	国家安全保障論(非常事態論)と人権	国家安全保障、人間の安全保障
第11回目	人権と戦争	戦争論、正戦論、イラク戦争
第12回目	人道介入の論理と実際	人道介入、ICC条約(国際刑事裁判所条約)
第13回目	戦後補償(日本とアジア)	強制連行、南京虐殺、日本軍「慰安婦」
第14回目	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	70 %	各回で取り上げた基本問題について十分に理解しているか、自分の言葉で論じることができるかがポイントです。
日常点	30 %	毎回の授業終了後に、その授業内容に関して、コメントを求めます。
その他	0 %	3分の2以上の出席を評価の基礎基準とします。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research.

教科書 / Textbooks

プリントを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
人権宣言集	高木八尺他 / 岩波文庫 //
国際人権条約・宣言集	田畑茂次郎他 / 東信堂 //
テキストブック国際人権法	阿部浩己・今井直 / 日本評論社 //
国際法から世界を見る	松井芳郎 / 東信堂 //

世界人権宣言やフランス人権宣言のような古典的な人権文書を読んで、吟味していただきたい。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

国連オンライン <http://www.unic.or.jp/>外務省HP人権 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken.html>

その他 / Others

ジェンダー論 SA

10020

担当者名 / Instructor 伊田 広行

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

ジェンダー論が目指すものが、性におけるさまざまなタイプの人、各個人の違いを尊重した人権論であることをおさえていく。ジェンダーとはなにか、性差別とは何か、異性愛男女2分法の問題点、家族単位システムの問題点、変革のときの基本思想としてのシングル単位発想、さらにスピリチュアル・ヘルス・ライツなどの意味を深く理解し、自分の生き方を構築していくときの道具として使えるようになる。

到達目標 / Focus and Goal

ジェンダー、シングル単位、家族単位、スピリチュアル・ヘルス・ライツなどの意味を深く理解し、自分の生き方を構築していくときの道具として使えるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

とくになし。できれば社会学の基礎的発想に慣れていてほしい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	総論、この講義のスタイル	暗記、主体的学習、ジェンダー、エンパワメント、多様性、非暴力
第2回	男女2分法は絶対か？ ジェンダー論の基礎	ジェンダー、男らしさ、女らしさ、性的マイノリティ、セックス、セクシュアリティ
第3回	社会的に形成される性	ジェンダー・センシティブ、ジェンダー・バイアス、本質主義、社会構築主義、ジェンダーフリー、性役割、ステレオタイプ
第4回	家族単位システムの問題性と対抗としてのシングル単位発想	家族単位、シングル単位、労働、新自由主義、新社会主義、ワークシェアリング、ワーク・ライフ・バランス
第5回	シングル単位の具体例：北欧諸国の実際	離婚、少子化対策、育休制度、複合家族
第6回	セックス、性的解放について	セクシャル・ライツ
第7回	セックスワークを考える	性差別秩序
第8回	暴力的ポルノから性的商品化を考える	ポルノ被害、児童買春、児童ポルノ
第9回	セクシュアリティに関わる諸問題と基本姿勢	性的マイノリティの権利、性の多様性と性的少数者
第10回	中絶問題、美への囚われ、性教育	リプロダクティブ・ヘルス・ライツ
第11回	性暴力とジェンダー	暴力、トラウマ、非暴力
第12回	DV	支配、精神的暴力、DV法、デートDV、虐待のサイクル、パタラー
第13回	レイプ	同意、デートレイプ、知人間レイプ、神話、
第14回	セクハラ、性的虐待、非暴力の思想	痴漢、ストーカー規正法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

テキストの該当部分を読んでくること。ページは指示します。

講義の前後で、テキストの中の「考えてみよう」への書き込みを積極的に自分でしてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	100 %	基礎概念の理解の程度と論述による自分の意見を展開する能力を評価する

評価には助案しないが、テキストの「考えてみよう」への書き込みのコピー提出、レポート提出をしてもよい。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research.

単位をとるために受講しようかと思う人は来ないでください。

試験で評価しますが、単位・評価関係なく、自分で考え、学びたい人は、積極的にレポートを書く、自分なりに考えたことをまとめていく、テキストの書き込みがたくさん書いていくなどをしてください。意見表明や質問などを授業の後にしてください。歓迎します。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
続・はじめて学ぶジェンダー論	伊田広行 / 大月書店 / / 全員必ず
はじめて学ぶジェンダー論	伊田広行 / 大月書店 / 4-272-35018-8 / 強制はしないが所持が望ましい

講義では、2冊とも使います。しかし、どうしても余裕がない人は、「続・はじめて学ぶジェンダー論」の1冊だけ購入して毎回持参してください。

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
スピリチュアル・シングル宣言	伊田広行 / 明石書店 / 4-7503-1717-9 /
Q & A男女共同参画 / ジェンダーフリー・パッシングの論点	日本女性学会研究会 / 明石書店 / /
-----	-----
ジェンダーフリー・トラブル	木村涼子 / 現代書館 / 4-7684-7915-4 /
-----	-----
スピリチュアル・シングル主義 の深い理解、およびジェンダーフリー・パッシングへの批判を学ぶときに有効である。	

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

テキストにあるもの。講義でも適時示していく。

その他 / Others

ジェンダー論 SB

15086

担当者名 / Instructor 高橋 裕子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

社会学的な見地からジェンダー概念について解説をした後、私たち自身の日常的なジェンダー感覚とはいかなるものなのかを様々な角度から取り上げる。

私たち自身が社会的・文化的な「思い込み」の産物であるジェンダーから隔絶した時空に生きることができないからこそ、それが「他者との出会い」の場面＝相互行為場面でどのように作用し、いかなる帰結をもたらすのかを考察することもまた必要なのである。

到達目標 / Focus and Goal

高校で「ジェンダー」という言葉を聞いたことのある人は、ジェンダー論を「男女平等」について学ぶ科目と思われるかもしれないが、そうではなく、私たちが内面化したジェンダー感覚そのものを検証する。そういった意味で、「男女平等」先にありきの発想からの脱却はいうまでもなく、「女の人権」や「子どもの人権」、あるいは「性の自己決定権」という言葉を、社会学的視座から相対化し、そのうえで自論を組み立てられるようになって欲しい。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

「社会学概論」など、社会学の基礎科目

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	総括的導入講義	
第2回	生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー概念	男女の「分類図式」
第3回	生物学的性・セクシュアリティ・ジェンダー概念	男女の「分類図式」
第4回	母親へのまなざし	
第5回	母親へのまなざし	
第6回	ビデオ：生殖医療の現場で	「幸せ」な家族像
第7回	ジェンダー・アイデンティティの実践	「男らしさ」・「女らしさ」
第8回	ジェンダー・アイデンティティの実践	「男らしさ」・「女らしさ」
第9回	ビデオに身体技法を学ぶ	
第10回	性同一性障害の事例	
第11回	性の自己決定権はどこまで認められるのか？ For or againstの先にあるもの・・・	
第12回	ジェンダー、その決め付けのポリティックス	
第13回	ジェンダー、その決め付けのポリティックス	
第14回	ジェンダー・フリーの射程	
第15回	最終講義日試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

講義内で関連図書や映画などの紹介をしますので、関心のあるテーマから、積極的に自習していただきたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	50 %	レポート未提出の学生は、自動的に最終講義日試験の受験資格を失います。
日常点	50 %	最終講義日試験を中心に、出席点を加算する場合があります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

講義のはじめに適宜レジュメを配布しますが、後日にレジュメを再配布することはありませんので、遅刻した学生は講義後にレジュメを受け取るようにしてください。

レポート課題については講義内で説明しますが、体裁・提出期限・提出先・提出方法が守られていないものに関しては全て未提出扱い(0点)にします。(また課題説明を聞いていなかったという理由は、疾病など診断書のある場合を除いて原則的に例外を認めません。)

講義を妨げるような私語を繰り返す学生には退室を求め、そのような場合は成績評価から5点マイナスします。

携帯電話の使用はメールを含め禁止とし、と同様の扱いをします。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『女らしさの社会学』	高橋裕子 / 学文社 / 4 - 7620 - 1164 - 9 /

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

吉永みち子 『性同一性障害 性転換の朝』 集英社新書 ISBN4 - 08 - 720020 - 5

その他 / Others

宗教と社会 GA

13562

担当者名 / Instructor 渡辺 和之

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

この講義は文化人類学の視点から特定社会の現代的問題をふまえて、宗教と社会の関係に焦点をあてるものである。また、現代社会において、諸宗教がどのように対立・共存しながら変貌を遂げているのか明らかにする。今期は南アジアで唯一ヒンドゥー教を国教とするネパールの事例を取りあげる。この国では、17世紀以降、カースト・イデオロギーと王権のもと、さまざまな宗教的背景(仏教や土着のシャーマニズムなど)を持つ諸民族集団がゆるやかに統合されてきた。しかし、この10年間に於ける社会・経済変化は著しく、急速に拡大する社会不安のなかで国家、カースト、ヒンドゥー教への異議申し立てが高まっている。この講義では、特に90年代以降の民族運動に焦点をあて、変化するネパール社会における諸宗教と社会の構図を捉えてゆきたい。

到達目標 / Focus and Goal

- (1)現代社会における宗教のあり方を考える。
- (2)ナショナリズムや民族運動のなかで宗教が果たす役割を考える。
- (3)現代社会において、なぜ原理主義や宗教復興運動が起きているのか、考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

文化人類学

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	総論:ネパール社会の変化と宗教	
第2回	カースト社会における仏教の位置 構造は変化しない? :ルイ=デュモンのカースト論とその検討	
第3回	カースト社会における仏教の位置 徒とヒンドゥー教徒の融和	王権と祭礼:仏教
第4回	カースト社会における仏教の位置 ジューと市街地の拡大	都市のコスモロジー
第5回	カースト社会における仏教の位置 と小乗仏教の展開	商品経済の浸透
第6回	ナショナリズムと民族運動の生起 のヒンドゥー化とサンスクリット化	「交易民」タカリー
第7回	ナショナリズムと民族運動の生起 ン祭と仏教への回帰	グルカ兵のダサイ
第8回	ナショナリズムと民族運動の生起 設立とマガール語推進運動	マガール協会の
第9回	ナショナリズムと民族運動の生起 とネパール社会	ブータン難民問題
第10回	ナショナリズムと民族運動の生起 市的世界	村人にとっての都
第11回	周辺民族とシャーマニズム 変化と周辺民族の自画像	チョウバンの村の
第12回	周辺民族とシャーマニズム 救い	厄災とマスト神の
第13回	マオイストによる内乱と王権の構図 マオイスト運動の隆盛と王権の拡張	民主化のあとで:
第14回	マオイストによる内乱と王権の構図 ネパール社会の行方	内乱のなかで:ネ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

参考文献を指示するので読んでおくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	70 %	定期試験の代わりにレポート提出になるかもしれない。
日常点	30 %	授業中に関係するテーマに関する小作文を書いてもらうことがある。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

2/3程度は出席すること。

教科書 / Textbooks

基本的に配布したレジュメにそって講義する。

宗教人類学の基礎については、関一敏・大塚和夫(編)『宗教人類学入門』弘文堂、2004年を参照のこと。

参考書 / Reference Books**書名 / Title****出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment**

『流動するネパール』

石井溥ほか / 東京大学出版会 / / 社会の動態に注目した論集。

『アジア読本・ネパール』

石井溥(編) / 河出書房新社 / / ネパールの概説書。

『王国を揺るがした60日』

小倉清子 / 亜紀書房 / / 民主化運動のルポルタージュ。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

石井研究室へようこそ:ネパール村落民族誌 <http://www3.aa.tufs.ac.jp/%7Ehishii/index.html>

ネパール非常事態宣言:小倉清子の緊急手記 <http://www.asiapressnetwork.com/>

(2005年9月以降) http://blogs.yahoo.co.jp/nepal_journal

その他 / Others

授業の概要 / Course Description

近、現代哲学の展開

近、現代は進歩とともに、自然支配、社会の分裂などさまざまな問題を生み出してきました。そこでこの講義では、ヨーロッパ近、現代哲学の展開をたどりながら、そうした問題の根源を問い、またそれを超えていく人間の可能性を探ってみたいと思います。

到達目標 / Focus and Goal

- ・ヨーロッパ近、現代哲学の基本的知識を習得することをめざします。
- ・ヨーロッパ近、現代哲学の理解をとおして、我々の現在を哲学的 批判的に考察する姿勢を身につけたいと思います。
- ・自己を相対化する視点を身につけることをめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

思想史に関連した科目を履修しておいて下さい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回目	概観 1、哲学とは何か	形而上学の問題
2回目	2、ニーチェの哲学と現代 『この人を見よ』、『力への意志』(ニーチェ)などを読む 『世界はおのれの背後にいかなる意味をももってはならず、かえって無数の意味をもっている。』	『遠近法主義』。世界を解釈するもの、それは私たちの欲求である。』『力への意志』
3回目	近代哲学の展開 1、デカルト a、近代的自我と二元論 『我思う、ゆえに我あり』(方法序説)	(参)さまざまな自我観
4回目	b、近代的自然観の問題 『方法序説』を読む	『新しい自然学は]我々自身をいわば自然の主人かつ所有者たらしめることができる。』『方法序説』
5回目	2、ホッブズ a、人間の本性、自然権、自由	『すべての人における、力へのやむことなき意欲』(『リヴァイアサン』)
6回目	b、自然状態=戦争状態と社会契約 『リヴァイアサン』を読む	『信約は、剣なくしては、単なる言葉にすぎず、人々を保護する力をまったくもたないものである。』(『リヴァイアサン』) (参)ルーマンの社会システム論
7回目	3、カント 普遍性をもった道徳法則が存在することと自由	(参)フロイトの人格論
8回目	4、ヘーゲル a、近代における主観と客観の分裂	『分裂というものが、哲学の要求の源泉である。』(『フィヒテとシェリングの差異』)
9回目	b、近代の問題の解決に向けて、自由と共同性の統一としての近代的人倫 『法の哲学』を読む	『国家は具体的自由の現実性である。』(『法の哲学』)
10回目	5、マルクス 近代の原理の体現=私有財産の止揚としての共産主義 『ユダヤ人問題によせて』を読む	(参)近代のもう一つの問題=政治や経済など機能的に分化したシステムの生成と自己運動
11回目	6、再びニーチェ 神の死とニヒリズムの到来 『ツァラトゥストラ』を読む	『私はあなた方に超人を教える。人間とは乗りこえられるべきあるものである。』(『ツァラトゥストラ』)
12回目	現代哲学の流れ 1、近、現代と管理社会 『知への意志』(フォーコー)などを読む	死にもとづく古き権力は、今や身体の行政管理と生の勘定高い経営によって注意深く覆われてしまった。』『知への意志』
13回目	2、消費、情報化社会と人間 『消費社会の神話と構造』(ボードリヤール)などを読む	『人々は自分を他者と区別する記号として(もっとも広い意味での)モノをつねに操作している。』(『消費社会の神話と構造』)
14回目	3、近、現代を内在的に超えていく可能性 ハーバーマスなどの哲学	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

近、現代哲学の展開の基本線を押さえて下さい。そうすれば、現代に至るその展開において何が問題だったのかが見えてきます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	80 %	講義をいかに理解しているか、そしてそれをいかに文章化しているかを中心に評価します。
レポート	10 %	講義に関連して2度ほど小レポートを書いてもらいます。そして、それを適宜抜粋コピーしたものを配布し皆さんの感想を求めます。
日常点	10 %	3回に一回出席を取ります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research.

それぞれの関心をもって講義に臨んで下さい。ノートを整理するように心がけて下さい。3回に1回質問ペーパーを配布しますので、疑問点があれば積極的に質問して下さい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しませんが、原典その他のコピーを教科書代わりにします。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ヨーロッパ社会思想史』	山脇直司 / 東京大学出版会 / / デカルト以後の近、現代思想の解説が含まれていません。
『ソフィーの世界』	ゴルデル(池田訳) / NHK出版 / / 哲学史と推理小説が合体されたものです。
『反哲学史』	木田元 / 講談社 / / デカルト、カント、ニーチェなどの思想の解説が含まれています。
『この人を見よ』	ニーチェ(手塚訳) / 岩波書店 / / ヨーロッパ的精神を鋭く批判したニーチェの自著紹介です。
『20世紀は何だったのか』	佐伯啓思 / PHP出版 / / ニヒリズムの問題を中心に20世紀を考察したものです。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

人間性と倫理 S

15004

担当者名 / Instructor 門屋 秀一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「どのようにすれば人間は善く生きることができるのか」ということを永遠の根本問題にする倫理学について、その基礎的な知識と考え方を初学者・入門者向けになるべく平易に説明し、学生諸君の教養豊かな人格の形成に資するつもりである。そのさい各テーマに関連のある西洋美術を補足的に用いることにする。倫理学には新しい分野として応用倫理学もあるけれども、本講義ではその根底、あるいはむしろ人間性そのものの根底を研究した、いわゆる伝統的古典的な倫理学(プラトン、アリストテレス、カント、ヘーゲル)を取り上げる。そして各論証方法を参照することによって人間にとって根本的な思考のあり方とはいかなるものか、理論の構築術とはどうあるべきか、を概説する。

到達目標 / Focus and Goal

善悪の区別にもとづいた実践としての倫理は大学生諸君にとってもうすでに習得済みの事柄であるから、大学教育であらためて徳育を行おうとは思わない。これに対して、学問としての倫理学とはこれまで諸君が体得している道徳的事実を整理し、秩序付け、体系化することである。自分の過去の経験を踏まえて、卓越した倫理学者たちの学説を学ぶことによって、揺るぎない自己の人格を確立すれば、未来の実社会において倫理的、道義的にさほど間違った轍を踏むことは決していないであろう。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	序論	倫理学の諸相
第2、3、4回目	第1章 美と芸術	芸術と倫理
第5、6、7、8回目	善と美	善、美、快楽
第9、10、11回目	善と崇高	善、崇高、道徳的感情
第12、13、14回目	善と有用性	善、有用性、合目的性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	50 %	記述式。公正を期すために持ち込みは不可。試験前における程度情報は開示。
日常点	50 %	出席票は機械で読み取るため、二次元バーコード持参のこと。
追加点希望者は講義最終日まで、講義に関連したテーマで小レポートを提出のこと。		

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

専門分野の知識の習得だけに偏らず、大学生として幅広い教養を身につけていただきたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
エチカとは何か	有福孝岳編集 / ナカニシヤ出版 / 4888485208 / なるべく購入
行為の哲学	有福孝岳 / 情況出版 / 4915252256 / 購入必須ではない
形而上学の克服	ヴァルター・シュヴァイidler / 晃洋書房 / 4771016585 / 購入必須ではない
カント第三批判と反省的主観性	門屋秀一 / 京都大学学術出版会 / 487698428X / 購入必須ではない

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

人間性と倫理 N

16026

担当者名 / Instructor 鈴木 竜雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

人間にとって、生と死の問題はその存在や人生、幸福などに先立つ根本的な問題であり、まさに倫理の根本問題である。この講義では、西洋古代から近代までの魂と肉体の関係の諸説を巡りながら、その問題点を指摘し、生と死の問題がどのように考えられてきたかをみる。さらに「脳死」についての宗教団体へのアンケートに見る、日本と西洋との生死観の差異や、現代における「死」の軽さを実際に起こった事件をモチーフに考えてみたい。

到達目標 / Focus and Goal

西洋の代表的な魂と身体と死についての著作や思想を読み、そして考えることによって、人間性の根拠でもある「生」と「死」について具体的に考え、さらにその倫理的な意味と意義についても理解できることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

哲学および倫理学の講義

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の内容の説明	この講義を受講するに当たっての注意
第2回	原子論とピュタゴラス派	古代哲学における死生観と魂
第3回	プラトン1	パイドン、魂の不死と身体の死、身体=墓
第4回	プラトン2	パイドン、魂の不死と身体の死、身体=墓
第5回	アリストテレス1	魂について、魂の機能性、魂の可死性
第6回	アリストテレス2	魂について、魂の機能性、魂の可死性
第7回	旧約聖書における人の創造と死	旧約聖書、創世記、原罪としての死
第8回	中世哲学における魂の概念	アウグスティヌス、トマス・アクィナス、身体と魂との結合
第9回	デカルト1	精神と身体、二元論
第10回	デカルト2	精神と身体、二元論、キリスト教的魂と身体の究極的な見解
第11回	日本人における生と死	日本人にとって死とはなにか、また魂とは何か？
第12回	日本の宗教界の「脳死」	臓器移植法へのアンケート、西洋近代医学的な死と法的な2つの死
第13回	現代における生と死の軽さ	実験殺人の深層を考えてみる、人間に対する唯物的な感覚
第14回	まとめ	講義全体のまとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

講義内で数回(5 - 7回)の小レポートを課す。実施回数は未定。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	50 %	
日常点	50 %	毎回のコミュニケーションペーパーと小レポート

できるだけ継続して出席のこと。出席とレポートを総合して評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

「死」を考えることは、非常に難しいし、また嫌なこともあります。そしてまた、死そのものは生きている人間にとっては身近なものではないかもしれませんが、しかし、人間は生まれれば必ず死ぬものであり、またそれこそが人間性や倫理観を形作るものでもあります。単に学問的なことではなく、一度でも開講前に、生と死について虚心に考えてみてください。

教科書 / Textbooks

各時間プリントを用意する。

参考書 / Reference Books

多岐にわたるので、講義内で適宜紹介する予定である。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

メンタルヘルス GA

20318

担当者名 / Instructor 坂梨 小枝子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「あわただしくやってきて、気がついたら終わってる」そんな 青年期 にある皆さんは、「自分のこころ」を持って余していませんか。学業、恋愛、人間関係、そしてこの先の人生を考え、葛藤し苦悶するこのライフステージにおいて、「自分のこころ」を掌握し、丁寧に生きることを目指すために大切なことについて、一緒に考えたいと思います。様々な映画や本、漫画、音楽などを紹介し、また、事例検討やワークを取り入れた講義を行います。

到達目標 / Focus and Goal

「今ある自分」を振り返り、自身のこころの健康について考えること。さらに、こころを健やかに保つために必要な「生きる技法」を、生物・心理・社会的視点から学ぶこと。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	メンタルヘルスとは(イントロダクション)	
	こころのメカニズム(不安・葛藤・防衛)	
	青年期の心理	
	対人関係の心理	
	「適応する」ということ / 自分と世界との和解	
	様々な「こころの病」	
	心理測定いろいろ	
	心理療法	
	心理療法	
	「症状」に繋がるこころの動き	
	「症状」の変化・治療におけるこころの動き	
	コミュニケーションスキル	
	ストレスコーピング	
	まとめと振り返り	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	50 %	
日常点	50 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

自己を見つめる作業は、エネルギーを要します。モチベーションのある学生さんの受講が望ましいと考えます。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しませんが、参考図書は随時紹介します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

論理と思考 S

12574

担当者名 / Instructor 高木 敏美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

命題論理及び一階の述語論理を取り上げる。
現代論理学が、言語・思考・論理を対象化する際の基本的枠組み、及び様々なテクニックを紹介する。

到達目標 / Focus and Goal

・記号化を通じて、言語表現の多様性を識別しその論理を辿り、さらに自ら展開できる。
・各種資格試験、及び就職試験問題中の<推理、判断>に適切に対処できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	総括的導入講義	演繹
	日常言語での論証-1	論証の妥当性
	日常言語での論証-2	論証の妥当性
	日本語と論理	記号化
	真理関数的論理・・・命題論理-1	真理値
	真理関数的論理・・・命題論理-2	トートロジー
	意味論と構文論(公理系)	記号、意味、世界
	公理系・・・その導入	規則に従う
	一般性・・・述語論理-1	全て、～が在る
	一般性・・・述語論理-2	ヴェン図
	関係	多重量化
	複雑な関係	同一性
	様々な問題	実践へ
	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	60 %	各回で取り上げた基本問題や概念についてきちんと理解できているかどうかを評価する。
日常点	40 %	毎回の授業終了後に、授業内容の理解度を確認する小テストを実施する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

プリントを使用する。

参考書 / Reference Books

適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

担当者名 / Instructor 小川 丈治

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

古語辞典には「影像」だけで映像の文字はありません。「映像」という造語は1896年(明治29年)日本に映画技術が紹介されて以降に登場しました。今では写真、映画、テレビ、アニメ、CG等「他の物の表面に映った物の形・姿」を表す言葉として使われています。映像の知識とこれを駆使する能力を伝授します。

なお、講義内容は前期・後期、各クラス共基本は同じですが、受講生の反応をみて多少修正する事があります。

到達目標 / Focus and Goal

普段何気なく見て楽しんでいるテレビや映画も、学問的に分析していくと随分置くが深いことを、講義を通して実感、理解してもらうこと。そして映像との接し方を考え直す機会にできれば結構です。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

事前に履修してほしい科目はありません。但し、講義には心理学や言語学に関連した話が何度かあります。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講師の自画像(VIDEO)	講師の生い立ちをビデオで自伝風に描きながら、映像(学)と講師との関わりを説明します。まずは映像を使って諸君に御挨拶!
第2回	「映像の時代」の意味	映像という言葉が出現したいきさつを探ると共に、「現代は映像の時代である」と言われる所以(ゆえん)をメディアの今昔を比較して浮き彫りにします。いふなれば映像論序説です。
第3回	歴史 - 絵画から写真へ	以後3回の講義で映像誕生までの足跡をたどります。絵画の歴史を振り返ると、画家が正確な絵を描く工夫を重ねていくうちに、静止画像(写真)を写すカメラが発明されたことが判ります。
第4回	歴史 - 動く映像の発明	絵画や写真を動かしてみたいという人間の遊び心が、動く映像(映画)を生み出しました。映画が生まれるまでの人間の様々な営みをビデオでふりかえります。
第5回	歴史 - 初期の映画	初期の幼稚で短い映像の数々を見ることで、映画誕生から110年有余を経た現代の映像表現技術の進展ぶりが実感できます。
第6回	映像認知の仕組み	ここから3回は映像の特性を考察します。まずは、「人間にとってのものが見え、わかるとはどういうことなのか」を認知心理学の研究を基に説明します。
第7回	脳の中の映像と言語	神経心理学の研究を援用しながら「言語と映像が脳の中でどう処理されているか」その仕組みを解説します。
第8回	映像と言語の比較	記号論を基に「映像と言語の性質の類似と違い」を明らかにします。
第9回	映像表現法1(撮影)	以後2回は映像表現の初歩的技法の講義です。今回はレンズの種類やカメラの動かし方(camera work)等、撮影技法について説明します。
第10回	映像表現法2(編集)	撮影より前の作業として必要な「台本(scenario シナリオ)の作成」や「映像のカット割り(decoupage デクーパージュ)」それに撮影後の作業としての「編集(montage モンターージュ)」について解説します。
第11回	ナチスと映画	これより3回は映像が社会に及ぼしてきた負の側面(弊害)について言及します。まず映画によってドイツ国民を破局に導いたナチス・ドイツの例を検証します。
第12回	嘘つき映像の歴史	「写っているから事実だ」と思いがちな人々の映像信仰を逆にとり、映画誕生当初から虚偽映像の数々を観客を欺いてきました。過去の事例をフィルムで見ます。
第13回	米国政治とTV	現代アメリカの政治コマーシャルの制作理念とそれが民主政治を歪めている現実をドキュメンタリー番組で見えます。
第14回	映像との付き合い方	講義のまとめとして、今後私たちは映像とどう接すれば良いかを考えます。
第15回	補遺(疑問に答える)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

興味がわけば関連の参考書を何冊かピックアップして読んでください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	70 %	授業で得た「映像」に関する知識と諸君のこれまでの体験を元に、君独自の「考え」を構築して書くこと。表現が下手でも君の頭脳のぬくもりが感じられるものを評価します。
その他	30 %	出席を不定期に数回とり、レポート点に上積み

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

将来広告や放送業界を目指す人は是非受講してください。毎回プリントを配布、ビデオ教材を沢山上映します。出席してビデオを見るのが大切です。講師は元TVディレクター。南米ペルー滞在3年。

教科書 / Textbooks

テキストは使わない

参考書 / Reference Books

参考図書は授業初回時に紹介。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

観光学 GA

15814

担当者名 / Instructor 小松原 尚

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

観光学には様々な学問分野がかかわっている。
本講義ではこれまで担当者がかかわってきた観光地に関する事例をも踏まえつつ、
地理学の視点から観光学へのアプローチを紹介する。
可能な限り、具体例をあげ、映像教材も利用しつつ、
近年の地域構造の再編と観光とのかかわりについて考察してみたい。

到達目標 / Focus and Goal

1. 地図帳や文献を使い、観光地に関する知識を深める。
2. 地形や気候の違いによる観光地の特徴を理解する。
3. 個別地域の産業の発展と観光とのかかわりを考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

地理・地域科学にかかわる科目
サービス産業に関する科目

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
9/26	はじめに	成績評価、受講計画、点数計算
10/ 3	都市機能としての観光(1)	地方中心都市、イベント、北見市
10/10	都市機能としての観光(2)	産業構成の変化、フィルムコミッション、網走市
10/17	都市機能としての観光(3)	沿岸域再開発、レクリエーション地、大阪市
10/24	都市機能としての観光(4)	大都市近郊、リゾート地、ニセコ
10/31	都市機能としての観光(5)	都市生活、日帰り観光圏、山間地域、十津川村
11/ 7	都市機能としての観光(6)	2大都市圏、奈良県観光
11/14	観光と交通に関する研究動向	モータリゼーション、自然環境、観光客流動構造
11/21	自然環境の観光的利用(1)	オートツーリズム、自然公園
11/28	自然環境の観光的利用(2)	国立公園の利用形態、釧路湿原
12/ 5	自然環境の観光的利用(3)	エコツーリズムの存在形態
12/12	自然環境の観光的利用(4)	自然観光資源の季節性
12/19	自然環境の観光的利用(5)	インバウンドツーリズム、自然観光資源
1/ 9	自然環境の観光的利用(6)	河川のレクリエーション的利用
指定された日	定期試験	問題用紙による出題、答案用紙への筆記による解答

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

研究会への参加など、講義時間外の学修活動も奨励する。
そして、その成果を特別レポートとして受け付ける。
要領はその都度、講義の中でお知らせする。
参考書を使った自主的な勉強についても、
特別レポートとして成績評価に組み入れられるように特別な課題を編集する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	14 %	30点満点、テキストを使って答える問題、講義内容を踏まえ試験勉強していれば必ずできる問題内容
レポート	19 %	20点満点、講義の内容に関連した「通常」もの、締切厳守
日常点	67 %	講義時間ごとに提出を求めるワークシートの得点、毎回10点満点、学用品の持参、受講姿勢
・成績評価方法		
各自の得点の合計が以下の式で算出した合格最低点(B値)を上回れば単位を認定する。		
$B = 1/2X + 2/3Y + 1/2Z$ ただし X:定期試験の満点の値 Y:ワークシートの満点の合計値 Z:Rレポートの満点の合計値 百分法への換算方法は講義時間中に説明する。		
・レポートには上記の提出義務付けの「通常もの」のほか、発展的な学修に関する「特別もの」がある。後者については提出は任意であるが、内容の完成度を評価し、得点に加算する。		

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

講義への出席は当然のことであるが、席を占めているだけでは評価に値しない。

目標の成績に到達する方法を多様に用意している。
共通しているのは、努力の成果をしっかり評価するシステムであるということである。
受講者各位の学生としてのライフスタイルに応じて努力のパターンを編成されたい。

教科書 / Textbooks

当初予定のものが残部僅少につき、別のものを検討中。
改めてご連絡します。

参考書 / Reference Books

<u>書名 / Title</u>	<u>出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment</u>
総合的現象としての観光	江口信清 / 晃洋書房 / 4-7710-1641-0 / 定価 本体2,000円(税別)
地域創造への招待	奈良県立大学地域創造研究会 / 晃洋書房 / 4-7710-1656-9 / 定価 本体1,800円(税別)
国内観光地誌	井澤利久 / 中央書院 / 4-924420-54-9 C3025 / 定価2,345円 A5判287頁

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

京都学 GA

13695

担当者名 / Instructor 藤村 健一、加藤 政洋、松岡 恵悟、藤巻 正己、河島 一仁、片平 博文、高橋 学、江口 信清、吉越 昭久、古賀 慎二、河原 典史、生田 真人、中谷 友樹、河角 龍典

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

本科目は京都をテキストとして、景観・環境の学としての地理学的観点から、過去そして現在の京都の個性や地域性を総合的に理解する。講義は各専門分野の立場からリレー方式で行われる。この講義を通じて、新たな「京都像」を描くことができよう。

到達目標 / Focus and Goal

京都の地域イメージの再構築をめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1週目	「はじめに」(藤巻正己)	
第2週目	「京都の自然地理・災害」(高橋 学)	
第3週目	「平安京の環境史」(河角龍典)	
第4週目	「平安京の祭礼と歴史災害」(片平博文)	
第5週目	「近世における鴨川の堤防と防災」(吉越昭久)	
第6週目	「宗教都市京都」(藤村健一)	
第7週目	「京都のモダン花街」(加藤政洋)	
第8週目	「朝鮮に渡った京都の缶詰」(河原典史)	
第9週目	「近代京都の地理的变化 - 立命館大学とその周辺地域 - 」(河島一仁)	
第10週目	「産業経済の特徴とまちづくり」(生田真人)	
第11週目	「京都のオフィス空間の変貌」(古賀慎二)	
第12週目	「京都市都心部のマンション立地と居住者の変容」(松岡恵悟)	
第13週目	「京都の社会地図」(中谷友樹)	
第14週目	「京都と社会的弱者」(江口信清)	
第15週目	「京都の多様な「生活世界」」(藤巻正己)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- (1) 事前に、京都の地図を手にし、よく読み込んでおこう。
- (2) 授業でとりあげられた事例を参考に、実際に現地を訪れ、京都を「体感」してみよう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	60 %	定期試験に代わる課題レポート。授業内容を参考にして、統一テーマに沿ったサブテーマを自ら設定し、所定の様式でレポートを執筆。
日常点	40 %	毎回コミュニケーションペーパーの提出を求める。授業内容に関わるキーワード、授業内容の要旨(100字程度)を記入。

レポートについては、授業内容を参考に、自ら設定したテーマにもとづき、受講生諸君が実際に「京都を歩き」、関心のある現場を訪れ、フィールドで得られた知見をふまえた内容のものを求める。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

- (1) 毎回コミュニケーションペーパーの提出を求める。
- (2) 授業でとりあげたさまざまな事例を参考に、自ら「京都」を歩き、大いに「京都」を体感してほしい。

教科書 / Textbooks

共通のテキストは今年度、使用しない。

参考書 / Reference Books

いわゆる「京都本」はふんだんにあるので、受講生諸君は、自らの関心にそった「京都本」をみつけてほしい。授業担当者からは、授業内容に沿って、適宜、推奨本が紹介されよう。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

現代の教育 S

12682

担当者名 / Instructor 田岡 由美子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「生活が陶冶する」これは「近代教育学の祖」とも呼ばれている教育思想家・実践家であるペスタロッチーの言葉である。人は、家庭をはじめとして、学校、地域社会など様々な生活場面で、他者・事物・自然との関わり合いを経験しながら、より人間らしく成っていく。しかし現代では、人間を取り巻く社会的・文化的背景が驚くほどのスピードで変化しつづあり、今まで自明であったことが次々と疑問にふされるといった事態が起こり、人間生活の全体が混迷に陥っている。それゆえ、この授業では、学校のみならず、家庭や地域社会でわれわれが当たり前のように行なっているさまざまな日常的な営みが、本来「人間らしく在ること・成ること」にとってどういう意味や課題を担っているかについて、改めて問い直したい。

到達目標 / Focus and Goal

人間と教育について、その内実をきめ細かく深く掘り下げて考えることを本講義の目的とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

特になし

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	
2	教育とは何か(人間における教育の可能性と必要性)	
3	教育とは何か(子どもとは?大人とは?)	
4	「食」の形成的意味(1)	
5	「食」の形成的意味(2)	
6	「食」の形成的意味(3)	
7	「祝祭」の人間学的・教育学的意味(1)	
8	「祝祭」の人間学的・教育学的意味(2)	
9	「遊び」とは何か(1)	
10	「遊び」とは何か(2)	
11	「遊び」とは何か(3)	
12	「学び」とは何か(1)	
13	「学び」とは何か(2)	
14	「学び」とは何か(3)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

なし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	60 %	試験に代わるレポートとして実施。
日常点	40 %	授業への参加状況、小レポートなど。

受講者数にもよるが、グループでの話し合い、発表も予定しており、日常点に加味する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

この授業は教育学についての知識の伝達ではなく、自分が受けてきた教育を振り返り、人間や教育について、あるいはその歴史的・社会的・文化的背景について深く考えることを目指している。したがって、自らの経験と他者の経験を交流させながら、相対化、客観化していき、そのプロセスの中で自分が変わっていくという学びを実感してほしい。

教科書 / Textbooks

テーマに関する資料・文献はその都度紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
教育を支えるもの	ボルノウ著、森・岡田訳 / 黎明書房 / 4654007385 /

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

スポーツと現代社会 SA

12947

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

冷戦体制が大きく変化してきている今日、政治・経済のあらゆる面で「市場原理」が強調されるような変化が生じています。そんな中で、スポーツを商品として捉え、その「消費的」価値を高めることにスポーツの社会的意味を見いだそうとする動きがあります。さまざまなスポーツ問題を見ながら、そうした動向に視点をあてなおし、スポーツの本質を探求しながら矛盾点を明らかにしていきます。そうした中で、できあがった「商品」の単純な「消費者」にさせられないように、主体的「創造者」として現代のスポーツにどうかかわっていくかを考えていきます。

到達目標 / Focus and Goal

まず、様々なスポーツ現象から何が問題であるかに気づくところから出発し、つぎに、その問題がなぜ生じるのかを考えようとする姿勢を持つことができればいいと思います。そうしたスポーツ問題をいろいろと考えながら、自分にとってスポーツとはどんな意味や価値があるのかを考えられるようになればいいと思います。その価値を受け取るために何をすべきかに目が向くようになると、さらにいいと思います。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

スポーツをプレイしたときの実感が重要です。スポーツのプレイ経験が不足していると思う人は教養科目の「スポーツ方法論」を受講してください。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	現代におけるスポーツを考える視点	スポーツの価値 / 価値享受能力 / 技能
第2回	体育・スポーツの戦後改革	第二次世界大戦 / 戦後民主化 / 反動化
第3回	オリンピック主義スポーツの台頭	運動文化 / 技術系統主義
第4回	高度成長期の政治・経済と国民スポーツ	体力科学主義 / 根性論
第5回	余暇社会論の中のスポーツ展開	プレイ主義 / めあて学習
第6回	戦後スポーツの基本矛盾	プレイ内主義 / 主体主義
第7回	スポーツはどのように文化になったか	労働とスポーツの同根異種性 / スポーツ手段
第8回	近代スポーツ成立の基礎条件	マニファクチュア / ブルジョアジー
第9回	近代スポーツの成立過程	市民革命 / イギリスの産業革命
第10回	優勝劣敗主義とフェアプレイ	スポーツの組織化 / パブリックスクール
第11回	近代スポーツの発展要因	スポーツ空間 / スポーツの私事性
第12回	オリンピックとアマチュアリズム	クーベルタン / ブランデー / サマランチ
第13回	プロスポーツの現状と未来	インダストリアル・アマ / ノン・アマ / ノン・プロ
第14回	国民のスポーツ権をめざして	基本的人権 / スポーツの自由
第15回	試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	100 %	基本的な述語の理解を軸にして授業内容全体の理解度を重視する
毎回の授業終了後のコメント提出もプラス として加味する。		

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

スポーツの理解にとっては、各自のプレイ経験から得られるスポーツ実感が重要である。その意味で、重ねて「スポーツ方法論」の受講を奨励したい。また、課外活動でのスポーツ経験なども自覚的に関連づけて理解を深めていって欲しい。

教科書 / Textbooks

授業の中でレジュメと資料を配付するので、とくにテキストとするものは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代スポーツ健康	立命館大学保健体育教室編 / 文理閣 / /

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

スポーツと現代社会 SB

11737

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

冷戦体制が大きく変化してきている今日、政治・経済のあらゆる面で「市場原理」が強調されるような変化が生じています。そんな中で、スポーツを商品として捉え、その「消費的」価値を高めることにスポーツの社会的意味を見いだそうとする動きがあります。さまざまなスポーツ問題を見ながら、そうした動向に視点をあてなおし、スポーツの本質を探求しながら矛盾点を明らかにしていきます。そうした中で、できあがった「商品」の単純な「消費者」にさせられないように、主体的「創造者」として現代のスポーツにどうかかわっていくかを考えていきます。

到達目標 / Focus and Goal

まず、様々なスポーツ現象から何が問題であるかに気づくところから出発し、つぎに、その問題がなぜ生じるのかを考えようとする姿勢を持つことができればいいと思います。そうしたスポーツ問題をいろいろと考えながら、自分にとってスポーツとはどんな意味や価値があるのかを考えられるようになればいいと思います。その価値を受け取るために何をすべきかに目が向くようになると、さらにいいと思います。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

スポーツをプレイしたときの実感が重要です。スポーツのプレイ経験が不足しているなと思う人は教養科目の「スポーツ方法論」を受講してください。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	現代におけるスポーツを考える視点	スポーツの価値 / 価値享受能力 / 技能
第2回	体育・スポーツの戦後改革	第二次世界大戦 / 戦後民主化 / 反動化
第3回	オリンピック主義スポーツの台頭	運動文化 / 技術系統主義
第4回	高度成長期の政治・経済と国民スポーツ	体力科学主義 / 根性論
第5回	余暇社会論の中のスポーツ展開	プレイ主義 / めあて学習
第6回	戦後スポーツの基本矛盾	プレイ内主義 / 主体主義
第7回	スポーツはどのように文化になったか	労働とスポーツの同梱異種性 / スポーツ手段
第8回	近代スポーツ成立の基礎条件	マニファクチュア / ブルジョアジー
第9回	近代スポーツの成立過程	市民革命 / 産業革命
第10回	優勝劣敗主義とフェアプレイ	スポーツの組織化 / パブリックスクール
第11回	近代スポーツの発展要因	スポーツ空間 / スポーツの私事性
第12回	オリンピックとアマチュアリズム	クーベルタン / ブランデー / サマランチ
第13回	プロスポーツの現状と未来	インダストリアル・アマ / ノン・アマ / ノン・プロ
第14回	国民のスポーツ権をめざして	基本的人権 / スポーツの自由
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	100 %	基本的な述語の理解を軸にして授業内容全体の理解度を重視する
毎回の授業終了後のコメント提出もプラス として加味する。		

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

スポーツの理解にとっては、各自のプレイ経験から得られるスポーツ実感が重要です。その意味で、重ねて「スポーツ方法論」の受講を奨励したい。また、課外活動でのスポーツ経験なども自覚的に関連づけて理解を深めていって欲しい。

教科書 / Textbooks

授業の中でレジュメと資料を配付するので、とくにテキストとするものは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代・スポーツ・健康	立命館大学保健体育教室編 / 文理閣 / /

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

スポーツの歴史と発展 SA

13016

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

現代社会において、スポーツや健康の問題が国民生活の重要な部分として位置づけられ、国民のすべての階層から重大な関心を寄せられている。このことは、TV、新聞、週刊誌等の扱いの多さからも明らかである。

こうしたなかで、人間にとってスポーツとは一体何なのか、について考えるために、 . スポーツ史概説、 . スポーツの個別史 からスポーツの歴史を紐解く。

到達目標 / Focus and Goal

スポーツの歴史と発展を学ぶことによって、受講者の「社会・文化を見る視点」を獲得することが期待される。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	未開社会(初めの豊かな社会)のスポーツ	無文字社会のスポーツ
2回	古代のスポーツ	エジプト、ギリシア、古代オリンピック
3回	前近代のスポーツ	ヨーロッパのスポーツ
4回	前近代のスポーツ	非ヨーロッパのスポーツ
5回	近代のスポーツ	近代スポーツの特質、伝播・普及
6回	後近代のスポーツ	後近代のスポーツの特質
7回	中間のまとめ	グループワーク&成果発表、レポート提出
8回	スポーツの個別史	サッカーの起源、変遷
9回	スポーツの個別史	アメリカのスペクテイター・スポーツ
10回	スポーツの個別史	世界の相撲
11回	スポーツの個別史	京都の都をどり
12回	スポーツの個別史	ニュースポーツ
13回	スポーツの概念	変遷の歴史、意味
14回	総まとめ	レポート発表&提出
15回	テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	60 %	テキスト及び授業の理解度を評価する。
レポート	40 %	どの程度主体的に学習し、自ら考察しようとしたのかを判定する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

テキストや参考文献を事前に読解する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ史講義	稲垣正浩他編著 / 大修館書店 / 4 - 469 - 26299 - 4 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
教養としてのスポーツ人類学	寒川恒夫編 / 大修館書店 / 4 - 469-26552 - 7 /

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

スポーツの歴史と発展 SB

11314

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

現代社会において、スポーツや健康の問題が国民生活の重要な部分として位置づけられ、国民のすべての階層から重大な関心を寄せられている。このことは、TV、新聞、週刊誌等の扱いの多さからも明らかである。

こうしたなかで、人間にとってスポーツとは一体何なのか、について考えるために、. スポーツ史概説、. スポーツの個別史 からスポーツの歴史を紐解く。

到達目標 / Focus and Goal

スポーツの歴史と発展を学ぶことによって、受講者の「社会・文化を見る視点」を獲得することが期待される。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	初めの豊かな社会(未開社会)のスポーツ	さまざまなエスニック・スポーツ
2回	初めの豊かな社会(未開社会)のスポーツ	スポーツの聖と俗
3回	古代社会のスポーツ	エジプト、古代ギリシア(古代オリンピック)など
4回	前近代(中世)のスポーツ	ヨーロッパ、身分社会のスポーツ
5回	前近代(中世)のスポーツ	非ヨーロッパ(アジア)のスポーツ
6回	近代のスポーツ	近代スポーツの特質、伝播、普及
7回	中間のまとめ	グループワーク、レポート提出
8回	スポーツの個別史	サッカーの起源、変遷
9回	スポーツの個別史	アメリカのスペクタテーター・スポーツ
10回	スポーツの個別史	世界の相撲
11回	スポーツの個別史	京都の都をどり
12回	後近代のスポーツ	共生原理、下降志向など
13回	スポーツの概念	意味、起源、伝播
14回	総まとめ	レポート発表、レポート提出
15回	テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	60 %	テキスト及び授業の理解度を評価する。
レポート	40 %	どの程度主体的に学習し、自ら考察しようとしたかを判定する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ史講義	稲垣正浩他編著 / 大修館書店 / 4 - 469 - 26299 - 4 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
教養としてのスポーツ人類学	寒川恒夫編 / 大修館書店 / 4 - 469 - 26552 - 7 /

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

世界の言語と文化 S

10597

担当者名 / Instructor 梁 貞模、仲井 邦佳、MUELLER BEATE、玉木 佳代子、久津内 一雄、文 楚雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

言語習得(学習)に関わる基本的な課題と論点を整理した上で、異文化理解と多文化共生の観点から、産業社会学部で開設される初修外国語学習の動機付けをも踏まえて、言語と文化をテーマにして、講義を行う。この講義ではドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語の五つの言語とそれらの言語を話す国の文化について、それぞれリレー方式で講義する。外国語、特に初修外国語を学習する意義や目的、または、国際化の観点から、異文化理解、多言語・多文化共生、平和と民族共存などについての教養を深めて欲しい。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総論	
2	総論	
3	フランス語	
4	中国語	
5	中国語	
6	中国語	
7	スペイン語	
8	スペイン語	
9	スペイン語	
10	ドイツ語	
11	ドイツ語	
12	ドイツ語	
13	朝鮮語	
14	朝鮮語	
15	朝鮮語	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	100 %	

* 定期試験として実施

* 筆記試験による評価。配点は、講義内容(各論 = 各国語)の基礎知識の確認が六割、講義内容(総論 = 第一回目講義)と関連した論述が四割。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

講義時レジュメ配布。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『言語学とは何か』	田中克彦 / 岩波書店 / 4-00-430303-6 /
『ことばと国家』	田中克彦 / 岩波書店 / 4-00-420175-6 /
『多文化主義社会の到来』	関根政美 / 朝日新聞社 / 4-02-259750-X /

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

美と芸術の論理 S

11567

担当者名 / Instructor 金 悠美

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

美や芸術という、普段もっぱら感性的にとらえ、享受しているものを学問の対象として考察し、論ずるなら、どのような論理的アプローチが可能であろうか？

当科目は、主に西洋美術を研究対象とした美学や美術史学の基本的な問題意識と概念、および方法論の解説から始める。そして、芸術 / 非芸術の区分を超えた視覚文化という広い視野のもとで「美」や「芸術」という概念や「イメージを見る」ということが文化や社会の中でどのように機能してきたかを問う今日的なトピックにまで論を進める。

到達目標 / Focus and Goal

単に芸術家や美術作品についての知識を得るのではなく、美や芸術について自分で思索するための足がかりを得ることが当科目の目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	ガイダンスと導入	
	様式論(1)	
	様式論(2)	
	様式論(3)	
	意味論(1)	
	意味論(2)	
	中間期の小テストとまとめ	
	モダニズム論(1)	
	モダニズム論(2)	
	モダニズム論(3)	
	視覚論(1)	
	視覚論(2)	
	視覚文化論(1)	
	視覚文化論(2)	
	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	50 %	持ち込み不可の記述形式で、後半の講義内容の理解度と論述力を問う。
その他	50 %	中間期の授業中に行う持ち込み不可のテスト。記述問題と選択問題から成り、前半の授業内容の理解度と論述力を問う。

出席は取らず、出席点もありません。ただし、それは出席しなくてもよいという意味ではなく、受講生は全授業出席していることを前提としています。よって、正当な理由のない欠席・遅刻・途中退出によって授業の進行についていけなくなったり、連絡事項を聞き逃していたりした場合、その責任は自分にあることを理解しておいてください。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

参考文献や配付資料は授業用ホームページで公開していますが、数多い作品を比較検討する授業内容の性質上、自学自習だけでテストに臨むことはかなり難しいと思われます。授業に出て、作品画像をよく観察し、板書を写すだけでなく素速くメモを取っていくことが必要でしょう。

教科書 / Textbooks

一冊で授業内容がカバーできる教科書はありません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
美学と現代美術の距離	金悠美 / 東信堂 / /
カラー版 西洋美術史	高階秀爾監修 / 美術出版社 / /

カラー版 20世紀美術 末永照和監修 / 美術出版社 / /

芸術学を学ぶ人のために 太田喬夫編 / 世界思想社 / /

ヴィジュアル・カルチャー入門 ジョン・A・ウォーカー / サラ・チャップリン / 晃洋書房 / /

その他、授業中に紹介し、参考文献リストを授業用ホームページでも順次公開していきます。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

授業用ホームページ <http://mypage.odn.ne.jp/home/artichoke>

その他 / Others

文学と社会 S

15203

担当者名 / Instructor 辻本 千鶴

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

文学作品は一個の自立した世界であるが、作者の思想・感性を反映したものである。そして作者は、彼の生きた時代と社会から制約や影響を受けている。本講義では、(社会のなかの文学)という視点を重視する。近代化を使命とした明治という時代が、当時の人々にもたらした葛藤や歪みを、文学作品の読解を通して感得して行きたい。合わせて明治文学史の流れも学習する。

到達目標 / Focus and Goal

講義形式で進行し、受講生に発言を求めめる機会は少ないと思われる。受け身に終始しないように、受講中のノート筆記、参考文献を読む等、地道な学習態度を期待する。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第一回	概説(イタロ・カルビーノ『なぜ古典を読むのか』)	文学作品の価値
第二回	森鷗外『舞姫』	立身出世と恋
第三回	森鷗外『舞姫』	「まことの我」の発見
第四回	森鷗外『舞姫』	人物像
第五回	森鷗外『舞姫』	素材と虚構
第六回	樋口一葉『たけくらべ』	夭折の女流作家
第七回	樋口一葉『たけくらべ』	成長の悲哀
第八回	樋口一葉『たけくらべ』	語り手の機能
第九回	樋口一葉『たけくらべ』	「闇桜」
第十回	夏目漱石『三四郎』	反自然主義文学
第十一回	夏目漱石『三四郎』	明治の青年
第十二回	夏目漱石『三四郎』	新しい女
第十三回	夏目漱石『三四郎』	文明批評
第十四回	まとめ 明治文学概観	近代化の問題点
第十五回	まとめ 現代への視座	現代と文学

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	80 %	講義内容の理解・把握の程度を問う。更に所与の問題に関して自分で考察を深めている場合に高く評価する。
日常点	20 %	コミュニケーションペーパーを介して受講中の学習活動の積極性を問う。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
明治文藝名作散歩	みぎわ書房編集部編 / 白地社 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
森鷗外『舞姫』作品論集	長谷川泉編 / クレス出版 2000年10月 / /
樋口一葉『たけくらべ』作品論集	高橋俊雄編 / クレス出版 2001年7月 / /
開花・恋愛・東京 漱石・龍之介	海老井英次 / おうふう 2001年3月 / /

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

文学と社会 N

16027

担当者名 / Instructor 瀧本 和成

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

本講義は、明治20年代、国会開設期の文学を取り上げる。詩歌、小説のジャンルで浪漫主義が幕開けしていく時期に焦点を絞り、その萌芽と成立の過程をテキストに収録された作品を中心に丁寧に読み進めたい。

到達目標 / Focus and Goal

北村透谷、島崎藤村の詩から森鷗外の小説「舞姫」の発表に至る浪漫主義の系譜を中心に考察する。その際、尾崎紅葉が主宰した硯友社と「我楽多文庫」、徳富蘇峰が興した民友社と「国民之友」などの文学運動についても当時の時代状況、芸術環境を視野に入れつつ、言及したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

明治文学史
言語表現論

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	明治憲法 の成立と近代社会(1)	伊藤博文、井上毅、中江兆民、板垣退助、自由民権運動
第2回目	明治憲法 の成立と近代社会(2)	伊藤博文、井上毅、中江兆民、板垣退助、自由民権運動
第3回目	浪漫主義と「文学界」(1)	北村透谷、島崎藤村、馬場孤蝶、星野天知、平田秃木
第4回目	浪漫主義と「文学界」(2)	北村透谷、島崎藤村、馬場孤蝶、星野天知、平田秃木
第5回目	北村透谷の詩と詩論	「厭世詩家と女性」
第6回目	人生相渉論争 透谷と愛山	「人生に相渉るとは何の謂ぞ」「凡神的唯心的傾向に就て」
第7回目	森鷗外「舞姫」 その魅力と評価をめぐって	浪漫主義と初期ドイツ三部作
第8回目	森鷗外「うたかたの記」、「文づかひ」	浪漫主義と初期ドイツ三部作
第9回目	訳詩集「新体詩抄」	外山正一、矢田部良吉、井上哲次郎
第10回目	訳詩集「於母影」(1)	近代詩の誕生
第11回目	訳詩集「於母影」(2)	近代詩のリズム
第12回目	民友社の文学	徳富蘇峰
第13回目	硯友社の文学 「我楽多文庫」の発刊	尾崎紅葉、山田美妙、泉鏡花
第14回目	紅露の時代	紅葉と露伴
第15回目	まとめ	近代文学史の中の位置付け

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

講義で取り上げる作品は積極的に読むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	90 %	
日常点	10 %	

定期試験の成績を主とし、これに出席等を加味して総合評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

参考書・研究書を読むときは、鵜呑みにしないで批判摂取することを望む。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『明治文芸館』	上田博・瀧本和成編 / 嵯峨野書院 / 4-7823-0368-8 C3395 / 2002・10刊

テキスト収録の作品読解を中心に講義形式で行うが、必要資料はその都度プリント配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『明治文学史』	上田博・瀧本和成編 / 晃洋書房 / 4-7710-1060-9 C3091 / 1998・11刊

上記以外の参考書・研究書等は講義中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

文化人類学入門 SA

12261

担当者名 / Instructor 福浦 一男

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

文化人類学は人間の科学です。世界のなかでも地域によって人々の暮らしには大きな違いがあります。人間社会はさまざまな文化によって成り立っていますが、そこにはいくつかの共通する概念があります。宗教もそのひとつです。本年度は、ポウイのテキストを読み進めながらさまざまな宗教にかんする諸概念について学んでゆきます。

到達目標 / Focus and Goal

- ・文化人類学の諸概念を通して、さまざまな宗教事象を理解できる。
- ・宗教にかんするさまざまな事例を通して、人間社会の多様性を理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

世界各地の多様な文化とその現状を知ることができる科目を積極的に履修しておいてください。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	理論と論争	
第2回	理論と論争(続き)	
第3回	理論と論争(続き)	象徴としての身体
第4回	象徴としての身体(続き)	
第5回	象徴としての身体(続き)	
第6回	諸境界の維持と変容 宗教的アイデンティティの政治	
第7回	諸境界の維持と変容 宗教的アイデンティティの政治(続き)	性・ジェンダー・聖なるもの
第8回	性・ジェンダー・聖なるもの(続き)	
第9回	宗教・文化・環境	
第10回	宗教・文化・環境(続き)	
第11回	宗教・文化・環境(続き)	儀礼理論・通過儀礼・儀礼的暴力
第12回	儀礼理論・通過儀礼・儀礼的暴力(続き)	
第13回	儀礼理論・通過儀礼・儀礼的暴力(続き)	シャーマニズム
第14回	シャーマニズム(続き)	妖術と邪視
第15回	妖術と邪視(続き)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	30 %	定期試験
日常点	70 %	出席

進度については、変更する場合があります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

日頃からメディア・文献を通して、広く世界各地の文化に対する関心を持っていてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
The Anthropology of Religion: An Introduction	BOWIE, Fiona / Blackwell / 1-4051-2105-X / Second Edition

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
文化人類学を学ぶ人のために	米山俊直・谷泰(編) / 世界思想社 / 4-7907-0388-6 /
文化人類学事典	石川栄吉・梅棹忠夫・大林太良・蒲生正男・佐々木高明・祖父江孝男(編) / 弘文堂 / 4335560842 /
文化人類学最新術語100	綾部恒雄(編) / 弘文堂 / 4335560990 /

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

出席確認について

- ・受講者は、QRコードのシールを必ず持参してください。
- ・QRコード未貼付の出席票は無効となります。
- ・授業中、TAが出席票を回収します。
- ・授業後の出席票提出はいかなる理由があっても認めません。

授業の概要 / Course Description

この「文化人類学入門」コースにおいて、私は二つの主張をしたい。その第一は、「文化」とは「全体性」を持っていることである。このことは、現代に生きる我々は、余りにも細分化された分業体制のなかで、そのバランスを大いに失っている警鐘となるであろう。そして第二に、現在の文化人類学者は、未開地域の探検家でも猟奇的専門家でもなく、グローバル化現象の蔓延する現代社会において様々な問題に実践的学者として果敢に挑戦していることをも論じてみたい。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

入門コースであるから、受講に必要な知識・スキルなどは不要である。現在の我々は、全ての物事を地球的規模で考える必要があるという見方と、近い将来世界のどこかへ出て活躍したいという希望を持つ学生さんを心から歓迎したい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義方針と講義目的: 野外科学としての文化人類学の成立と「文化の全体性」	フィールド・サイエンス、植民地主義、アームチェア人類学者、E.タイラー、J.フレーザー
2	先史人類学の入門: サルからヒトへと進化と最近の分子生物学的な検証	C.ダーウィン、『種の起源』、サバンナ化、直立二足歩行、脳の発達、道具の使用、言葉の発明、DNA比較
3	言語人類学の入門: 類人猿の言語と人間の言語との本質的相違	シニフェ、シーニュ、シニフィアン、N.チョムスキー、言語コンピテンス、サイン・ランゲージ、野生人
4	家族起源論入門: インセスト・タブーの成立とその理由、現代の家族内性的虐待の考察	インセスト・タブー、親子相姦、性の自家消費、レヴィ＝ストロース、女によるコミュニケーション、限定交換、一般交換
5	社会人類学入門: 親族名称・婚姻研究における進化論的影響と親族名称調査法	L.H.モーガン、『古代社会』、G.P.マードック、クローバー＝マードック方式、エスキモー型、イロコイ型、成分分析
6	エスノグラフィー入門: B.マリノウスキーのトロリアンド諸島の儀礼的贈与交換	『西太平洋の遠洋航海者』、クラ、ギムワリ、ムワリ、ソウラヴァ、互酬性の規範、呪術信仰
7	エスノグラフィ的ビデオ鑑賞: 『ヌアー族』	E.ブリチャード、婚資金、死霊結婚、女性婚
8	民俗生殖理論入門: 未開社会から贈る現代生殖医療への倫理的助言	エミック、エティック、ジェニター、ジェニトリックス、ベイター、メイター、代理母出産
9	経済人類学入門: 沈黙貿易、贈答儀礼から貨幣市場と利子の発達	K.ボラニー、M.モース、ハウ、贈与の3義務、ポトラッチ、M.サーリンズ、3種類の互酬性、貨幣と利子の誕生
10	日本文化特殊論入門: 神道的特質と現在日本の貨幣市場 / 贈答慣行の互助的並存の関連性	言霊信仰、神人合一、ケガレの浄化儀式、シントー・メンタリティ、認知的曖昧性、同調競争、中元歳暮、賄賂
11	心理人類学入門: 通過儀礼、文化化 / 社会化、「文化とパーソナリティ」	F.ヘネップ、R.ベネディクト、G.フロイド、オイデプス・コンプレックス、文化化 / 社会化、基本的人格、社会的役割
12	政治人類学入門: 『文明の衝突』時代の複合民族国家の人種差別とエスニック紛争	一神教、多神教、人種、民族、エスニック集団、経済的階層、大衆稼働力、カリスマ
13	ネパール都市人類学入門: 観光都市ポカラの文化変容と貧困、その撮影ビデオ鑑賞	ヒンドゥー教、カースト制度、カースト通婚、サンスクリット化、マオイスト、スクンバシ
14	フィールドワーク入門: 異文化コミュニケーションによる自分探しの旅、文化差を越えた共感の楽しさ	ラボール、参与観察、インフォーマント、フィールドノート、情報通信機器、ビデオ撮影、アンケート調査
15	包括的質問応答とビデオ鑑賞: 沢木耕太郎『深夜特急(アジア編)』	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	70 %	主に記述式の問題です。
レポート	30 %	出席率50%未満、出席点が0点。レポート提出必要。
日常点	30 %	出席率50%以上、10～30点出席点。レポート提出不必要。
その他	0 %	毎回の講義で出席を取ります。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks**

必要な教材はプリントにして配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ヒトと文化	江口信清 / 八千代出版 / 4-8429-0520 /
「貧困の文化」再考	江口信清(編) / 有斐閣 / 4-641-19938-8 /
生活世界としての「スラム」	藤巻正巳(編) / 古今書院 / 4-7722-4024-1 /

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

企業と社会 S

13094

担当者名 / Instructor 玉井 信吾

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

日本経済を支えている会社のおかれている状況を理解するためには、会社というものの全体像をつかみ、その仕組みや運営・働きを知ることが必要である。このためには、企業に関する基礎的知識を確実に習得することである。さらに、企業間関係や企業のグローバル化などの現代企業の活動、そして、直面する諸問題について理解しておくことが必要である。

到達目標 / Focus and Goal

上記「授業の概要」を参照のこと。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1週	オリエンテーション	
第2週	会社とは何か/会社の種類/会社以外の事業組織	
第3週	株式会社の誕生・普及/資本と経営の分離	
第4週	会社の組織・制度/日本の株式会社・世界の株式会社	
第5週	資金調達メカニズム/株式公開・株式上場	
第6週	企業格差(大企業と中小企業)	
第7週	事業の縮小・整理・倒産	
第8週	企業経営を支える制度・企業環境	
第9週	企業間関係の諸類型/財閥と企業集団	
第10週	企業グループ/下請企業グループ	
第11週	日本企業の多国籍化/日本的経営の海外移転	
第12週	外資系企業/世界の中の日本企業	
第13週	企業の社会的責任・貢献/環境問題など	
第14週	総括	
第15週	(進度調整用の予備時間)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

日本経済新聞の産業や経済などの記事を読むことを薦める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	70 %	記述&論述形式とする。詳細は講義中に指示。
レポート	20 %	VTR教材を見た上で、設問に解答してもらう場合がある。
日常点	10 %	日常点は小テストではなく、質問・感想票(=任意提出)による。

期末試験(評価全体の70%以上を占める)による。VTR教材を通じた小レポートなど求めることもあり得るが、あくまで上記試験にとっての補完的評価材料という位置づけを越えることはない。出席点は10%程度は考慮する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
企業形態論(第2版)	小松章 / 新世社 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本型コーポレート・ガバナンス	伊丹敬之 / 日本経済新聞社 / /
テキスト現代企業論	坂本恒夫ほか / 同文館出版 / /
西武事件	吉野源太郎 / 日本経済新聞社 / /
日米欧の企業経営	吉森賢 / 放送大学教育振興会 / /

上記以外の参考文献については講義中に指示する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

日本経営学会 --- <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsba/>
組織学会 --- <http://wwwsoc.nii.ac.jp/aos/>

その他 / Others

企業と社会 N

20290

担当者名 / Instructor 玉井 信吾

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

日本経済を支えている会社のおかれている状況を理解するためには、会社というものの全体像をつかみ、その仕組みや運営・働きを知ることが必要である。このためには、企業に関する基礎的知識を確実に習得することである。さらに、企業間関係や企業のグローバル化などの現代企業の活動、そして、直面する諸問題について理解しておくことが必要である。

到達目標 / Focus and Goal

上記「授業の概要」を参照のこと。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1講	オリエンテーション	
第2講	会社とは何か/会社の種類/会社以外の事業組織	
第3講	株式会社の誕生・普及/資本と経営の分離	
第4講	会社の組織・制度/日本の株式会社・世界の株式会社	
第5講	資金調達メカニズム/株式公開・株式上場	
第6講	企業格差(大企業と中小企業)	
第7講	事業の縮小・整理・倒産	
第8講	企業経営を支える制度・企業環境	
第9講	企業間関係の諸類型/財閥と企業集団	
第10講	企業グループ/下請企業グループ	
第11講	日本企業の多国籍化/日本的経営の海外移転	
第12講	外資系企業/世界の中の日本企業	
第13講	企業の社会的責任・貢献/環境問題など	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

日本経済新聞の産業や経済などの記事を読むことを薦める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	70 %	詳細は追って指示する。
日常点	30 %	出席票 (= 質問/感想票) の提出を求める。

レポート*作成(評価全体の70%程度)による。日常点の一環としてVTR教材を通じた小レポートなど求めることもあり得るが、あくまで上記レポート*にとつての補完的評価材料という位置づけである。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
企業形態論(第2版)	小松章 / 新世社 / /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本型コーポレート・ガバナンス	伊丹敬之 / 日本経済新聞社 / /
テキスト現代企業論	坂本恒夫ほか / 同文館出版 / /
西武事件	吉野源太郎 / 日本経済新聞社 / /
日米欧の企業経営	吉森賢 / 放送大学教育振興会 / /

上記以外の参考文献については講義中に指示する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

日本経営学会 --- <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsba/>

担当者名 / Instructor 吉垣 実

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

本講義では、企業社会における法の機能とその果たす役割について学びます。ビジネス法の学習が中心となります。しかし、「ビジネス法」という名前の法律が「六法全書」の中に存在するわけではありません。

「ビジネス法」とは、市場経済体制のもと、利益を得ることを目標に企業が行う生産から消費に至るまでの経済活動とこれに関連する金融・保険、さらには、情報通信および各種サービスなどの諸活動を推進または規制する法律の総体であるということが出来ます。それゆえ、ビジネス法を学ぶということは、企業活動に関連する法律全般、とくに民法および会社法、労働に関する法律、さらには、紛争の予防や解決に関する法律などを広く学ぶことを意味することになります。

到達目標 / Focus and Goal

みなさんは、法律を学ぶというと、法律の条文を丸暗記したり、裁判所が示した判断をおぼえる勉強だと思っ

ていませんか。本講義では、まず法律学の常識・非常識、ビジネスにおける法律の重要性、ビジネス法の輪郭などを理解してもらい、最終的には、大学生として最低限知っておくべきビジネスに関する法の素養を習得することを目標にします。全講義終了後には、みなさんが今まで抱えてきた法律のイメージが少しでも変わっていただければ願っています。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

なるべく多くの法律科目を履修して欲しいと思います。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ビジネス法への招待	民法、会社法、民事訴訟法
第2回	六法に親しもう	六法全書
第3回	契約と所有権	民法
第4回	有効と無効	民法
第5回	意思表示(1)	
第6回	意思表示(2)	民法
第7回	代理	民法
第8回	自然人と法人	民法
第9回	会社と法	会社法、商法
第10回	労働者と法	労働法
第11回	紛争予防と解決	民事訴訟法、民事執行法、民事保全法
第12回	ケース・スタディー	ビジネス紛争の解決
第13回	ケース・スタディー	ビジネス紛争の解決
第14回	ケース・スタディー	ビジネス紛争の解決
第15回	最終講義日試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	100 %	講義内容を理解しているか否かを判断基準にします。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

毎回配布されるレジュメに沿って勉強することを勧めます。

教科書 / Textbooks

とくに使用しませんが、六法を必ず持参してください。

参考書 / Reference Books

講義中に指示します。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

講義中に指示します。

その他 / Others

現代日本の政治 S

13044

担当者名 / Instructor 赤澤 史朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

日本政治の現状を理解することに焦点を当てながら、その背景となる制度や歴史に関する基本的知識・考え方の習得に力点をかけて講義します。基本的にはテキスト『現代日本政治』（五十嵐仁著）に沿って授業は展開しますが、テキストよりもっと詳しく説明する部分もあります。毎回レジュメを出しますが、その時々新聞記事のトピックスも紹介、解説します。

到達目標 / Focus and Goal

現代日本政治の基本的な枠組みについての理解を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

科目としてはありません

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	政治とは何か(テキストの序章)	紛争と解決
第2回	正統性と権力(pp.21～32)	権力の実態説、権力の関係説
第3回	政党、圧力団体と議会制度(pp.32～46)	代表
第4回	日本の国会(pp.61～72)	国会の種類
第5回	選挙制度と日本の選挙(pp.46～51、104～110)	小選挙区比例代表並立制
第6回	内閣制度(pp.72～91)	議院内閣制
第7回	族議員と予算(pp.91～104)	政財官
第8回	日本の政党と派閥(pp.110～127)	優勢政党制
第9回	政権交代の課題(pp.129～140)	二大政党制
第10回	マス・メディアと政治(pp.51～54)	マス・メディアの二面性
第11回	地方自治(pp.187～193)	団体自治、住民自治
第12回	象徴天皇制(pp.55～58)	国事行為、公的行為
第13回	アジアと日本(pp.162～170)	冷戦終焉
第14回	講義のまとめと補足	
第15回	定期試験日	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

新聞の政治欄、社会欄を読むようにしてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	100 %	基本事項の理解度

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

授業を聞き、ノートを取る

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代日本政治』	五十嵐仁 / 八潮社 / ISBN4-86014-100-8 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

現代の経営 S

11060

担当者名 / Instructor 守屋 貴司

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

本講義では、まず、社会と企業の関係について学び、経営学の中心課題の一つである「組織と個人」の問題について考察します。その上で、今日、経営学の中心となっているアメリカ経営学の基礎理論の内容・意義・問題点について講義をおこなうと同時に、日本において独自の形成・発展をみせた批判的経営学について、紹介・学習し、今日の企業経営の抱える問題点について明らかにします。その後、経営学の基本問題である経営戦略、企業組織、作業組織と生産システム、日本の経営などの内容と課題について、今日の実態をまじえて講義をおこないます。また、近年話題となってきた企業のアウトソーシングや女性の企業への社会進出、「男女共同参画」問題、NPO経営について講義をおこない、二十一世紀に向けて研究領域をますます広げつつある経営学の最新動向について紹介をします。

到達目標 / Focus and Goal

本講義の到達目標の第一は、学生諸君には、これら経営学の基礎から新潮流までも学ぶことを通して、企業経営現象や「企業と社会」を分析する目(分析視角)を獲得してもらうことです。

また、本講義の到達目標の第二は、企業経営に関する基本的なトピックスについて学び、現代の経営の基本問題を理解することです。

本講義の到達目標の第三は、就職活動時の企業を選択する眼を養ってもらうことも大きな目的です。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

産業社会学

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション - 企業、経営、社会を取り巻く問題を考えよう! -	企業 経営 企業社会
2	組織と個人の関係 - アメリカ経営学の基礎理論から見る! -	アメリカ経営学 バーナード マズロー 企業組織志向 生活嗜好
3	批判経営学の理論と方法 - なにを批判すべきか? -	批判経営学 企業経営の生み出す矛盾 CSR
4	市場変化と経営戦略・国際経営戦略	経営戦略 国際経営戦略 トヨタ ホンダ
5	企業組織改革の歴史的展開 - 総合商社を事例として -	三井物産 住友商事 三菱商事
6	作業組織と生産システム - 現代企業における労働の社会的統合メカニズムの変化と管理 -	トヨタ生産システム JIT
7	企業の人事・労務管理の変化	職能資格制度 人間関係管理 成果主義 年俸制度
8	日本企業のリストラクチャリングと失われた10年	リストラクチャリング 組織改革 日本の経営
9	女性の社会進出と就業1 - 企業の育児支援 -	ファミリーフレンドリー
10	女性の社会進出と就業2 - 企業を選択する眼を養おう! -	キャリア計画 キャリアデザイン キャリア開発
11	女性の社会進出と就業3 - 性別役割分業と男女共同参画社会 -	性別役割分業 少子化社会
12	中小企業の経営と活性化問題	アウトソーシング ベンチャー企業
13	コミュニティビジネスと社会的企業	コミュニティビジネス 社会的企業
14	むすび - コミュニティの復権・再生と経営 -	伝統的コミュニティ 現代的コミュニティ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

随時、テーマに関連する参考文献について紹介してゆきますので、それについて読むことを推奨する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	60 %	筆記テストを実施します。
日常点	40 %	出席及び小テストをおこないます。

評価方法の比率に関しては、学生諸君の理解度を考慮して、変化させる可能性があります。講義の中で、変化させる場合は、明らかにします。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

経営学辞典を携帯し、わからない単語については適時ひくようにしてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
変容期の企業と社会	木田・浪江・平澤・守屋編 / 八千代出版 / 4-8429-1277-4 /

教科書の内容とともに、それ以外の点についても、随時、プリントなどを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代経営学の再構築	山崎敏夫 / 森山書店 / / 批判経営学の最新書
批判経営学 - 学生・市民と働く人のために	丸山恵也 / 新日本出版 / / 企業経営の持つ問題点が指摘されています。
世界の女性労働	柴山恵美子・藤井治枝・守屋貴司編著 / ミネルヴァ書房 / / 世界の女性の社会進出と就業実態を解明しています。
総合商社の経営管理	守屋貴司 / 森山書店 / / 企業組織の変容を解明しています。
経営学総論	佐護誉・渡辺峻編著 / 文真堂 / /
毎回の講義に関する参考文献については、適時、紹介をおこなってゆきます。	

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

現代の国際関係と日本 S

12264

担当者名 / Instructor 末近 浩太

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

サブ・タイトルは「現代国際関係のキーワード」。国際関係の基礎を学ぶ授業です。

現下の国際関係は、米国主導のグローバリズムとユニラテラリズムに特徴づけられる「ポスト・ポスト冷戦期」とも呼べる時代に突入しつつあります。本講義の目的は、日本を取り巻く今日の国際関係を読み解くためのキーワードを把握し、その上で、新たに立ち現れる問題群に対して、私たちに何ができるのか(何ができないのか)を議論し、21世紀の国際関係のあり方を考えていくことです。

到達目標 / Focus and Goal

次の4点です。

- ・現代の国際関係(日本を含む)の主なる特徴を把握する。
- ・現代の国際関係および日本が直面している諸問題を理解する。
- ・国際関係論の諸理論についての基礎知識を獲得する。
- ・21世紀の国際関係に主体的に関わっていくための、想像力・発想力・構想力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	9.11, ユニラテラリズム, 「帝国」, 日米関係
2	現代の国際秩序の成立と変容	国民国家, 冷戦構造, 勢力均衡, グローバリゼーション
3	ネイションとナショナリズムの新局面	ナショナリズム論, エスニック紛争, 「靖国問題」
4	台頭する宗教政治?	宗教復興, 原理主義, 「新しい冷戦」, 「文明の衝突」
5	グローバル・テロリズムの虚像と実像	イスラーム主義, 大量破壊兵器, 安全保障
6	世界化する地域紛争、地域化する国際紛争	パレスチナ問題, 自衛隊の海外派遣, 憲法第9条
7	ディスカッション1: グローバリゼーションは私たちに平和と繁栄をもたらすか?	
8	天然資源をめぐる政治経済	戦略地政学, レンティア国家論, 南北問題
9	リージョナリズムと地域統合	EU, ASEAN, OIC, 日本と「アジア」
10	国際機構と非国家アクター	国際レジーム論, NGO/NPO, 国際開発協力, 市民運動
11	民主化と民主主義	民主化外交, グローバル・ガヴァナンス論, 市民社会論
12	メディアと国際政治	言説と権力, IT, 「イラク戦争」, メディアリテラシー
13	ディスカッション2: なぜ市民運動は「イラク戦争」をとめることができなかったか?	
14	まとめ: 21世紀の国際関係と日本	
15	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	50 %	
日常点	50 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

日常的に新聞やテレビ、インターネットのニュースを通して世界の動きをフォローし、国際問題への関心を高めることが、講義内容をよりよく理解できる手だてとなります。

毎回の授業では質問票を配布するので、積極的に質問やコメントを寄せて、主体的に授業に取り組んでほしいと思います。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で1話完結のプリントを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
国際政治事典	猪口孝, 田中明彦ら編 / 弘文堂 / 4-335-46023-6 /
新・国際政治経済の基礎知識	田中明彦, 中西寛編 / 有斐閣 / 4-641-18302-3 /
増補版・国際関係研究入門	岩田一政, 小寺彰, 山影進, 山本吉宣編 / 東京大学出版会 / 4-13-032037-8 /

毎回の講義プリントの「参考書ガイド」を参照してください。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

“International Relations Site” (カナダ、ブリティッシュ・コロンビア大学図書館作成の国際関係論リンク集)
<http://www.library.ubc.ca/poli/international.html>

その他 / Others

第7回と第13回のディスカッションは、受講生の人数や関心にあわせて変更・調整する場合があります。

現代の世界経済 S

15205

担当者名 / Instructor 杉本 良雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

私たちの日常生活が世界経済との繋がりを深めていり今日、経済をグローバルな視点から見るのがますます重要となってきた。本講義では、(1)激動する現代世界経済の動きを理解するうえで重要な基礎概念である、グローバル化、国際貿易、WTO、自由貿易協定、多国籍企業、食糧問題、地球環境問題、戦争などを理解する。(2)世界経済の動向が日本経済にどのような影響を及ぼしているか、グローバル時代における日本の進むべき道を市民社会の観点から考える。

到達目標 / Focus and Goal

世界経済の基礎的概念を理解すると同時に、問題の背景や原因、現象と本質を理解する力を身につけることにある。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

世界経済、発展途上国経済、発展途上国政治に該当する科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	テーマ 総括的導入講義	キーワード グローバル化、地域化
第2回目	テーマ 国際貿易	キーワード 国際市場価格、価格破壊
第3回目	テーマ WTO	キーワード ダンピング防止措置、セーフガード
第4回目	テーマ 自由貿易協定	キーワード FTA、地域協力
第5回目	テーマ 多国籍企業(1)	キーワード 企業内国際分業、国際移転価格
第6回目	テーマ 多国籍企業(2)	キーワード 対日直接投資、外資系企業
第7回目	テーマ 国際労働力移動	キーワード 外国人労働者、オフショア戦略
第8回目	テーマ 世界の食料問題(1)	キーワード アグリビジネス、食料支配
第9回目	テーマ 日本の食料問題(2)	キーワード 国際分業、穀物自給率
第10回目	テーマ 地球環境問題(1)	キーワード 地球温暖化、熱帯雨林破壊
第11回目	テーマ 地球環境政策(2)	キーワード 京都議定書、循環型経済社会
第12回目	テーマ 資源問題	キーワード 石油、枯渇性資源
第13回目	テーマ 地域主義	キーワード EU、アジア共同体
第14回目	テーマ 経済の軍事化	キーワード 帝国、イラク戦争
第15回目	テーマ 世界市民社会	キーワード 社会的責任、NGO、NPO

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	80 %	基礎的な概念の把握、問題の背景と本質の把握
レポート	20 %	ビデオの要約力、コメント力

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
世界経済入門 第3版	西川潤 / 岩波書店 / 4 - 00 - 430894 - 1 /

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代世界経済をとらえる	関下稔ほか編 / 東洋経済新報社 / /
途上国の現在 - 国家・開・市民社会	松下洵編 / 法律文化社 / /

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

国際化と法 S

11764

担当者名 / Instructor 井出 真也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

国際社会においてはたえず紛争が生じているが、本講義ではこのような国際紛争が、主に法的にどのように理解・解決されているのかにつき、検討を行う。国際人権や領土問題などの具体的事例にも触れながら、これらの問題を法的に整理し、考察する。

到達目標 / Focus and Goal

- (1) 本講義を通じて、国際問題に少しでも関心を持ってもらえるようになれば幸いである。
 - (2) 本講義を通じて、国際社会における価値観の多様性に触れてもらいたい。
- この2点が、本講義における到達目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

「国際関係論」などの国際系及び「現代社会と法」などの法律系の一般教養科目を平行して履修することにより、本講義に対する理解がいっそう促進されると思われる。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	【キーワード】9.11テロ、自衛権
第2回	人権の歴史(1)	【キーワード】人権概念の誕生、産業革命、自由権、社会権
第3回	人権の歴史(2)	【キーワード】日本への人権概念の導入、大日本帝国憲法、法律の留保
第4回	国際人権保障(1)	【キーワード】第一次世界大戦、国際連盟
第5回	国際人権保障(2)	【キーワード】第二次世界大戦、国際連合、サンフランシスコ平和条約
第6回	国際人権保障(3)	【キーワード】規約人権委員会、最終所見とその効力
第7回	国際人権保障と日本	【キーワード】日本における人権保障システム、日本の外国人問題、裁判官教育
第8回	性別と国際人権(1)	【キーワード】国際結婚、国際離婚
第9回	性別と国際人権(2)	【キーワード】ドメスティックバイオレンス(DV)、北京女性会議、DV防止法
第10回	国家領域(1)	【キーワード】領土・領空、国家主権、国際刑事管轄権
第11回	国家領域(2)	【キーワード】海洋、船舶の通航、不審船問題
第12回	国際化区域	【キーワード】南極、国際河川、汚染防止
第13回	日本の領土問題(1)	【キーワード】北方領土問題、竹島問題、尖閣諸島問題
第14回	日本の領土問題(2)	【キーワード】領土問題の法的解決に向けて、国際司法裁判所
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

新聞の国際欄などに積極的に目を通しておくと、本講義の理解が促進されると思われる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	100 %	講義したテーマにつききちんと理解した上で、自分の考えを論理的に展開できるかどうかを評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

国際問題は、用語等が難しく、最初はとっつきにくく感じられると思われるが、イスラム問題や資源問題など、自分の少しでも関心のある問題について、インターネットや読書等を通じて、自分で積極的に調べてみることで、国際問題の理解には大事である。

教科書 / Textbooks

特に指定するテキストはない。テーマに併せて随時レジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

松井芳郎、『国際法から世界を見る－市民のための国際法入門』、東信堂
 松井芳郎、『テロ、戦争、自衛』、東信堂

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

<http://www.unic.or.jp> (国連解説日本語サイト)

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken.html> (外務省人権解説サイト)

その他 / Others

持続可能な開発 GA

16084

担当者名 / Instructor 大槻 知史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「持続可能な開発」とは、1992年の国連環境開発会議の際に提言された用語であるが、現在では、地球環境問題だけでなく、途上国の開発、人口減少社会における都市や地域社会の維持・発展、伝統文化・まちなみの維持など、様々な分野で「持続可能性」が重要となってきた。本稿では、これら、様々な「持続可能な開発」について、近年重視されている背景や、対応策、持続可能性を達成する上での課題などについて学ぶとともに、実際の現場で「持続可能な開発」に携わっておられる方の生の意見を伺い、自分たちが普段の生活の中で「持続可能な開発」にどのように関わっていくことが可能かを考える。

到達目標 / Focus and Goal

- ・「持続可能性」が近年重要視される理由と、達成に向けた課題を理解する
- ・「持続可能な開発」を達成するためには、経済的な解決手段だけでなく、人々の社会的なつながりや信頼（ソーシャルキャピタル）が重要であることを理解する。
- ・様々な「持続可能な開発」を達成するために、どのように関わっていくことができるのかを、自分たち自身で考え、理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4月10日	イントロダクション: そもそも「持続可能」「開発」とはどういう意味なのか。なぜ今、各分野で「持続可能性」が重視されているのかを考える。その上で、本講義における「持続可能な開発」へのアプローチの仕方を理解する。	持続可能性 貧困問題と環境問題 開発と発展 ソーシャルキャピタル 地域づくり 経済的手法
4月17日	地球温暖化問題(先進国vs途上国を超えられるか): 地球温暖化問題についてその概要と各国の対応を学ぶ。その上で、CO2排出に対する先進国と途上国の対立に注目して、排出権取引やCDM、共同実施といった京都プログラムがこれらの解決につながるかどうかを検討する。	温室効果ガス 京都議定書 排出権取引 CDM 共同実施
4月24日	生物多様性の確保(種の保存とマイノリティの権利): 生物多様性条約を踏まえて種の保存に向けた取り組みがなされているが、一方、条約の結果として、先住民の資源利用が抑制され、伝統的な文化や生活の破壊が懸念される事態も起きている。彼らの権利を守りつつ、種の保存を行うための方法について考える。	生物多様性 先住民 文化 種の保存 種の利用
5月1日	地球環境問題と日本の役割(得意分野と苦手分野): 公害問題やオイルショックを乗り越えてきた日本は、地球環境保全技術については高いレベルにある。一方で日本のODAは長期的な視点に立った支援は不得意である。これからの日本が、地球環境問題の解決において主導的な立場をとるために、どのような対応・支援が必要かを考える。	公害 オイルショック 窒素酸化物 ODA 技術支援 要請主義
5月8日	環境保全と企業(社会的貢献とビジネスチャンス): 現在の先進国においては企業活動をする上で環境への配慮が不可欠となっている。環境保全をビジネスチャンスと捉えたり、環境保全を目的とした起業の動きもみられる。一方で、企業の経済活動が環境破壊の遠因となることも依然として多い。	企業の社会的責任 エコビジネス フェアトレード アディダス 児童労働
5月15日	貧困問題と環境問題(貧困はなぜ生まれるのか?): そもそも「貧困」とは何なのか? 何をもちて貧困でなくなるのか。経済指標や人間開発指標、アマルティア・センの議論などを踏まえて整理をする。あわせて、貧困が発生する原因、貧困がなくなる原因、貧困と環境破壊の悪循環について考える。	貧困と環境、人間開発指標、ケイバビリティ、資源の呪い、焼畑
5月22日	日本のODAの特色と課題(要請主義のメリットと限界): 「日本のODAは役に立たない」とよく言われるが本当にそうなのか。今後どのように改善すべきなのか。「要請主義」「自助努力」という日本のODAのコンセプトを踏まえながら、今後の日本のODAのあり方について考える。	ODA 要請主義 自助努力 国益 プログラムベース プロジェクトベース
5月29日	開発資源としてのソーシャルキャピタル(人と人とのつながりが果たす役割): 近年、話題となっているスモールワールドネットワークの議論を前提に、持続可能な開発を行うためには経済的手段のみならず、ソーシャルキャピタル(人と人とのつながり、集団同士のつながり、信頼、規範)が重要であることを学ぶ。	マイクロファイナンス、女性銀行、アチェ復興、スモールワールドネットワーク ソーシャルキャピタル

6月5日	草の根援助の可能性と限界(フェアトレードで何が変わるのか?): NPOなどの草の根援助は、ODAには難しい決め細やかな援助を可能とする。しかし、一方でNPOのみ対応には限界があり、NPOが入った地域だけが優遇されるという「貧困層間の不平等」も指摘されている。自立支援のための取り組みとして着目されているフェアトレードを中心に、草の根援助の役割について考える。	NPO 自立支援 フェアトレード 経済原理 企業の社会的責任
6月12日	地域づくりはなぜ必要?(ご近所の底力の可能性と限界): 近年、日本で「地域社会を取り戻せ」との議論が多くみられるが、そもそも地域社会の再生はなぜ必要なのか。まちづくりを重視するあまり、手段が目的化していないか。都市社会学やソーシャルキャピタル論をひもときながら、まちづくりの必要性について考える。	地域社会 コミュニティ論 自助・公助・共助 ソーシャルサポート、負のソーシャルサポート 隣組
6月19日	安全・安心の地域づくり(地域防災力をどう高めるか): 大地震の危険性の高まりや、幼児・児童が犠牲になる事件の続発により、「地域の安全は地域で守る」意識が高まっている。しかし、住民の生活スタイルや価値観の多様性が高まる現在、昔ながらの町内会スタイルでは地域の再生は難しい。多様な住民が気軽に参加できる防災まちづくりの方法について考える。	地域防災力 安否確認 震災ユートピア 声かけ運動 小学校区 防災パトロール
6月26日	電腦社会と地域づくり(リアルとネットをどう結びつけるか): 否定的に語られることの多いネット上での人間関係。しかし現実世界の人間関係とうまく融合させれば、地域社会を支える大きな資源となりうる。Mixiや2ちゃんねるといったネットワークの特徴を整理したうえで、リアルな地域社会とどのように融合させることが可能かを考える。	2ちゃんねる SNS コミュニティサイト 転出者 知り合い系 Blog
7月3日	京都の地域づくり(「ぶぶ漬け」の町をどう盛り立てるか?): 京都は魅力的な景観を持つとともに防災上の弱点を抱えており、魅力維持のためにも安全・安心のためにも、地域社会再生が重要である。一方で、近年のマンション急増や京都独自の文化的特性により、まちづくりには多くの困難がある。ここでは、京都のまちづくりの具体的事例を紹介しながら、まちづくりを実際に行う際の考え方や方法論について学ぶ。	マンション 学生 景観 まちづくり委員会 景観・まちづくりセンター ぶぶ漬け
7月10日	まとめ: 本講義で学んだ内容を再度振り返り、内容をさらに深く理解する。	持続可能性 貧困問題と環境問題 開発と発展 ソーシャルキャピタル 地域づくり 経済的手法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

レポートを数回実施予定

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	60 %	本講義の達成目標を理解しているか
レポート	30 %	本講義の達成目標を理解しているか。「持続的な発展」のためにできることを自分の発想で考えているか。
日常点	10 %	発表、発言等を考慮する

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

単に事実を記憶させるだけでなく、「地球環境問題」や「途上国開発」「地域づくり」について現実何が問題となっているのか、解決のためにどのようなアイデアがあるのか、自分に何ができるのかを自身の生活や体験に引き付けて考えてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

3 - 4回ゲストスピーカーによる講義を行う予定である(JICA関係者等を予定)。

市民と政治 S

11025

担当者名 / Instructor 一柳 直子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

現代社会では、市民が政治に参画する民主主義が多くの国々で政治制度として浸透している。しかし他方で、この民主主義が今なお未成熟な国家も多数存在する。現在、戦後のイラク復興支援に関わって、米国を中心とする国際社会は新生イラクに民主国家を建設するという野心的な事業に取り組んでいるが、そもそもこの民主主義という概念は西洋世界で発展してきたものである。この民主主義の形成・発展過程を中心に、この概念がどのようにして、今日の我々の政治システムとして成立したかを学び、同時にこのシステムに内包される諸々の問題点について考察することが本講義のテーマである。

到達目標 / Focus and Goal

市民社会論の基本問題や概念を幅広く理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特に政治学に関する知識を持っていることは要求しないが、学習意欲の高い学生の受講を望む。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション、市民と市民社会へのアプローチ	
第2回	ヨーロッパにおける市民社会の形成・その1	ホブズ、ロック、スミス、トクヴィルの市民社会論
第3回	ヨーロッパにおける市民社会の形成・その2	カント、ヘーゲル、マルクスの市民社会論
第4回	近代国家、ネーション、管理国家、行政国家など	
第5回	議会制度、議会主義、議会制デモクラシー、両院制、議院内閣制など	
第6回	日本、イギリス、フランス、ドイツの選挙制度	
第7回	アメリカの政体と大統領選挙の仕組み、二大政党制、連邦制など	
第8回	官僚制の理念型、テクノストラクチャ、日本の官僚制など	
第9回	市民と政治、参加デモクラシーなど	
第10回	地方自治改革、英米における近代自治、日本の地方自治、都市化と自治、住民参加など	
第11回	インターネットと市民社会、バーチャル・コミュニティ、インターネットと近代国家、	グローバリゼーションとローカリゼーションなど
第12回	NGO、地球市民のネットワーク運動	
第13回	人道的介入とは何か、ソマリアとルワンダの介入例	
第14回	コソボ空爆は人道的介入か？市民社会及びNGOの果たすべき役割	
第15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	100 %	論述問題を出題予定。解答の分量についての指定は特にしない。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しないが、毎回レジュメを配付する。出席できなかった講義のレジュメに関しては、事務室で一定期間の保管をお願いしているが、保管期間が短いので早めに取りに行くようにしておくこと。(試験直前の入手は困難である)

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代政治学入門	バーナード・クリック / 講談社学術文庫 / 4-06-159604-7 /
現代政治学	加茂利男、大西仁、石田徹 / 有斐閣アルマ / 4-641-12047-1 /
現代政治学・第二版	堀江湛、岡沢憲英編 / 法学書院 / 4-587-03252-2 /

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

市民と政治 N

16083

担当者名 / Instructor 馬場 優

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

我々の日常生活は、国際関係の動向と密接につながっている。では、具体的に国際関係とは何なのか、その抱える問題は何なのか。この授業では、国際関係に関する理論はあまり取り上げず、現実の動向に関連する様々なテーマを取り上げていく。

到達目標 / Focus and Goal

- ・現代の国際社会の動向をより一層理解できる。
- ・国際関係論、政治学、国際政治学に登場する基礎的概念を理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特になし。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	導入	国際社会の歴史
第2回目	国際関係のアクター	国家、脱国家的行為体(NGO、多国籍企業、etc.)
第3回目	国際連合	
第4～6回目	地域機関	EU、ASEAN、APEC、NAFTA
第7回目	国際経済	ブレトンウッズ体制、IMF、GATT、WTO
第8回目	南北問題	南南問題、累積債務
第9回目	地球環境	地球温暖化、オゾン層破壊、砂漠化、酸性雨
第10、11回目	地域紛争	内戦、民族
第12回目	軍縮	NPT、CTBT、SALT、START、CWC
第13回目	日本の「国際貢献」	ODA、PKO、自衛隊
第14回目	まとめ：我々の生活と世界	食糧、エネルギー、安全保障

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

復習をしっかりすること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	100 %	授業で取り上げた基本的内容に関する理解度を確認する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

新聞の国際面などをチェックする習慣をつけましょう。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。毎回レジユメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
国際関係入門	佐藤英夫編 / 東京大学出版会 / /
国際政治の基礎〔増補版〕	斉藤孝 / 有斐閣 / /
国際関係学講義	原彬久編 / 有斐閣 / /

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

日本経済概説 S

15003

担当者名 / Instructor 松川 周二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

テーマ - 日本経済の諸問題を学ぶ。

日本経済は、戦後1950年から60年代にかけて、高度成長を実現し、国民の生活水準も向上し、先進国の仲間入りをした。しかし、70年代に入ると、日本経済は2度のオイル・ショックや円の対外価値の変動(繰り返される円高と円安)を経験するものの、それらを克服、経済大国への道を突き進む。そして、80年代後半、日本経済は絶頂期を迎えるが、それはバブルの形成を促し、90年代、バブル崩壊と伴に日本は不況とゼロ成長の時代となる。本講義では、90年代以降の日本経済の諸問題を、理論的、現実的、政策論的に概説する。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

新聞・テレビ・雑誌などで、現実の経済の動きに関心をもってほしい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	日本経済をめぐる問題を4つの大きなテーマに分け、それぞれについて、3・4回の講義を行う。	毎回の講義で、2～3のキーワードが示され、その経済的意味を理解する形で、授業を進めていく。たとえば、[1]-デフレ・スパイラル、[2]-ワーク・シェアリング、[3]-循環型社会、[4]-WTOやFTAなど
	[1]デフレ・不況とマクロ経済	デフレ・不況の経済学的意味を明らかにし、不況対策の効果を検討する。
	[2]雇用・生活・家庭と労働	不況下で進行する雇用形態の多様化を生活者の視点から説明する。
	[3]環境・資源・エネルギー問題	これは21世紀の世界の課題であり、企業や政府の積極的な試みやわれわれの生活スタイルの変革などをとりあげる。
	[4]日本経済の国際化	日本企業の海外進出やFTA、ODAなどについて説明する。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	100 %	
主に定期試験で評価する		

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

毎回、講義に用いるプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業で配布する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

質問のある学生、講義終了後、直接私に質問して下さい。

日本国憲法 S

15042

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「法」は私たちの生活を規定しながら、その実態を掴むことは難しい。中でも「憲法」は、最も基本的な「法」でありながら、日常生活においてはなかなか実感できない。本講義では、この基本的な「ルール」(憲法)がいかなるもので、どのように機能しているかを知ることが目標となる。具体的には、いくつかのトピックをあげながら、法文を参照し、どのように考えていけばよいかを学んでいながら、基本的な知識を習得していくこととなる。

到達目標 / Focus and Goal

法についての基本的知識の習得。
憲法についての基本的知識の習得。
憲法的な思考方法の習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

特になし。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	法の基本的知識	法、公法、私法、憲法、法と私たちの生活、通説・判例、多数説、少数説、解釈
2	憲法の基本的知識	大日本帝国憲法と日本国憲法、憲法の構造、憲法の三大原理、基本的人権、統治機構、前文、違憲審査制
3	天皇	天皇、象徴天皇制、国事行為、内閣の助言と承認
4	戦争の放棄	第9条、平和主義、自衛権、自衛隊、国際紛争を解決するための戦争
5	人権1(人権総則)	個人の尊厳、基本的人権、幸福追求権、公共の福祉、権利・自由と義務
6	人権2(平等)	法の下での平等、差別の禁止、人種差別
7	人権3(思想・良心の自由と信教の自由)	思想・良心と信教、「国家からの自由」と「国家による自由」、多数者と少数者
8	人権4(表現の自由1)	表現の自由の優越的地位と二重の基準論
9	人権5(表現の自由2)	表現の自由と違憲審査制、違憲審査基準、コミュニケーション技術の発達と表現の自由
10	人権6(経済的自由と生存権)	経済的自由と福祉国家、封建制、居住移転の自由、財産権、損失補償、生存権
11	人権7(法の適正手続き)	デュープロセス・オブ・ロー
12	統治機構1(三権分立)	三権分立と民主主義、人権
13	統治機構2(国会・内閣・裁判所)	国会、衆議院の優越、内閣、議院内閣制、裁判所、違憲審査制
14	まとめ	民主主義と人権、多数者と少数者、憲法と私たちの生活

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

講義では、出来る限りエッセンスを分かりやすく解説しようとするため、詳細な知識や判例などは授業外で補う必要がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	80 %	基本的な知識の習得及び基本的な考え方、思考能力を問う。
日常点	20 %	基本的な知識の修得を問う小テストなど。

小テストの回数や、評価割合は、講義の進行速度により調整を行う。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

資格試験などを目指す受講生は、この講義で基本的な考え方を身につけ、詳細な知識を学習し、問題演習を行うことを薦める。

教科書 / Textbooks

キーワード集などを配布する予定である。

参考書 / Reference Books

書名 / Title

いちばんやさしい憲法入門

出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

初宿 正典 ほか / 有斐閣アルマ / 4641120870 / 基本的な論点、基本的な考え方
を見る、もっともやさしい良書である。

参考書その他、より詳しく憲法を学ぶためには、基本書と呼ばれる書籍を読むと良い。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

平和と人間の安全保障 GA

12429

担当者名 / Instructor 池尾 靖志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

多くの人、世界が「平和」であるように願う。しかし、「平和」という言葉の意味するところは、人によって違う。例えば、私(たち)の考える「平和」と、ブッシュ大統領の考える「平和」、あるいは、テロリストの考える「平和」は果たして同じだろうか。

このように考えると、「平和」という言葉に言い表される価値観をめぐる対立が起きており、異なる価値観の間でいかに「折り合い」をつけるかが、今、問われているのかもしれない。この講義では、こうした状況を「平和学」はどのように捉えているのか、考えてみたい。

到達目標 / Focus and Goal

社会のさまざまなできごとに關心をもち、自分なりの意見を人に伝えることができ、また、他の人の意見も受けとめることができるようになること。社会生活を営むうえで、必要不可欠なスキルを身につけよう。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

戦争の歴史と現在

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「平和」とは？	平和
第2回	直接的暴力(1):核兵器の威力	暴力 核兵器
第3回	直接的暴力(2):もし地球上で核戦争が起きたら？	核の冬
第4回	直接的暴力(3):核兵器をなくすために(1)	国際レジーム 核不拡散レジーム
第5回	直接的暴力(4):核兵器をなくすために(2)	自治体 NGO
第6回	構造的暴力(1):南北問題とは？	南北問題
第7回	構造的暴力(2):私たちの食生活と南北問題	南北問題 国際的相互依存 グローバリゼーション
第8回	構造的暴力(3):グローバル・アパルトヘイト	グローバリゼーション
第9回	文化的暴力(1):エスニック紛争	エスニシティ 新しい戦争
第10回	文化的暴力(2):テロの起きる背景	テロ
第11回	「新しい戦争」とは？	新しい戦争 軍事のグローバリゼーション
第12回	平和をつくりだす主体(1):国連	国連 集団安全保障
第13回	平和をつくりだす主体(2):NGO	NGO
第14回	平和をつくりだす主体(3):トランスナショナル・シビル・ソサエティの可能性	トランスナショナル・シビル・ソサエティ
第15回	期末試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

時折、担当者のホームページを参照すること

国際平和ミュージアムを見学しておくこと。特別展をチェックしておくこと

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	100 %	講義を受けて、自分なりにどの程度、意欲的に学習に取り組んだか、どの程度「平和」の実現に向けて、自分なりの意見を持つことができるようになったかを論述形式の問題でみる。
日常点	0 %	時折、コメントカードによって、講義の理解度をみるが、出席点としてはカウントしない。(最終的に、定期試験の論述内容で判断する)
その他	0 %	特別展の開催時など、場合によっては、国際平和ミュージアムの見学記録を提出してもらっても構わない。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

多様な価値観があることを前提にして、それらの価値観をどの程度尊重しながら、合意点を見つけ出すことができるかという視点が、「平和」実現のためには欠かせない。

教科書 / Textbooks

後期開講のため、開講時までにWebなどで連絡する。(新著を使用する予定)

参考書 / Reference Books

随時、指示する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

新しい日本史像 S

12986

担当者名 / Instructor 笹部 昌利

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

テーマ:幕末維新と日本社会

幕末維新时期における日本の政治社会および文化の様相につき考察する。

到達目標 / Focus and Goal

・「明治維新」という時代変革を単に日本近世の帰結、日本近代の出発点のみ捉えるのではなく、変革の前提となる諸要因について考えることで、わが国にとって明治維新とはいかなる意味を有したのかを再検討する。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	はじめに 幕末維新と史学史	
	幕末維新の背景 将軍権力と天皇・公家社会	
	幕末維新の背景 近世日本の対外秩序	
	日本開国と対外関係 ペリー来航の背景	
	日本開国と対外関係 「征夷」認識と西洋	
	大名家の政治動向と京都 大名家の上京と京都守護	
	大名家の政治動向と京都 将軍上洛と京都	
	幕末維新时期の史料 大名家史料	
	幕末維新时期の史料 風聞情報史料	
	幕末維新と地域 「志士」論	
	大名連衡と徳川公儀	
	幕末維新と人物 坂本龍馬	
	幕末維新と人物 徳川慶喜	
	戊辰戦争と日本近世	
	むすび 幕末維新研究の可能性	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

講義は配布するレジメを中心におこなう。テキストの指定はしないが、下記の参考文献のほか、講義中に紹介する書籍を読み、積極的に理解を深めること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	80 %	
日常点	20 %	日々の出席のほか、小レポートの提出を求める予定である。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『開国と幕末変革』	井上勝生 / 講談社 / 4062689189 /
『開国と幕末の動乱』	井上勲 / 吉川弘文館 / 4642008209 /

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

アメリカの歴史 S

15244

担当者名 / Instructor 吹戸 真実

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

20世紀を通じて日本は、東アジア・太平洋地域最強のパワーであるアメリカ合衆国と常に向き合ってきたし、今後も重要な隣国であり続けるであろう。ただ他方でアメリカは政治・経済・文化を問わず我々にとり最も存在感の大きな国であるため、好悪の感情につきうごかされた議論がややもすれば見られる。だからこそ、ときに立ち止まって、アメリカとは何かについて冷静に振り返る必要があるだろう。本講は、広大な自然空間のもと、多様な人種・民族集団を抱えてきたアメリカが、如何にして統合をはかり今の相貌を示すに至ったかについて、アメリカの置かれた国際環境との連関を常に意識しつつ、さまざまな切り口から歴史的に考察する。

到達目標 / Focus and Goal

眼前で起きている現代アメリカにおける日々の出来事に関して、感情的な議論に安易に流されることなく、歴史的観点を援用しつつ思考する力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

とくになし

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	総括的導入講義	
第2回	イントロダクション: アメリカ歴史を学ぶにあたって	
第3回	空間から読み解くアメリカ: その多様性の源泉	
第4回	経済の発展: 消費者資本主義のアメリカ	
第5回	アメリカ人の「階級」意識: 「機会の国」の現実	
第6回	先住アメリカ人の歩み: その苦難の歴史	
第7回	アメリカ史のなかの移民: 「白人」の創造	
第8回	アフリカ系アメリカ人の歴史: 奴隷制度から公民権運動まで	
第9回	ラティーノ / ヒスパニック: アイデンティティ形成に向けて	
第10回	アジア系アメリカ人の歩み: 差別、偏見との戦い	
第11回	ジェンダーで見るアメリカ史: 家族像の変容とフェミニズム	
第12回	アメリカ政治史(前編): 自由と秩序のはざままで	
第13回	アメリカ政治史(後編): 福祉国家の消長	
第14回	アメリカ史における宗教: 「見えざる国境」の伝統	
第15回	国民統合と人種、エスニシティ: 多文化主義の現在	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	85 %	
日常点	15 %	原則的に出席はとらず期末筆記試験のみで評価するが、平常点(課題の評価)を加味する場合があります

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書に目を通したことを前提に授業を進めるので、指定した章を事前に予習しておくこと。資料、レジュメは適宜配布する予定。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アメリカの歴史	有賀夏紀・油井大三郎(編) / / 4641121621 /

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

各回ごとに指示する

その他 / Others

イスラーム世界の多様性 S

11761

担当者名 / Instructor 磯貝 健一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

我々にとって馴染みの薄いイスラームという宗教の内実、および、現代におけるイスラームの在り方について系統的に学習する。

到達目標 / Focus and Goal

現代イスラーム世界の諸問題を歴史的に理解することを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

特にないが、高校時に世界史を履修していれば比較的理解は容易になるだろう。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	現代イスラーム世界のプロフィール	現代のイスラーム世界を数字で概観する
第2回	現代イスラーム世界のプロフィール	西アジアの国々について
第3回	現代イスラーム世界のプロフィール	アフリカ、南・東南アジアの国々について
第4回	現代イスラーム世界のプロフィール	中央アジアの国々について
第5回	現代イスラーム世界のプロフィール	上海協力機構と中央アジア、イラン
第6回	イスラーム教の内実	イスラームの基本的教義としての契約の概念について
第7回	イスラーム教の内実	預言者ムハンマドの生涯とイスラームの教義(1)---メッカ時代
第8回	イスラーム教の内実	預言者ムハンマドの生涯とイスラームの教義(2)---メディナ時代
第9回	イスラーム教の内実	イスラーム教におけるユダヤ教とキリスト教の扱い
第10回	イスラーム復興の時代	「イスラーム復興」と「イスラーム主義」
第11回	イスラーム復興の時代	イスラーム純化の伝統とワッハーブ派(18世紀)
第12回	イスラーム復興の時代	ヨーロッパの進出に対するイスラーム世界のリアクション(19世紀)
第13回	イスラーム復興の時代	第一次世界大戦後のイスラーム世界(20世紀前半)
第14回	イスラーム復興の時代	ナショナリズムからイスラーム主義へ(20世紀後半)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

特にないが、各種メディア(新聞、テレビ、インターネット等)が発信する国際ニュースには注意しておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	90 %	学期末に定期試験を行い、ほぼその成績のみで評価する。
日常点	10 %	初回授業で説明する受講に際してのルールを破った者は、その都度氏名と学籍番号を問い質し、定期試験の点数を減点する。

出席はとらないので、学習意欲のある者のみ受講してほしい。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

イスラーム世界がらみのニュースに接する度に、講義で得た知識を活かし、自分なりにそのニュースを読み解く癖をつけてみよう。

教科書 / Textbooks

講義中に配布するプリントを教科書として使用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
イスラーム主義とは何か	大塚和夫 / 岩波新書 / / 現代のイスラーム復興現象をその歴史的背景から解説する。
イラクとアメリカ	酒井啓子 / 岩波新書 / / イラク戦争にいたる経緯を、この分野の第一人者が丁寧に解説したもの。
アッラーのヨーロッパ	内藤正典 / 東京大学出版会 / / ヨーロッパにおけるムスリム移民の現状を詳細に報告したもの。
国際政治とは何か	中西寛 / 中公新書 / / 国際政治についての平易で優れた概説書。

デモクラシーの帝国

藤原帰一 / 岩波新書 / / アメリカを中心に据えて、現在の国際秩序につき解説するもの。

現在のイスラーム世界を理解するために役立つ書物を選んだ。特に、ヨーロッパにおける大量のムスリム移民の現状を扱った『アッラーのヨーロッパ』、イスラーム世界に限らず現代世界の国際関係を理解するためにきわめて有益な『国際政治とは何か』は必読である。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

外務省HP内、各国・地域情勢のページ

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html>

講義には様々な国の名前が出てくるが、各国の位置や基礎的データを把握するにはこのページが最も役立つ。

その他 / Others

イスラーム世界の多様性 N

16049

担当者名 / Instructor 江川 ひかり

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「イスラームでは～とされている」という説明は、多くの場合、一部のイスラームにしか通用しない。イスラームを正しく理解するためには、多様なイスラームを多様なまま理解することが必要である。本講義はそのような視点から毎回一つのテーマを取り上げて解説し、イスラームに関する正確な知識を身に付けることを目標とする。あわせて、イスラーム世界の時事問題を理解するための基本的な視点についても触れる。

到達目標 / Focus and Goal

現代イスラーム世界の諸問題を歴史的に理解することを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

特にないが、高校時に世界史を履修していれば理解は比較的容易になるだろう。世界史を履修していない者は、それだからこそ本講義を履修されたい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イスラームのイメージ	現代のイスラーム世界を数字で概観する
第2回	イスラームの系譜と世界観	東地中海世界、一神教、ユダヤ教、キリスト教、アラブ、契約
第3回	六信五行	信仰告白、礼拝、巡礼、断食、喜捨、アッラー、天使、来世、最後の審判
第4回	預言者ムハンマド	預言者ムハンマドの生涯、メッカ、メディナ、ハディージャ
第5回	クルアーン	ことば、誦むもの、アラビア語、聖典
第6回	イスラーム法	シャリーア、解釈
第7回	シーア派とスンナ派	シーア・アリー、スンナ
第8回	スーフィズム	神秘主義、神学、改革運動
第9～10回	歴史の中のイスラーム	オスマン帝国におけるイスラーム
第11回	イスラームの復興	「イスラーム復興」、「原理主義」
第12～14回	現代におけるイスラーム	ヨーロッパの中東進出(19世紀)、第一次世界大戦後のイスラーム世界(20世紀)、パレスチナ問題、イラク問題
第15回	まとめ	わたくしとイスラーム

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

特にないが、各種メディア(新聞、テレビ、インターネット等)が発信する国際ニュースには注意しておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	80 %	学期末定期試験
日常点	20 %	映像資料などを見た際の感想・意見等を日常点として重視。

出席そのものとはならないが、頻繁に上記の感想・意見等を書いてもらう。学習意欲のある者のみ受講してほしい。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

イスラーム世界がらみのニュースに接する度に、講義で得た知識を活かし、自分なりにそのニュースを読み解く癖をつけてみよう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ワードマップ・イスラーム』	小杉泰 / 江川ひかり編著 / 新曜社 / 近刊

講義中に配布するプリントを教科書として使用するので、教科書は必ず購入しなければならないということではない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『イスラーム主義とは何か』	大塚和夫 / 岩波新書 / / 現代のイスラーム復興現象をその歴史的背景から解説する。
『イラクとアメリカ』	酒井啓子 / 岩波新書 / / イラク戦争にいたる経緯を、この分野の第一人者が丁寧に解説したもの。
『アッラーのヨーロッパ』	内藤正典 / 東京大学出版会 / / ヨーロッパにおけるムスリム移民の現状を詳細に報告したもの。

『国際政治とは何か』

中西 寛 / 中公新書 / / 国際政治についての平易で優れた概説書。

『デモクラシーの帝国』

藤原帰一 / 岩波新書 / / アメリカを中心に、現在の国際秩序について解説したもの。

その他の参考文献は講義中に随意指示する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

外務省HP内、各国・地域情勢のページ

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/index.html>

授業にはさまざまな国の名前がでてくるが、各国の位置や基礎的データを把握するにはこのページが最も役に立つ。

その他 / Others

エリアスタディ入門 S

12975

担当者名 / Instructor 応地 利明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

エリア・スタディは地域研究と訳される。地域研究は、日本とか東アジアといったマクロ・レベルの地域を対象として進められてきた。しかし現在の新しい研究動向はマクロ・レベルでの特定地域の研究をふまえて、それらの相互比較の試みにある。それを地域間研究とよんでいる。講義では、地域研究の歴史と立場を概観した後、南アジアと東南アジアとの地域間研究を試みる。

到達目標 / Focus and Goal

・地域研究、地域間研究を通じて、世界像の構築、再構築をめざす。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

なし

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	地域研究の成立前史 :18 / 19世紀	空間の世紀、時間の世紀、環境決定論、発展段階論
第2回	地域研究の成立前史 :20世紀	科学の方法論、演繹論、帰納論、文化相対主義
第3回	地域研究の立場 :「仮説をして語らしめよ」×「混沌をして語らしめよ」	ポストモダン、捨象と抽象、分析と総合
第4回	地域研究の立場 :「部分」×「全体」	重層的思考、「意味のハシゴ」、上流と下流、教条主義
第5回	地域研究の立場 :「仮想化する現実」×「身体性の復権」	仮想現実、五官、感覚、フィールドワーク
第6回	東南アジアと南アジア :自然生態	ヒマラヤ山脈の意味ーもしヒマラヤがなかったら、プレート、地質、大地形
第7回	東南アジアと南アジア :自然生態	地域間比較研究、サクセッションとクライマックス、熱帯降雨林、雨緑林
第8回	東南アジアと南アジア :自然生態	乾燥と湿潤、モンスーン、マングローブ林
第9回	東南アジアと南アジア :多様と統一	自然生態と文化社会、文化と文明、ヒンドゥー的統合、ASEAN
第10回	東南アジアと南アジア :インド化 ー 農耕	稲作、インディカとジャポニカ、犁耕技術
第11回	東南アジアと南アジア :インド化 ー 都城思想	インド都城思想、コスモロジー、ヒンドゥー教、クメール王朝
第12回	東南アジアと南アジア :インド化 ー 王都との展開	アンコール・トム、スコータイ、アユターヤー、バロック化、交易の時代
第13回	東南アジアと南アジア :国家論	領域主権国家、国民国家、超国民国家、国民統合
第14回	東南アジアと南アジア :地域概念の成立	プトレマイオス、2つのインド、大陸部と島嶼部、東南アジアという地域呼称

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

なし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	65 %	
日常点	35 %	適宜、小レポートの提出を求める。何をもちりポートというかについては講義中に説明する。それに準拠して作成・提出すること。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

講義に際しては、頻繁に受講生に質問する。それに対して、「知りません」、「分かりません」という答えではなく、間違ってもいいから、きちんと答える努力を要求する。また期間中に単なる感想文ではなく、小論文つまりそのテーマについての自己の思考の過程と結果を示した文章の提出を何度か求める。

教科書 / Textbooks

なし

参考書 / Reference Books

授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

特になし。

その他 / Others

特になし。

戦争の歴史と現在 GA

12882

担当者名 / Instructor 池尾 靖志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

戦争とは、本来、国家間で繰りひろげられる軍事紛争のことである。しかし、近年、「新しい戦争」という議論が起きているように、戦争の本質が変化してきているようである。このことは、国際システムの構造変容に伴う現象でもある。そこでこの講義では、冷戦からポスト冷戦、そして、テロ後の世界における国際システムの構造変容をみていくなかで、戦争の本質がどのように変化してきているのかを見ていくこととしたい。

到達目標 / Focus and Goal

国際関係における多角的なものの見方を修得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

政治学関連の科目

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	国際関係の基本構造	国家、主権、リアリズム
第2回	国際関係のイメージ	ホッブズ、グロティウス、カント、マルクス
第3回	冷戦時代の国際システム(1) 勢力均衡	古典的リアリズム、勢力均衡
第4回	冷戦時代の国際システム(2) ゲームの理論の適用	ゲームの理論、囚人のジレンマ、チキンゲーム
第5回	冷戦時代の国際システム(3) 覇権安定論と覇権協調論	覇権安定論 覇権協調論
第6回	冷戦時代の国際システム(4) 冷戦の終結	新世界秩序 永い平和
第7回	ポスト冷戦時代の国際システム(1) 軍事における革命(RMA)	軍事における革命
第8回	ポスト冷戦時代の国際システム(2) エスニック紛争	エスニック紛争 コソボ
第9回	ポスト冷戦時代の国際システム(3) 国連再生論とPKO	PKO 集団安全保障 NATOの新戦略
第10回	ポスト冷戦時代の国際システム(4) 小型武器の規制	小型武器 軍事におけるグローバルイゼーション
第11回	ポスト冷戦時代の国際システム(5) 少年兵	子ども兵(少年兵)
第12回	テロ後の国際システム(1) テロの衝撃	テロ
第13回	テロ後の国際システム(2) 同時多発テロとアメリカの世界戦略	米軍再編
第14回	テロ後の国際システム(3) 日米関係の今後	日米関係
第15回	期末試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

国際平和ミュージアムを時折見学すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	100 %	論述形式。分析概念の説明(50%)とその応用(50%)の2問構成。
日常点	0 %	*ただし、講義の理解度をはかるため、時々コメントカードを配布する。(出席点としてはカウントしない)

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『第2版 平和学をはじめ』	池尾 靖志 / 晃洋書房, 2004年 / /
拙編	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『国際紛争:理論と歴史』	ジョセフ・ナイ・Jr. / 岩波書店, 2005年 / /

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

<http://www.asahi-net.or.jp/~iz8y-iko/> (担当者のホームページ)

その他 / Others

中国の国家と社会 S

13082

担当者名 / Instructor 増井 寛也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

中国が日本の最も重要な隣国のひとつであることは、時代により程度の差はあれ、古来不変の事実であった。ところが、この中国という存在は、長い歴史と多様性により、総合的・全体的に把握することが著しく困難である。この講義では、中国理解の一環として、支配権力の保持者/組織を基準とした時代区分(授業スケジュール参照)を立て、そうした権力を支える国家と社会の通時的説明を試みる。

到達目標 / Focus and Goal

中国史の全体的な流れを理解できる。
中華帝国の成立から現代中国に至るまでの各時代の特徴を把握する。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	地理的中国と歴史的中国の相違	大中国と小中国、外中国と内中国
第2・3回目	前期中華帝国 古代帝国の成立と展開 秦から後漢まで	皇帝制度と官僚制、郡県制、儒教の正統教学化、豪族と名士
第4・5回目	前期中華帝国 中世の分裂と再統一 三国時代から隋唐帝国まで	貴族、五胡、拓跋国家群、科挙制、律令制とその崩壊
第6・7回目	後期中華帝国 近世的社会の成立 五代・北宋・南宋	藩鎮、皇帝権力の強化、科挙制度の整備、戸等制、都市の発展
第8回目	征服王朝 北方民族の中国征服 遼・金・元	北方民族社会・文化と漢民族社会・文化の並存、二元的支配体制
第9・10回目	後期中華帝国 近世社会の成熟と満洲族の中国征服 明・清	明の「固い」体制、皇帝権の極大化、郷紳、大中国の成立
第11・12回目	清末・中華民国 アヘン戦争・辛亥革命から中華民国まで	改革(洋務・变法)と革命、北洋軍閥、国民党と共産党
第13・14回目	中華人民共和国 毛沢東から鄧小平まで	革命の継続と文革、改革と開放

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

高校等で世界史の科目を履修していないか、していても知識が不十分な学生は、ハンデを負うことになるので、授業に先立ってあらかじめ、もしくは授業と平行して概説書(第1回目に紹介する)を読むなりして、自助努力をしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	60 %	授業内容に直結するに特定ないし任意のテーマに関して期末レポートを課す。
日常点	40 %	受講者数にもよるが、ほぼ毎回、コメントの提出を求める。これは出席を兼ねる。
その他	0 %	3分の2以上の出席をもって成績評価の対象とする。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

教科書は原則として使用しない。それに代えて、レジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

参考書は第1回目に配布するレジュメに掲載しておく。また、それらに関する簡単な説明も行う。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

日本の近現代と立命館 GA § 特殊講義(日本の近現代と立命館) GA § ヴィジョン形成特殊講義(日本の近現代と立命館) 13552

担当者名 / Instructor 松岡 正美、芦田 文夫、岡尾 恵市、柳ヶ瀬 孝三、小関 素明

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

本学で学ぶ学生にとって共通した「身近な場」である大学の歴史を通じて、日本近現代史を学び、今日われわれが直面している近代化のひずみ、教育の危機などの問題を、身近な視点から再考する。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序論－日本の近現代と立命館の100年－	
2	立命館の黎明と発展	
3	戦争の影と教育・思想の危機	
4	戦時体制下の立命館－日本型軍国主義の進行・転落とわが学園の意外の曲折	
5	敗戦後の混乱と学園の再建	
6	「立命館民主主義」の創成	
7	高度経済成長と大学の大衆化－マス・プロ教育に抗する「小集団教育」－	
8	「大学紛争」と立命館－「大学改革」か「大学解体」かをめぐる激動－	
9	転換期の高等教育政策－学園の新しい経験－	
10	学園創造の新展開－学びのシステムの歩み－	
11	大学スポーツの歩みと立命館	
12	課外活動とスポーツ・学術・学芸	
13	世界に飛躍する立命館(仮題)	
14	講演	
15	定期試験	
注意点	各回の題目・内容に関しては変更する場合があります。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	80 %	
日常点	20 %	出席点を加味する場合もありうる。
コミュニケーションペーパーを活用し、出席点を勘案することもありうる。		

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

特に使用しない。必要なレジュメ・資料を全員に配布する。

参考書 / Reference Books

特になし。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

特になし。

その他 / Others

出席しないと単位の取得は困難である。

東アジアと朝鮮半島 S

10387

担当者名 / Instructor 嚴 敬俊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

朝鮮半島を中心に、東アジアの近未来を展望します。過去・現在・未来の歴史軸を縦軸に、そして、安全保障・経済協力・文化交流などのキーワードを横軸にして、東アジアの国際関係を多面的に捉えます。東アジアは、現在どう動いているのか、どこへ向かっているのかを、共に考えるような授業を展開します。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	講義内容の紹介。なぜ今東アジアか。	アジアの勃興、東アジア共同体
第2回目	なぜ東アジアか(続き):東アジアに緊張をもたらすもの	米朝対立、歴史問題、拉致問題、日韓協調の必要性
第3回目	京都の中の朝鮮	京都に残る渡来人の歴史
第4回目	日本・中国・朝鮮の帝国主義への対応	尊王攘夷、交戦、体制の違い、時間との競争
第5回目	中国・台湾・朝鮮半島の反日感情の異同	各国の日本との関係、各国内部の政治体制の違い
第6回目	朝鮮戦争とベトナム戦争、台湾問題	分断国家の統一問題、国際的影響
第7回目	韓国・(北)朝鮮という国の形	体制競争、冷戦、民主化、主体思想、外圧
第8回目	韓国・(北)朝鮮関係	敵対的共存から協力的共存へ?
第9回目	朝鮮半島とアメリカ	朝鮮戦争と冷戦、冷戦論理の克服、韓米同盟の再定義
第10回目	スポットライト1:核問題とは何か	核危機の構図、(北)朝鮮問題、アメリカ問題
第11回目	朝鮮半島と日本	日韓・日朝国交正常化
第12回目	スポットライト2:拉致問題をどう見るか	日朝国交交渉に見る日本の文化状況
第13回目	朝鮮半島と中国	
第14回目	韓流とは何か	トランスナショナルな文化市場の形成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	70 %	各回で取り上げた基本問題について十分に理解しているか、自分の言葉で論じることができるかがポイントです。
レポート	30 %	期末のレポートです。「講義を聴いて考えたこと」を、毎回の講義に分けて、9講義分以上、書いてもらいます。3,000字。
その他	0 %	3分の2以上の出席を評価の基礎基準とします。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

テキストはありません。毎回、プリントを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『アジェンダ:未来への課題』2003年夏号。	アジェンダ・プロジェクト / アジェンダ・プロジェクト / / 講義と関連のある私の文章が載っています。
『アジェンダ:未来への課題』2004年夏号。	アジェンダ・プロジェクト / アジェンダ・プロジェクト / / 講義と関連のある私の文章が載っています。
歴史認識を乗り越える:日中韓の対話を阻むものは何か	小倉紀蔵 / 講談社現代新書 / / 歴史問題への骨太な入門書
韓国現代史	文京洙 / 岩波新書 / / 韓国の苦難に満ちた歴史を分かりやすく説明しています。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

ヨーロッパの歴史 S

13051

担当者名 / Instructor 小澤 卓也

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

近代以降の欧米史を例にとり、民主主義国家や平和な世界秩序を構築しようとする人類の歴史的な努力とその問題点について考察する。本講義は、基本的に高校で世界史を学ばなかった者、あるいは世界史の基礎についておさらいしたい者を対象しており、大きな世界史の流れを把握することに主眼を置くものである。OHCやDVDによる情報を織り込みながら、受講者が立体的に世界史を捉えることができるようにしたい。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに	
第2回	「近代国家」と「民主主義」	
第3回	アメリカ独立戦争・独立宣言・合衆国憲法	
第4回	フランス革命・人権宣言・ナポレオン	
第5回	イギリス産業革命と社会主義	
第6回	衝突するナショナリズム、植民地主義	
第7回	第一次世界大戦とその影響	
第8回	ベルサイユ体制とファシズムの台頭	
第9回	第二次世界大戦が残したもの	
第10回	ヤルタ会談から東西冷戦へ	
第11回	米ソの軍拡競争と多極化する世界	
第12回	公民権運動とベトナム戦争	
第13回	東欧の激変とその影響	
第14回	歴史的問題としての「9・11」	
第15回	おわりに	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	100 %	ただし、他の受講生にとって迷惑となる私語・妨害行為は、単位取得に影響するほどの大幅な減点の対象となるので注意。

登録に際しては、以下の点に留意されたい。

- ・本講義は日本語で行われるうえ、史料として映像なども多用される。従って、十分な日本語能力を有する方の受講が望ましい。
- ・出席をとることもある。
- ・授業中の妨害行為(携帯電話の使用・私語・騒音など)に対しては、大幅な減点の対象となることもある。
- ・就職活動、国籍、クラブ活動を理由とする特別待遇はなされない。
- ・試験の形式については、試験前に受講生に告知しないことがある(前年度と同じ形式とは限らない)。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

現在、ミネルヴァ書房からテキストの出版を準備中であるが、発行日はいまだ未定。これについては、新たな情報があれば授業のなかでアナウンスする。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

歴史観の形成 S

15011

担当者名 / Instructor 福井 純子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

日本が「開国」したのは今から150年ほど前、19世紀半ばのことである。「開国」をして日本の社会はどのように変化したのだろうか。「開国」をした頃の日本や、日本を取り巻く国際情勢はどのようなものだったのだろうか。当時の日本は現在とどのように違い、現在につながるものは、いったい何なのだろうか。この講義では、海外情報や新聞、活版印刷などのさまざまな側面から、光をあてたいと思う。

到達目標 / Focus and Goal

19世紀の日本は、世界といかに関わり、近代社会を形成したのか、客観的に捉える視点を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

高校で日本近世史・近代史を学習していない学生は、法学部後期開講の「日本政治史Ⅱ」などを履修することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	「鎖国」のなかの日本	セルフイメージ、中華、南蛮と東南アジア、「唐人」
2.	蘭学から洋学へ	実用の学、情報統制、アヘン戦争、西洋見聞
3.	新聞と雑誌	風説書、蕃書調所、居留地、郵便、通信
4.	翻訳と印刷	中国語とオランダ語、製版印刷、写本、活版印刷

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

シラバスや講義の中で提示する参考書は、いずれも図書館に所蔵されている。講義の内容から、受講生諸君が自らの興味や関心を伸ばしてくれるとうれしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	100 %	講義の中で取り上げたテーマについて、自らの文章で説明できるかどうかを評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

講義の中では時にVTRや図版、音源を使用する。これも重要なポイントなので、必要と思われることは、メモを取ること。

教科書 / Textbooks

教科書は用いない。毎回プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代日本思想案内	鹿野政直 / 岩波書店 / 4-00-350018-0 /

このほかにも講義の中で随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

宇宙科学 S

15207

担当者名 / Instructor 伊藤 裕

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

宇宙を階層的に構成する諸天体および宇宙全体について、それらの姿と時間発展を概観する。

到達目標 / Focus and Goal

宇宙の構造と歴史について、その概略を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

なし

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに & 地球	
第2回	月	
第3回	太陽系	
第4回	太陽面現象	
第5回	太陽のエネルギー源	
第6回	いろいろな恒星	
第7回	星間物質と星形成	
第8回	恒星の進化	
第9回	恒星の終末	
第10回	銀河系	
第11回	いろいろな銀河とその集団	
第12回	宇宙の大規模構造 & 謎の暗黒物質	
第13回	膨張する宇宙	
第14回	宇宙の過去と未来	
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

復習のための問題を与える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	100 %	基本的なことがらに対する理解度をみる。
定期試験以外に、適当な方法でボーナス点を出すかもしれない。		

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

なし

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
宇宙のデータブック	比田井昌英ら / 東海大学出版会 / / 図表中心
新版・100億年を翔ける宇宙	加藤万里子 / 恒星社厚生閣 / / 教科書スタイルの本
ハッブル望遠鏡の宇宙遺産	野本陽代 / 岩波新書918 / / 写真が多い読み物

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

授業の概要 / Course Description

現代は社会システムがいろいろな意味で疲弊している。本講義で取り上げる「電力生産体系」、「交通インフラ」、「食と水の供給システム」、「情報ネットワーク」など、それぞれすべて多くの課題を持ち、さらなる大きな「変革」が要求されている。特に、原発、食、交通や住環境など、社会を支える基幹的技術の「安全性」が思いのほか不確かであることが露呈した。しかも、それぞれの問題群の解決策が不明確であるばかりか、そもそも目標となる社会ビジョン自体が曖昧なのである。こうした問題意識に立ち、本講義では、個別技術・システムの細かな問題をサーベイしながらも、それら科学・技術を包み込む社会や生活全体についての哲学について問い直していき。

講義の流れとしては、上記の各トピックを紹介しながら、わかりやすく全体を構造つけていく。問題の核には「地球環境問題」が鎮座しているが、それを解決するツールとしての科学・技術を考えるのではなく、問題を引き起こした原因としての科学・技術のあり方を歴史的に解きほぐし、生活全般の中での役割を再考察していく。

到達目標 / Focus and Goal

- 1 科学技術に関わる現代的問題群の基本知識を得ること
- 2 問題の連関を構造的につかむこと

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

現代環境論などは平行して履修すると理解の助けになる

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	科学・技術 自然史 社会発展
第2回	地球環境問題概説	IPCCレポート 京都議定書
第3回	脅かされる生活と環境	「沈黙の春」と「奪われし未来」
第4回	エネルギーと資源概説	ロードカーブ エネルギー政策
第5回	再生可能エネルギーの課題1 風力発電	風力発電 市民参加
第6回	再生可能エネルギーの課題2 太陽光発電	太陽光発電 電力買い取り価格
第7回	原子力発電の問題	原子力 放射能
第8回	IT技術の現状と課題1 通信	光通信 デジタルとアナログ
第9回	IT技術の現状と課題2 半導体産業論	半導体技術 LSI
第10回	IT技術の現状と課題3 マルチメディアの今後	マルチメディア デジタル技術
第11回	交通とインフラ	クルマ社会
第12回	食と水の安全	バイオ 遺伝子操作 加工食
第13回	生命と進化をめぐって	進化 自然史
第14回	全体まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style**

文献、視覚資料(教材)を多数紹介していきます。

参考にしてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	100 %	講義者の説明を正確に理解すること。

1冊の本で理解できるものではありませんので、まじめに出席してください。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

対象は科学・技術ですが問題関心は社会科学のものです。

科学技術の専門的な知識についてもわかりやすく説明していきます。

教科書 / Textbooks

教科書はありません。レジュメ、参考資料を随時配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『沈黙の春』	R.カーソン / 新潮社 / ISBN4-10-207401-5 c0161 /
『奪われし未来』	T.コルボーン他 / 翔泳社 / ISBN4-88135-985-1 /

『技術と労働』 大沼正則 / 岩波書店 / ISBN4-00-003662-9 c0336 /

『パソコンを隠せ、アナログ発想でいこう』 D.A.ノーマン / 新曜社 / ISBN4-7885-0730-7 /

このほかにも参考図書は随時紹介し、抜粋なども配布します。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

随時紹介していきます。

その他 / Others

なし

授業の概要 / Course Description

現代は社会システムがいろいろな意味で疲弊している。本講義で取り上げる「電力生産体系」、「交通インフラ」、「食と水の供給システム」、「情報ネットワーク」など、それぞれすべて多くの課題を持ち、さらなる大きな「変革」が要求されている。特に、原発、食、交通や住環境など、社会を支える基幹的技術の「安全性」が思いのほか不確かであることが露呈した。しかも、それぞれの問題群の解決策が不明確であるばかりか、そもそも目標となる社会ビジョン自体が曖昧なのである。こうした問題意識に立ち、本講義では、個別技術・システムの細かな問題をサーベイしながらも、それら科学・技術を包み込む社会や生活全体についての哲学について問い直していった。

講義の流れとしては、上記の各トピックを紹介しながら、わかりやすく全体を構造つけていく。問題の核には「地球環境問題」が鎮座しているが、それを解決するツールとしての科学・技術を考えるのではなく、問題を引き起こした原因としての科学・技術のあり方を歴史的に解きほぐし、生活全般の中での役割を再考察していく。

到達目標 / Focus and Goal

- 1 科学技術に関わる現代的問題群の基本知識を得ること
- 2 問題の連関を構造的につかむこと

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

現代環境論などは平行して履修すると理解の助けになる

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	オリエンテーション	科学・技術 自然史 社会発展
第2回目	地球環境問題概説	IPCCレポート 京都議定書
第3回	脅かされる生活と環境	「沈黙の春」と「奪われし未来」
第4回	エネルギーと資源概説	ロードカーブ エネルギー政策
第5回	再生可能エネルギーの課題1 風力発電	風力発電 市民参加
第6回	再生可能エネルギーの課題2 太陽光発電	太陽光発電 電力買い取り価格
第7回	原子力発電の問題	原子力 放射能
第8回	IT技術の現状と課題1 通信	光通信 デジタルとアナログ
第9回	IT技術の現状と課題2 半導体産業論	半導体技術 LSI
第10回	IT技術の現状と課題3 マルチメディアの今後	マルチメディア デジタル技術
第11回	交通とインフラ	クルマ社会
第12回	食と水の安全	バイオ 遺伝子操作 加工食品
第13回	生命と進化をめぐって	進化 自然史
第14回	全体まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style**

文献、視覚資料(教材)を多数紹介していきます。

参考にしてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	100 %	講義者の説明を正確に理解すること。

1冊の本で理解できるものではありませんので、まじめに出席してください。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

対象は科学・技術ですが問題関心は社会科学のものです。

科学技術の専門的な知識についてもわかりやすく説明していきます。

教科書 / Textbooks

教科書はありません。レジュメ、参考資料を随時配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『沈黙の春』	R.カーソン / 新潮社 / ISBN4-10-207401-5 c0161 /
『奪われし未来』	T.コルボーン他 / 翔泳社 / ISBN4-88135-985-1 /

『技術と労働』 大沼正則 / 岩波書店 / ISBN4-00-003662-9 c0336 /

『パソコンを隠せ、アナログ発想でいこう』 D.A.ノーマン / 新曜社 / ISBN4-7885-0730-7 /

このほかにも参考図書は随時紹介し、抜粋なども配布します。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

随時紹介していきます。

その他 / Others

なし

科学的な見方・考え方 S

10444

担当者名 / Instructor 木野 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

人間の歴史の中で、産業革命以後の科学技術の発達は著しく、当初は「科学技術の発達は人間や社会を豊かにする」と信じられていた。しかし、20世紀後半から、この科学技術の急激な発達をもたらす負の側面がさまざまなところで顕在化し、科学技術と人間や社会のあり方を見直す必要が高まっている。この授業では、科学技術の発達と現代の環境問題を通して、科学的な見方・考え方および科学技術のあり方を考える。

この授業では、教科書の各章を参考にして4-5人ずつのグループで課題研究を行い、その発表とディスカッションで授業を進める。課題は、公害、労災職業病、環境問題と行政、薬害、原子力、エネルギー、環境問題と差別、環境問題と専門家の中から選び、教科書とは違う事例をテーマに図書館やインターネットを利用して調査研究を進める。

1回の授業で2つのグループ発表とし、それぞれ発表時間は10分、ディスカッションは20分とし、その後10分で発表に対する評価と総括を書いてもらう。

授業の詳しい進め方については第1回目の授業で説明する。

到達目標 / Focus and Goal

- ・科学技術の発達と環境問題の関係について理解する。
- ・自分で問題を調べ、考える力をつける。
- ・グループ研究の仕方を身につける。
- ・ディスカッションできるようになる
- ・授業を受け身ではなく、自ら学んだという実感を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

特になし

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	この授業の進め方	【キーワード】科学、技術、進歩、人間、環境、社会、グループ研究
第2回目	課題研究のグループ分けとグループ研究の進め方	【キーワード】グループ研究、課題
第3～4回目	グループ研究のためのチーム・ミーティング	【キーワード】グループ研究、チーム・ミーティング
第5～14回目	グループ研究発表	【キーワード】グループ研究、プレゼンテーション、ディスカッション
第15回目	この授業のまとめ	【キーワード】環境問題、科学技術、人間

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

グループ研究のためには、図書館やインターネットで資料を検索し、各自で調べてくることが必須である。

また、チーム内では携帯メール等で連絡を取りながら進めるチームワークが必要である。

私からの助言や相談を必要とするときは適宜メールで連絡すること。

グループ発表開始後は、毎回、次週の発表課題に該当する教科書の章を予習し、その要旨を事前にまとめてくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	0 %	定期試験は行わない。
レポート	30 %	グループ発表に対する小レポート(教科書の要旨も含む)
日常点	30 %	出席、ディスカッションへの参加度
その他	40 %	グループ発表の出来具合、グループ内の貢献度

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

私はこの十数年間、大学の授業は教員の一方的な講義で終わってはならないと考え、双方向型の授業をいろいろ工夫してきた。双方向型の授業とは、教員と学生の間はもちろん、さらに同じ授業を受けている受講生同士のコミュニケーションを大切にすることを指す。それはまた同時に、お互いに学びあう関係を作ることであり、自ら主体的に授業に参加することでもある。この授業ではグループ研究を通してその目標を達成したいと思う。

グループ研究のチーム・ミーティングでは、毎回、私が各グループを回って相談に乗り、助言を行う。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版 環境と人間 公害に学ぶ	木野茂編 / 東京教学社 / 8082-5013-6 / 第4刷(2006.3刊)を使用する。

参考書 / Reference Books

教科書の各章に参考文献を記している。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

必要に応じて授業で紹介する。

科学的な見方・考え方 N

16025

担当者名 / Instructor 松田 正彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

学問的視野の拡大と論理的な表現能力の向上を目指します。科学的な見方・考え方とは、幅広い知識に基づいた論理的な思考能力ともいえるからです。

授業では特に自然科学分野からの様々な事象の見方を学びます。これによって自然科学的な視点も含めた総合的な判断能力の向上が期待されます。また、簡潔で論理的な文章を書くための基礎も学びます。

取り上げるトピックは、主に地球規模の今日的な課題群(グローバルイシュー)や歴史的なエポックの中から選びます。それらを自然科学の切り口から読み解きます。過去に自然科学の研究成果がどのような社会的影響をもたらしたか、あるいは現在どのようにして課題解決の糸口を見つけようとしているのかを学びます。

各講義は、自然科学の基礎知識を出発点としつつ、平易に説明します。

到達目標 / Focus and Goal

- ・食料生産や環境保全に関わる自然科学諸分野の主要な課題やキーワードを理解する。
- ・文化・社会理解における様々な自然科学的アプローチを理解する。
- ・自然科学を含めた総合的な情報読解と運用の能力が向上する。
- ・簡潔で論理的な文章を書くための基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

特にありません。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに(本講義の目的・目標、授業全体のアウトライン、授業の進め方、評価方法などを説明します。)	
第2～3回	地球はどうやってヒトを養ってきたか？どこまで養えるか？(食料生産と環境保全)	近代農業技術、エネルギー危機、「緑の革命」、遺伝学、育種学、高収量品種、持続的農業、低投入型農業、代替技術、有機農業、Integrated Pest/Nutrient Management, LISA
第4～5回	現場から読み解く(アジアの農村からみた食料・環境問題)	農業・農村生態、近代農業技術、ハイブリッド品種
第6～7回	なぜ多様性を守るのか？(生物多様性の保全)	遺伝資源、森林保全、自然資源管理、ジーンバンク、in situ保全、遺伝子組み替え作物
第8～9回	ローカルな知恵からいかに学ぶか？(在来知の価値)	在来知、Indigenous Knowledge、非木材林産物、焼畑農業、スケールアップ
第10回	DNAからお祭りまで(人文科学分野にみる自然科学的アプローチ)	日本文化の基層、農耕の起源、作物伝播
第11～13回	論理的な文章作成の基盤(特定の回に限定せず、講義全日程を通じて実施する可能性もあります。)	
第14回	まとめ(各階の要点をまとめ、講義全体としてのメッセージを明確に示します。)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	出席点が全体の70%です。出席点は各回の出欠状況に加えて、授業中の自主的な発言や質問も内容によっては評価します。残りの30%は授業内でのテスト・レポートの評価点です。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

特定の教科書は使用しません。必要に応じて、授業時に資料を配布します。

参考書 / Reference Books

授業時に情報提供します。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

授業時に情報提供します。

その他 / Others

講義で取り上げるトピックや順番は変更があります。

科学的な見方・考え方 Z

16126

担当者名 / Instructor 安齋 育郎

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

この授業では、超能力・予言・占い・心霊現象といった「科学と非科学の狭間」にあるような問題をあえて取り上げて、その本質について考える。科目担当者の安齋は、昨年、NHK人間講座「だます心 だまされる心」(全8回)や、日本テレビの「世界一受けたい授業」「ザ!世界仰天ニュース」などに登場し、こっくりさん占い、サイババの「物質化現象」、スプーン曲げ、UFO、ナスカの地上絵、ミステリーサークル、心霊手術など、数多くの不思議現象の本質を解明した。この講義の中でも不思議な現象を実演しつつ、その本質に迫る過程を通じて、「科学的な見方・考え方」を考える。

この授業はインターネットを通じたオンデマンド形式で実施される。学生は受講可能期間中(各講通常1週間)の好きな時間に、自宅や大学のコンピュータ教室から授業を受けることができるが、各自のスケジュールに合わせて計画的に学習を進めること。また、受講にあたっては、ADSL以上のインターネット接続ができるPC環境が必要である。

なお、この授業では電子掲示板(BBS)への主体的な意見の書込みが求められる。他の学生の意見にも積極的に反応することにより、相互に見識が高められることを期待する。

オンデマンド授業については、下記のページを参照のこと。なお、授業コードは、「16126」である。

<http://www.ritsumeai.ac.jp/ondemand/pre-guide-kagaku.html>

到達目標 / Focus and Goal

- ・どんな不思議な現象にも理由があることを理解する。
- ・「なぜ」と問う心を豊かに育む。
- ・健全な懐疑心を培う。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	オリエンテーション(授業要綱解説、教員紹介 他)	
第2回目	人生には「科学で扱える命題」と「科学で扱えない」命題とがある	
第3回目	「科学者として優れている」とは、どういう意味なのか?	
第4回目	近代心霊術の幕開け - 職業的霊媒の元祖・フォックス姉妹の数奇な運命	
第5回目	たかが「こっくりさん」、されど「こっくりさん」	
第6回目	「ナスカの地上絵」 - 古代ペルー人は空を飛んだのか?	
第7回目	「スプーン曲げ」騒動で曲がった科学への信念?	
第8回目	A B O式の血液型で性格判断はできるのか?	
第9回目	UFO(未確認飛行物体)は宇宙人の乗り物か?	
第10回目	愉快犯の仕業 - ミステリー・サークル&虹による地震予知	
第11回目	錯誤の世界への2つの入り口 - 「思い込み」と「欲得」	
第12回目	なぜ「科学」の時代に「非科学」に走るのか?	
第13回目	最終討論とフォロー	
第14回目	レポート作成	
第15回目	レポート提出	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	30 %	
日常点	30 %	
その他	40 %	授業コンテンツの視聴状況(30%)、電子掲示板(BBS)への書込み状況(10%)

成績は、授業コンテンツの視聴状況、電子掲示板(BBS)への書込み状況、小テスト、レポートによって総合的に評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考文献は必要に応じて授業の中で提示する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

科学と技術の歴史 SA

15145

担当者名 / Instructor 山崎 文徳

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

産業革命以降、特に19世紀後半以降の科学・技術の発達にはめざましいものがある。科学・技術の発達が人類社会の発展に大きく寄与してきた一方で、さまざまな問題が生まれてきた。戦争・軍事技術と環境・公害問題はその最たるものである。

講義では、明治維新以降の日本の技術発達を取り上げ、科学・技術の発達が戦争や環境・公害問題などどのような関係にあったのかを検討する。

到達目標 / Focus and Goal

製銅業や電力業、化学産業及び戦争における科学・技術の発達が、どのような社会的背景によって実現されたのか、そして社会にどのような影響を与えたのかについて一定の見解を持てること。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	
第2回	明治維新と理工系教育システムの移植 / 「アジア諸国の中でなぜ日本だけが植民地化されずに近代化できたのか」	
第3回	日本の産業革命(1) 軽工業と大気汚染問題 / 紡績業、大気汚染問題	
第4回	日本の産業革命(2) 鉱山・製銅業と鉱害 / 足尾銅山、別子銅山、亜硫酸ガス	
第5回	技術発達と公害・環境問題	
第6回	日本の帝国主義化 / 「日本はなぜ帝国主義化し、アジア諸国を植民地化したのか」	
第7回	工業電化と四大工業地帯の成立 / 電力業	
第8回	研究機関の整備(1)	
第9回	研究機関の整備(2) 化学工業の成立 / アンモニアの生成	
第10回	日本の植民地支配とチッソの技術 / チッソ、水俣病	
第11回	15年戦争と科学・技術(1) / 従軍慰安婦問題、七三一部隊、住民虐殺事件、中国残留日本人孤児	
第12回	15年戦争と科学・技術(2) / 日本軍、餓死	
第13回	15年戦争と科学者・技術者の動員	
第14回	戦争と科学・技術	
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

日本史、世界史を高校までに勉強したことがない人は、教科書的な本でいいので事前に勉強しておくことが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	70 %	各回で取り上げた科学・技術と社会の関係について理解し、自分の言葉で論じることができること
日常点	30 %	コミュニケーション・ペーパーの内容を評価。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

- ・三和良一(1993)『概説日本経済史：近現代』東京大学出版会
- ・山崎俊雄(1961)『技術史』東洋経済新報社
- ・畑明郎(1996)『金属産業の技術と公害』アグネ技術センター
- ・山崎隆三編(1978)『両大戦間期の日本資本主義 上巻』大月書店
- ・加藤邦興(1977)『日本公害論：技術論の視点から』青木書店
- ・日本・中国・韓国=共同編集(2005)『未来をひらく歴史：東アジア3国の近現代史』高文研

- ・江口圭一(1991)『十五年戦争小史』青木書店
- ・藤原彰(2001)『餓死した英霊たち』青木書店
- その他、随時講義で紹介する

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

科学と技術の歴史 SB

15209

担当者名 / Instructor 山崎 文徳

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

産業革命以降、特に19世紀後半以降の科学・技術の発達にはめざましいものがある。科学・技術の発達が人類社会の発展に大きく寄与してきた一方で、さまざまな問題が生まれてきた。戦争・軍事技術と環境・公害問題はその最たるものである。

講義では、明治維新以降の日本の技術発達を取り上げ、科学・技術の発達が戦争や環境・公害問題などどのような関係にあったのかを検討する。

到達目標 / Focus and Goal

製銅業や電力業、化学産業及び戦争における科学・技術の発達が、どのような社会的背景によって実現されたのか、そして社会にどのような影響を与えたのかについて一定の見解を持てること。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	
第2回	明治維新と理工系教育システムの移植 / 「アジア諸国の中でなぜ日本だけが植民地化されずに近代化できたのか」	
第3回	日本の産業革命(1) 軽工業と大気汚染問題 / 紡績業、大気汚染問題	
第4回	日本の産業革命(2) 鉱山・製銅業と鉱害 / 足尾銅山、別子銅山、亜硫酸ガス	
第5回	技術発達と公害・環境問題	
第6回	日本の帝国主義化 / 「日本はなぜ帝国主義化し、アジア諸国を植民地化したのか」	
第7回	工業電化と四大工業地帯の成立 / 電力業	
第8回	研究機関の整備(1)	
第9回	研究機関の整備(2) 化学工業の成立 / アンモニアの生成	
第10回	日本の植民地支配とチッソの技術 / チッソ、水俣病	
第11回	15年戦争と科学・技術(1) / 従軍慰安婦問題、七三一部隊、住民虐殺事件、中国残留日本人孤児	
第12回	15年戦争と科学・技術(2) / 日本軍、餓死	
第13回	15年戦争と科学者・技術者の動員	
第14回	戦争と科学・技術	
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

日本史、世界史を高校までに勉強したことがない人は、教科書的な本でいいので事前に勉強しておくことが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	70 %	各回で取り上げた科学・技術と社会の関係について理解し、自分の言葉で論じることができること
日常点	30 %	コミュニケーション・ペーパーの内容を評価。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

- ・三和良一(1993)『概説日本経済史：近現代』東京大学出版会
- ・山崎俊雄(1961)『技術史』東洋経済新報社
- ・畑明郎(1996)『金属産業の技術と公害』アグネ技術センター
- ・山崎隆三編(1978)『両大戦間期の日本資本主義 上巻』大月書店
- ・加藤邦興(1977)『日本公害論：技術論の視点から』青木書店
- ・日本・中国・韓国=共同編集(2005)『未来をひらく歴史：東アジア3国の近現代史』高文研

- ・江口圭一(1991)『十五年戦争小史』青木書店
- ・藤原彰(2001)『餓死した英霊たち』青木書店
- その他、随時講義で紹介する

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

科学と技術の歴史 N

11214

担当者名 / Instructor 大久保 稔

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

科学は知ること、技術は作ることである。両者は離れていたが、イギリス産業革命以後、急速に接近し、科学と技術 科学・技術 科学技術と一体化してきた。両者は今日では科学は理論主導型 & 技術支援型科学、技術は科学主導型 & 経験支援型技術の特徴を持つ。本講では、科学と技術の流れがやがて交絡し相互に高めあい、巨大な生産力とともに破壊力となって功、罪ふたつの姿をあらわした経過をあきらかにする。

到達目標 / Focus and Goal

- 1 科学と技術の性格の違い、相互関係を明確に理解できる。
- 2 科学と技術のそれぞれの発展、相互の交絡を理解できる。
- 3 科学と技術の接近、一体化の過程を理解できる。
- 4 科学と技術の功績、罪悪の両面を理解。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

特定しないが、化学、技術に関連した他の科目および哲学、歴史、経済分野の科目を履修しておくとう理解がはやい。[理解度促進科目]

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	1 科学と技術の相互関係	概観・科学と技術、科学、技術
2	2 科学の歴史 1)科学のあけぼの期	原始宗教、擬似科学
3	2)古代ギリシアの論証科学	自然哲学、原素論、科学的精神
4	3)中世、科学の低迷	封建社会、アラビア科学の開花
5	4)科学と宗教のたたかい	宗教支配、科学の弾圧、ガリレイの苦闘
6	5)近世、科学の復活	地動説、サロンの科学、力学的世界観
7	3 技術の歴史 1)技術のあけぼの期	道具の工作、火の利用、食、住、衣
8	2)古代ローマの実用技術	帝国、土木建設、コンクリート
9	3)中世での諸発明	ギルド、水車、3大発明
10	4)近世、職人技術の発展	マニュファクチュア、作業の改善
11	5)イギリス産業革命	紡織、動力、工作機械、製鉄、社会の変化
12	4 科学と技術の相互発展 1)近代、科学と技術の接近	新科学の登場、技術の改良、性格の変遷
13	2)現代、巨大科学・高度技術	科学と技術の相互発展、[実例]
14	5 科学技術の功罪	科学と技術の性格、マイナスの作用

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

1. 一般的参考書をざっと読んであらかじめ概要をつかんでおいてほしい。
2. その都度紹介する関連参考書を読んで理解を深めてほしい。
3. インターネットの記事は極めて貧弱である。書籍から知識を吸収してほしい。
4. 図表化による表現が進んでいる。理系の文献にも目を通して慣れてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	60 %	基準 理解度とオリジナリティを柱とする。
その他	40 %	出席率を考慮する。出席回数の少ない者は単位取得資格を自ら放棄した者とみなす。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

1. 講義5分前までに着席。途中入室遠慮。私語は厳禁。静かな環境で勉強してもらいたい。
2. 講義の前に約10分、小話をする。おもにアイデア、ヒント、課題などを話すので知力向上につとめてもらいたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	///
	///

テキストはつかわない。図、表で要点をまとめたプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
科学・技術史概論	鈴木善次・馬場政孝 / 建帛社 / /

科学その歩み	藤村、他 / 東京教学社 / /
-----	-----
図説 科学・技術の歴史(上、下)	平田寛 / 朝倉書店 / /
-----	-----
科学の歴史(上、下)	メイスン(矢島訳) / 岩波書店 / /
-----	-----
技術の歴史	フォーブス(田中訳) / 岩波書店 / /
-----	-----

講義した内容の[理解度深化]のための参考書。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

現代環境論 SA

11566

担当者名 / Instructor 和田 武

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

地球環境問題は人類の生存をも脅かす重大問題であり、社会や人間生活もこの問題と無関係ではありえず、私たちがその認識を深めることの重要性が増している。本講では、オゾン層破壊、温暖化、大気汚染と酸性雨、ダイオキシンや環境ホルモンなどの化学汚染、放射能汚染、森林破壊と生物種の減少、軍事活動による環境破壊など、地球規模の環境問題について講義する。とくに地球温暖化・異常気象問題については詳細に論じる。

到達目標 / Focus and Goal

地球環境問題を中心に環境問題全般について、原因、メカニズム、影響についての理解を深める。それを通じて、環境問題を克服するために、自らの生活や社会のあり方を見直し、行動していける力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

とくにない。予備知識はいらないが、まじめに授業に出席し、受講することを望む。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	地球環境の進化と構造	地球環境、進化、構造、自然、生物、物質、エネルギー、動的循環平衡、
	オゾン層破壊(1)大気圏の構造、オゾン層と紫外線、オゾン層破壊物質、オゾン層破壊のメカニズム	オゾン層、大気圏、成層圏、オゾン、紫外線、オゾン層破壊物質、フロンガス、メカニズム
	オゾン層破壊(2)南極オゾンホールと地球のオゾン層破壊の現状、オゾン層破壊の影響と防止対策	オゾンホール、オゾン層破壊の現状、オゾン層破壊の影響、モントリオール議定書
	地球の温暖化(1)人間活動による温暖化とその影響	地球温暖化、エネルギー、化石資源、異常気象、陸氷融解、海面上昇、生態系破壊
	地球の温暖化(2)気温と温室効果気体、温暖化のメカニズム	地球温暖化、気温、温室効果気体、メカニズム、CO ₂ 、メタン、フロン、一酸化二窒素
	地球の温暖化(3)今後の気温上昇とその影響予測	地球温暖化、21世紀、気温上昇、影響予測、不可逆的環境破壊
	地球の温暖化(4)温暖化防止の取り組みの現状・「京都議定書」とその後	地球温暖化、温暖化防止、「京都議定書」、CO ₂ 削減、省エネルギー、再生可能エネルギー、
	大気汚染、酸性雨と環境の酸性化(1)大気汚染とその影響	大気汚染、酸性雨、環境の酸性化、公害病、ぜんそく、
	大気汚染、酸性雨と環境の酸性化(2)酸性雨の発生機構、酸性化による生物影響	大気汚染、酸性雨、環境の酸性化、発生機構、pH(ペーハー)、生物影響、湖の死、重金属溶出、
	化学物質汚染(1)アスベスト汚染、ダイオキシン汚染、生物濃縮と人体汚染	化学物質汚染、アスベスト、ダイオキシン、生物濃縮、人体汚染、廃棄物焼却、
	化学物質汚染(2)環境ホルモンの人間や生物への影響	化学物質汚染、環境ホルモン、生殖作用、ビスフェノールA、フタル酸エステル、
	放射能汚染(1)放射線と放射能、放射線の人体影響	放射能、自然放射能、人工放射能、放射線、人体影響、
	放射能汚染(2)原子力利用に伴う放射能汚染、	放射能、原子力発電、ウラン、核分裂、高レベル放射性物質、放射能汚染、再処理、臨界状態
	森林破壊と生物種の減少、戦争・軍事活動による環境破壊	森林破壊、熱帯林、生物多様性、生物種の減少、絶滅危惧種、開発、戦争、核兵器、核の冬、軍事活動、兵器生産、軍事演習、環境破壊
	地球環境危機の克服	地球環境問題、社会、生産消費活動、エネルギー生産、物的生産、持続可能な社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

環境問題に関するテーマを自由に選び、本や新聞等を読んで学んだり、講演会等の催しに参加したり、視察や見学で調べたりする自主的な学びをしてほしい。それらをまとめた自主レポートの提出を歓迎する。提出する場合は、6月の最終講義日を期限とする。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	80 %	
レポート	0 %	優れた自主レポートについては成績評価にプラスすることがある。
日常点	20 %	授業中に課す小レポートを採点・評価

成績評価は、定期試験と小レポートで行うが、自主レポートの優れたものについては成績評価に最大+20まで加点することがある。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

まじめに授業に出席・受講することを望む。教科書は授業の際に持参すること、また予習や復習に努めること。随時、授業中に小レポート(質問、意見、感想など)の提出を求めるので、必ず提出すること。また、自主レポートの提出は歓迎する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・地球環境論	和田 武 / 創元社 / /

教科書は授業の際に持参し、教科書での予習や復習にも努めること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる地球温暖化問題	気候ネットワーク / 中央法規 / /
脱フロンへの道	石井 史 / 学陽書房 / /
奪われし未来	シーア・コルボーン他 / 翔泳社 / /
環境問題を学ぶ人のために	和田 武 / 世界思想社 / /
地球白書	フレイビン / 家の光協会 / /

石弘之「必読・環境本100冊」丸善は、環境に関する本の概要を紹介しており、参考書を探すのには便利である。その他、以下の本が参考になる。和田・石井「このままだと20年後の大気はこうなる」カタログハウス、谷山鉄郎「恐るべき酸性雨」合同出版、和田「地球環境問題入門」実教出版、朝日新聞社原発問題取材班「地球被爆」朝日新聞社、宮田秀明「よくわかるダイオキシン汚染」合同出版、北条祥子「よくわかる環境ホルモン汚染の話」合同出版、森林文化協会「森林環境2005」朝日新聞社、原子力資料情報室「原子力市民年鑑」七つ森書房

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

環境省; <http://www.env.go.jp/>、気候ネットワーク; <http://www.jca.apc.org/kiconet/>、原子力資料情報室; <http://www.pen.co.jp/>

その他 / Others

自主的、積極的に学んでほしい。授業中の私語は厳禁する。

授業の概要 / Course Description

地球環境問題は人類の生存をも脅かす重大問題であり、社会や人間生活もこの問題と無関係ではありえず、私たちがその認識を深めることの重要性が増している。本講では、オゾン層破壊、温暖化、大気汚染と酸性雨、ダイオキシンや環境ホルモンなどの化学汚染、放射能汚染、森林破壊と生物種の減少、軍事活動による環境破壊など、地球規模の環境問題について講義する。とくに地球温暖化・異常気象問題については詳細に論じる。

到達目標 / Focus and Goal

地球環境問題を中心に環境問題全般について、原因、メカニズム、影響についての理解を深める。それを通じて、環境問題を克服するために、自らの生活や社会のあり方を見直し、行動していける力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

とくにない。予備知識はいらないが、まじめに授業に出席し、受講することを望む。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	地球環境の進化と構造	地球環境、進化、構造、自然、生物、物質、エネルギー、動的循環平衡、
	オゾン層破壊(1)大気圏の構造、オゾン層と紫外線、オゾン層破壊物質、オゾン層破壊のメカニズム	オゾン層、大気圏、成層圏、オゾン、紫外線、オゾン層破壊物質、フロンガス、メカニズム
	オゾン層破壊(2)南極オゾンホールと地球のオゾン層破壊の現状、オゾン層破壊の影響と防止対策	オゾンホール、オゾン層破壊の現状、オゾン層破壊の影響、モントリオール議定書
	地球の温暖化(1)人間活動による温暖化とその影響	地球温暖化、エネルギー、化石資源、異常気象、陸氷融解、海面上昇、生態系破壊
	地球の温暖化(2)気温と温室効果気体、温暖化のメカニズム	地球温暖化、気温、温室効果気体、メカニズム、CO ₂ 、メタン、フロン、一酸化二窒素
	地球の温暖化(3)今後の気温上昇とその影響予測	地球温暖化、21世紀、気温上昇、影響予測、不可逆的環境破壊
	地球の温暖化(4)温暖化防止の取り組みの現状・「京都議定書」とその後	地球温暖化、温暖化防止、「京都議定書」、CO ₂ 削減、省エネルギー、再生可能エネルギー、
	大気汚染、酸性雨と環境の酸性化(1)大気汚染とその影響	大気汚染、酸性雨、環境の酸性化、発生機構、pH(ペーハー)、生物影響、湖の死、重金属溶出、
	化学物質汚染(1)アスベスト汚染、ダイオキシン汚染、生物濃縮と人体汚染	化学物質汚染、アスベスト、ダイオキシン、生物濃縮、人体汚染、廃棄物焼却、
	化学物質汚染(2)環境ホルモンの人間や生物への影響	化学物質汚染、環境ホルモン、生殖作用、ビスフェノールA、フタル酸エステル、
	放射能汚染(1)放射線と放射能、放射線の人体影響	放射能、自然放射能、人工放射能、放射線、人体影響、
	放射能汚染(2)原子力利用に伴う放射能汚染、	放射能、原子力発電、ウラン、核分裂、高レベル放射性物質、放射能汚染、再処理、臨界状態
	森林破壊と生物種の減少、戦争・軍事活動による環境破壊	森林破壊、熱帯林、生物多様性、生物種の減少、絶滅危惧種、開発、戦争、核兵器、核の冬、軍事活動、兵器生産、軍事演習、環境破壊
	地球環境危機の克服	地球環境問題、社会、生産消費活動、エネルギー生産、物的生産、持続可能な社会

**(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style**

環境問題に関するテーマを自由に選び、本や新聞等を読んで学んだり、講演会等の催しに参加したり、視察や見学で調べたりする自主的な学びをしてほしい。それらをまとめた自主レポートの提出を歓迎する。提出する場合は、6月の最終講義日を期限とする。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	80 %	
レポート	0 %	優れた自主レポートについては成績評価にプラスすることがある。
日常点	20 %	授業中に課す小レポートを採点・評価

成績評価は、定期試験と小レポートで行うが、自主レポートの優れたものについては成績評価に最大+20まで加点することがある。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

まじめに授業に出席・受講することを望む。教科書は授業の際に持参すること、また予習や復習に努めること。随時、授業中に小レポート(質問、

意見、感想など)の提出を求めるので、必ず提出すること。また、自主レポートの提出は歓迎する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・地球環境論	和田 武 / 創元社 / /

教科書は授業の際に持参し、教科書での予習や復習にも努めること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる地球温暖化問題	気候ネットワーク / 中央法規 / /
脱フロンへの道	石井 史 / 学陽書房 / /
奪われし未来	シーア・コルボーン他 / シーア・コルボーン他 / /
環境問題を学ぶ人のために	和田 武 / 世界思想社 / /
地球白書	フレイビン / 家の光協会 / /

石弘之「必読・環境本100冊」丸善は、環境に関する本の概要を紹介しており、参考書を探すのには便利である。その他、以下の本が参考になる。和田・石井「このままだと20年後の大気はこうなる」カタログハウス、谷山鉄郎「恐るべき酸性雨」合同出版、和田「地球環境問題入門」実教出版、朝日新聞社原発問題取材班「地球被爆」朝日新聞社、宮田秀明「よくわかるダイオキシン汚染」合同出版、北条祥子「よくわかる環境ホルモン汚染の話」合同出版、森林文化協会「森林環境2005」朝日新聞社、原子力資料情報室「原子力市民年鑑」七つ森書房

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

環境省 ; <http://www.env.go.jp/>、気候ネットワーク ; <http://www.jca.apc.org/kiconet/>、原子力資料情報室 ; <http://www.pen.co.jp/>

その他 / Others

自主的、積極的に学んでほしい。授業中の私語は厳禁する。

現代環境論 Z

16125

担当者名 / Instructor 木野 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

2005年にアスベスト・パニックともいうべき社会問題が突然起こった。わが国では有害物質による環境汚染の問題はかつて4大公害事件をはじめ「公害」として世に知られたが、それから半世紀を経ても次々と後を絶たない。

この授業では、公害、労災職業病、薬害、自然環境、地球環境問題を取り上げ、現代の環境問題とは何かを考える。

また授業では、ゲストスピーカーを招き、環境問題と日々取り組んでおられる被害者や専門家の立場から直接、話をさせていただく。

さらに、この授業では環境問題の知識を得るだけでなく、環境問題を通して自分で考える能力を磨くことを目的とする。BBSでのディスカッションや、最後に出すレポートもそのつもりで取り組んでほしい。

講義はそのためのヒントであり、あなた方への問いかけであり、問題提起である。講義を聞いて終わりではなく、始まりであると捉えてほしい。講義を聞くだけの一方通行ではなく、自分も授業の構成メンバーであるという意識を持って臨んでほしい。

「受講にかかわる注意」

この授業はインターネットを通じたオンデマンド形式で実施される。学生は受講可能期間中(各講通常1週間)の好きな時間に、自宅や大学のコンピュータ教室から授業を受けることができるが、各自のスケジュールに合わせて計画的に学習を進めること。

受講にあたっては、ADSL以上のインターネット接続ができるPC環境が必要である。

オンデマンド授業については、下記のページを参照のこと。ガイダンス動画も視聴可能。なお、授業コードは、「16125」である。

<http://www.ritsumeai.ac.jp/ondemand/pre-guide-kankyo.html>

到達目標 / Focus and Goal

- ・ 環境問題とは何かを理解する。
- ・ 自分で問題を見つけ、自分で調べる力をつける。
- ・ 調べたことの受け売りではなく、自分で考える力をつける。
- ・ レポートをまとめる力をつける。
- ・ 授業を受け身ではなく、自ら学んだという実感を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

なし。大学生なら、わからないことはちょっと自分で調べれば大体は理解できるはずである。もちろん、質問には応じるが、自分で何も努力せずにただ「教えて」だけの人には断ることもある。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	ガイダンス、水俣病事件から学ぶ (公害認定までの長い道のり)	水俣病、公害、有機水銀中毒、認定
第2回目	水俣病事件から学ぶ (被害者の救済と公害の責任)	見舞金契約、認定基準、不作為、被害者の救済、行政の責任
第3回目	公害と労災職業病 (ある町工場のマンガン中毒事件から)	労災職業病、マンガン中毒、監督行政
第4回目	公害と労災職業病 (アスベスト・パニックから)	アスベスト、粉じん、潜伏期間
第5回目	薬害から学ぶ (薬害エイズは今……被害者の花井十伍さんに聞く)	薬害エイズ、血液製剤、血友病、HIV訴訟
第6回目	薬害から学ぶ (薬害を未然に防いだ製薬労働者:北野静雄さんに聞く)	新薬、ダニロン、発がん性試験、労働組合、マイルーラ
第7回目	原子力とエネルギー (原子力の光と影 - 原子力は夢のエネルギーだったか)	原子力、原水爆、原子力発電、放射能
第8回目	原子力とエネルギー (プルトニウムと私たち:アイリーン・スミスさんに聞く)	プルトニウム、高速増殖炉、もんじゅ、プルサーマル
第9回目	原子力とエネルギー (エネルギーと人間:京大原子炉の小出裕章さんに聞く)	エネルギー、化石燃料、原子力、浪費、不平等社会
第10回目	公害環境問題と差別(公害や環境問題でも差別の問題は避けて通れない)	患者差別、胎児障害、出生前診断、優生思想
第11回目	公害環境問題と行政(自治体の現場から:高槻市会議員の二木洋子さんに聞く)	公害行政、環境アセスメント、バイオ産業、情報公開、環境自治体
第12回目	公害環境問題と専門家(三池炭じん爆発から:熊本学園大の原田正純さんに聞く)	三池炭じん爆発、水俣病、科学者の責任
第13回目	公害環境問題と私たち(さまざまな専門家の役割を問う。では私たちは?)	原因究明、被害者救済、専門家、市民
第14回目	最終討論とフォロー	

第15回目 レポート作成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- ・第1～第2回目:教科書の第1章を読んでくる。
- ・第3回目:教科書の第2章を読んでくる。
- ・第4回目:アスベストに関する記事やWebを読んでくる。
- ・第5回目:教科書の第5章を読んでくる。
- ・第6回目:教科書の第6章を読んでくる。
- ・第7回目:教科書の第7章を読んでくる。
- ・第8回目:教科書の第8章を読んでくる。
- ・第9回目:教科書の第9章を読んでくる。
- ・第10回目:教科書の第10章を読んでくる。
- ・第11回目:教科書の第4章を読んでくる。
- ・第12回目:教科書の第3章を読んでくる。
- ・第13回目:教科書の第11章を読んでくる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	0 %	定期試験は行わない。
レポート	60 %	小レポートは指定課題について2回。各500字程度。各5%。最終レポートは「環境と人間」の範疇に入るものであれば、テーマは自由。調べたことをまとめるだけでなく、自分で何かをつかんだと認められるものを高く評価する。すなわち、評価の半分は、テーマの選び方、調べ方、まとめ方、書き方(章・節分け、段落、引用・参考文献など)であるが、もう半分はどこまで自分で考えたかという考察力で評価する。分量は2000字以上。ただし、多ければよいというものではなく、内容がともなっていることが必要である。A4判・縦型用紙に、横書きのこと。ワープロが望ましいが、手書きも可とする。最終レポートの評価は、50点(優秀)を最高に、40点(良)、30点(普通)、20点(可)、10点(劣)の5段階評価で行う。
日常点	40 %	授業コンテンツの視聴状況(20%)、電子掲示板(BBS)への書き込み状況(20%)

この授業では電子掲示板(BBS)を使って学生の授業への積極的な参加を求めている。優れた書き込みについては+として日常点の評価に上乘せする。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

私の授業のモットーは双方向型授業で、講義を聞くだけに終わらず、講義を題材に自分の頭で考え、それをみんなと交換することです。わからないことや疑問に思ったことだけでなく、講義を聞いてそれぞれが思ったことを電子掲示板(BBS)に書き込んで下さい。同じ講義を聞いても人によって受け止め方がいかに違うかを知ることとはとても大切です。さらに違いを知った上でお互いに自由な意見交換を行うことによって先に進む道を考えましょう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版 環境と人間 公害に学ぶ	木野茂編 / 東京教学社 / 8082-5013-6 / 第4刷(2006.3刊)を使用する。

授業外学習で記したように、該当する章を講義の前に読んでくること。教科書を読んでいることを前提にして講義する。

参考書 / Reference Books

教科書の各章に参考文献を記している。必要に応じて授業でも紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

必要に応じて授業で紹介する。

その他 / Others

現代人とヘルスケア SA

11686

担当者名 / Instructor 森本 武利

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

健康の大切さは、健康を損なってはじめて気付きます。健康は日々の生活習慣によって左右されます。また高齢社会を迎えた今日、現在の生活習慣が将来の健康にも大きな影響を残します。そこで健康とその生理学的基礎、予防医学の知識、生涯現役のための医学などに付いて、各自それぞれについて考えてる機会を提供し、ともに考える機会とします。

到達目標 / Focus and Goal

各自が健康な生活習慣を理解し、その習慣を理解することを目標とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4月12日	医療の歩みと寿命	健康とは、医学のあゆみ、伝染病の克服
4月19日	感染症とその予防	感染症の種類、病原体、予防法
4月26日	性感染症とその予防	性感染症の種類、予防法
5月10日	食中毒予防	食中毒の種類、予防対策
5月17日	皮膚の色と紫外線	メラニン色素、太陽光、皮膚ガン
5月24日	体温の調節	体温、調節、測定法
5月27日	熱中症とその予防	暑さによる障害、予防法
5月31日	血液と貧血	血液、貧血予防、鉄
6月7日	代謝の生理と肥満	肥満、脂肪
6月14日	骨粗鬆症	骨代謝、カルシウム
6月21日	健康と食生活	カロリー、栄養素
6月28日	健康と運動	運動の効果、エネルギー消費量
7月5日	救急救命法	人工呼吸、心蘇生
7月12日	夏ばて予防	発汗、脱水、水分補給、冷房病

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

各自の健康に関する調査など、授業内容と関連したのレポートを、授業時に課す。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	80 %	健康調査の精度、考察内容など。
日常点	20 %	授業時に小テストを行う。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

プリント配布。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
やさしい生理学	森本・彼末編 / 南江堂 / 4-524-23967-7 /
からだの働きをやさしく解説。日常生活にも非常に有用。	

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp>

その他 / Others

現代人とヘルスケア SB

11738

担当者名 / Instructor 森本 武利

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

健康の大切さは、健康を損なってはじめて気付きます。健康は日々の生活習慣によって左右されます。また高齢社会を迎えた今日、現在の生活習慣が将来の健康にも大きな影響を残します。そこで健康とその生理学的基礎、予防医学の知識、生涯現役のための医学などについて、各自それぞれについて考えてる機会を提供し、ともに考えます。

到達目標 / Focus and Goal

各自が健康な生活習慣を理解し、その習慣を実践することを目標とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
9月27日	医療の歩みと寿命	健康とは、医学のあゆみ、伝染病の克服
10月4日	体温の調節	体温、調節、測定法
10月11日	熱中症とその予防	暑さによる障害、予防法
10月18日	皮膚の色と紫外線	メラニン色素、太陽光、皮膚ガン
10月25日	感染症とその予防	感染症の種類、病原体、予防法
11月1日	性感染症とその予防	性感染症の種類、予防法
11月8日	血液と貧血	血液、貧血予防、鉄
11月15日	代謝の生理と肥満	肥満、脂肪
11月22日	健康と食生活	カロリー、栄養素
12月6日	健康と運動	運動の効果、エネルギー消費量
12月13日	骨粗鬆症	骨代謝、カルシウム
12月20日	インフルエンザとその予防	症状、予防法
1月10日	食中毒予防食中毒	細菌、ウィルス、化学毒、自然毒
1月17日	救急救命法	人工呼吸、心蘇生

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

各自の健康に関する調査など、授業内容と関連したのレポートを、授業時に課す。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	80 %	レポート(健康調査など)の精度、考察内容など。
日常点	20 %	授業時に小テストを行い、その成績を加算。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	///
プリント配布。	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
やさしい生理学	森本・彼末編 / 南江堂 / 4-524-23967-7 /
からだの働きをやさしく解説。日常生活にも非常に有用。	

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp>

その他 / Others

現代の科学技術 S

14999

担当者名 / Instructor 斎藤 勝義

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

20世紀に開発され、21世紀にさらに有効利用される材料として、プラスチック・セラミックス・金属材料を取り上げる。この材料工学の周辺知識を合わせて修得した学生を育てる。

到達目標 / Focus and Goal

上記材料について基礎ならびに応用能力を十分に身に付ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特になし。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	プラスチックの概要	熱可塑性プラスチック、熱硬化性プラスチック
第2回	熱硬化性プラスチックの解説と応用	エポキシ基板、ベークライト、食器
第3回	熱可塑性プラスチックの解説と応用	ポリエチレン、ペットボトル、リサイクル
第4回	汎用プラスチックとエンジニアリングプラスチックの解説と応用	ゴミ袋、機械部品
第5回	医療用及び生分解プラスチックの解説と応用	人工系、微生物
第6回	ファインセラミックスの解説と応用	人工原料、粘土、石
第7回	構造用セラミックスの解説と応用	ターボチャージャー、プラグ、歯車、刃物
第8回	電子用セラミックスの解説と応用	コンデンサー、バリスタ、半導体
第9回	バイオセラミックスの解説と応用	人工骨、歯根
第10回	超電導セラミックスの解説と応用	リニアモーターカー、絶対温度
第11回	鉄鋼材料の解説と応用	純鉄、アルミニウム、ステンレス、硬貨
第12回	アルミニウムおよび合金の解説と応用	ジュラルミン、缶、リサイクル
第13回	銅および銅合金の解説と応用	電線、つりがね、貨幣
第14回	新しい金属材料の解説と応用	形状記憶合金、ジェットエンジン
第15回	全体の講義のまとめ、試験のための問題集配布	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

特になし。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	70 %	材料の基礎と応用が理解されているか否か。
レポート	10 %	講義の内容を理解できているかどうかを見る。
その他	20 %	出席。配布物にない、トピックスや新しい情報が出席していないと得られない。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

私語をつつむように(講義中)

教科書 / Textbooks

必要に応じてコピーしたものを配布する。多くのVTRを流す。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「よくわかる工業材料」	鈴木秀人編著 / (株)オーム社 / 4-274-13072-4 / (京都駅アバンティ6F書店)

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

工業系の内容なので出来るだけ専門用語、化学記号は解説して文科系でもわかりやすい講義をする。

自然人類学 S

10537

担当者名 / Instructor 島田 将喜

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

あなた自身やあなたを取り巻くさまざまな人間社会の特徴は、生物としてのヒトの進化の過程でどのように獲得されてきたと考えられているのか。霊長類学の立場から明らかにされてきた霊長類の行動や社会を、ヒトの行動や社会と比較する手法を用いて、さまざまな人間性の由来についての仮説を紹介する。

到達目標 / Focus and Goal

生物の進化という現象についての基礎的な知識を踏まえ、ヒトに近縁な動物種である霊長類の行動や社会と、人類のそれらとを比較する視点を養ってもらうことが本講義の目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特に予備知識を必要としない。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに	自然 / 文化
第2回	霊長類～ヒトに近縁な動物	サル / 類人猿 / ヒト
第3回	進化論という考え方	ダーウィン / ネオ・ダーウィニズム
第4回	人類の進化	化石 / 遺伝
第5回	動物行動学	行動生態学 / 社会生物学
第6回	人間性に関する研究	狩猟採集民 / 通文化比較 / 霊長類学
第7回	性と繁殖	配偶者選択 / 子育て
第8回	社会の起源	グループサイズ / 集団の構成
第9回	互酬性と協力	ゲーム理論 / 互酬的利他行動
第10回	家族の起源	インセスト回避 / ウェスターマーク効果 / 食物分配
第11回	道具使用と文化	文化の定義 / 物質文化
第12回	遊びと規則	笑い / 鬼ごっこ / 「規則に従う」
第13回	言語の起源	鳥の歌 / 類人猿の手話研究
第14回	まとめ	
第15回	試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

機会があれば、オプションとしてニホンザルの観察実習を行う予定である。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	60 %	
レポート	20 %	
日常点	20 %	

定期試験が評価の中心である。試験は論述形式、持込自由で行う。期間中に小テスト、小レポートを数回ほど実施し、評価に加味する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

霊長類などについての多くの知見を、単なるトリビアな話題として聞くのだけではなく、それが自分自身や人間そのものについて内省する際にどのように関わってくるのかをイメージしながら勉強すると、記憶に残りやすい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
人間性はどこから来たか サル学からのアプローチ	西田 利貞 / 京都大学学術出版会 / 4876980799 / さまざまな人間性の起源についての包括的な教科書
人類進化の700万年	三井 誠 / 講談社 / 4061498053 / 最新の人類学研究成果をコンパクトに解説。安価。
サル学なんでも小辞典 ヒトとは何かを知るために	京都大学霊長類研究所編 / 講談社 / 4061329189 / 霊長類研究の第一線で活躍する日本人研究者たちによる成果。安価。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

京都大学人類進化論研究室 <http://jinrui.zool.kyoto-u.ac.jp>
京都大学霊長類研究所 <http://pri.kyoto-u.ac.jp/index-j.html>

その他 / Others

自然と進化 S

11315

担当者名 / Instructor 高見 泰興

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

植物、菌類、昆虫、ヒト…地球上には、なぜこれほどまでに多様な生物がいるのだろうか。現代科学がもたらした唯一の説明は、進化である。生物進化の理論は生物多様性の理解だけでなく、薬剤耐性細菌の出現や、ガン、老衰など、人間の疾患に関わる現象の理解にも重要な示唆を与える。本講義の目標は、生物進化のメカニズムを学び、生物進化がきわめて機械的なプロセスによって起こることを理解することである。はじめに、生物進化が起こるうえで必要な3つのしくみ(変異、遺伝、淘汰)について解説する。次に、様々な生物進化現象とその実例に触れながら、3つのしくみがどのように働くのかを様々な角度から概観する。最後に、進化生物学の研究史を振り返り、人類の生物観、進化観の変遷についても論じる。

到達目標 / Focus and Goal

生物進化の基本的なしくみを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

生物学の基礎的な知識を有することが望ましいが、必須ではない。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	生物の多様性と進化	種多様性, 生物のデザイン
第2回	生物進化のしくみ1: 変異と遺伝	遺伝子, 突然変異, 複製
第3回	生物進化のしくみ2: 自然淘汰	競争, 生き残り, 適応
第4回	生物進化の実例1: ダーウィンフィンチ	気候変動, 採餌効率, くちばしの形
第5回	生物進化の実例2: シクリッド	適応放散, 種分化, 絶滅
第6回	集団と遺伝	遺伝子頻度, 遺伝子プール, 遺伝的浮動
第7回	系統進化と種分化	系統樹, 種, 生殖隔離
第8回	生物進化の実例3: オサムシ	分子系統, 交尾器, 種分化
第9回	個体間の相互作用1: 性淘汰	雄間競争, 雌による選択, 雌雄の対立
第10回	生物進化の実例4: 交尾器形態の進化	交尾後性淘汰, 精子競争, 交尾戦略
第11回	個体間の相互作用2: 社会性	利他行動, 血縁, 利己的遺伝子
第12回	種間の相互作用	進化的軍拡競争, 共進化, 擬態
第13回	古生物	化石, 絶滅, 大進化
第14回	進化学説の変遷	ダーウィン, 木村資生, インテリジェントデザイン
第15回		

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

特に必須ではないが、参考書や講義中に紹介する文献を読むことを勧める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	100 %	生物進化のしくみを理解し、それに基づく論理思考ができるかどうかを記述式試験により評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

講義内容を覚えるのではなく、理解することを心がけてください。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『進化とはなんだろうか』	長谷川真理子 / 岩波ジュニア新書 / ISBN4-00-500323-0 /

若者向けに分かりやすく書いてあり、万人に勧められる。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

はじめての進化論: <http://meme.biology.tohoku.ac.jp/INTROEVOL/index.html>
 当該書籍のWeb版。参考書よりはやや高度であるが、進化のしくみを分かりやすく解説している。

スポーツのサイエンス S

10445

担当者名 / Instructor 上 英俊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

身体活動発生・維持の仕組みについて、筋・呼吸循環系システムを中心に説明する。

到達目標 / Focus and Goal

動きのメカニズムに関する基礎知識を理解し、「効率のよい運動の実践」へと発展させる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	体力とは	
	神経 筋の構造と機能	
	筋線維組成	
	筋肉とエネルギー	
	筋疲労のメカニズム	
	疲労回復法	
	筋カトレーニング	
	持久カトレーニング	
	栄養(1)	
	栄養(2)	
	体重とパフォーマンス	
	ウエイトコントロール	
	運動と健康	
	まとめ	
	試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	80 %	
レポート	10 %	
日常点	5 %	
その他	5 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

生物の多様性 S

15206

担当者名 / Instructor 佐藤 路子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

地球上には海洋、河川、森林、高山、砂漠など様々な環境が存在し、それぞれに適応した様々な生物が生息している。そして、同じ環境に生息している生物であっても、生活を営む方法は種それぞれで違っている。本講義では様々な生物やその営みを紹介し、なぜたくさんの生物が存在しているのか、どうやって様々な生活の営みが作り上げられてきたのか、その多様性はどのようにして維持されているのか、を主に環境と生物の関係および生物間関係に着目して解説する。また近年注目されている生物多様性の重要性と保全についても議論する。

到達目標 / Focus and Goal

- ・動物や植物の生態が学べる
- ・環境保全についての基礎が学べる
- ・生物に関連する社会問題の情報が得られる

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

理解を深めるために「自然と進化」を合わせて受講されることをおすすめします。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業内容の紹介・受講のルール・評価方法について	
第2回	生物多様性の概念と階層性	形質、変異、多型
第3回	種多様性と種の形成 その1	種概念、生殖隔離機構、種の表記法
第4回	種多様性と種の形成 その2	進化、自然淘汰
第5回	種多様性と種の形成 その3	性淘汰
第6回	種多様性と種の形成 その4	種分化のしくみ、適応放散
第7回	環境と生物の関係・生物間関係 その1	生態系、無機的環境と生物の関係
第8回	環境と生物の関係・生物間関係 その2	食う・食われるの関係、寄生、共生
第9回	環境と生物の関係・生物間関係 その3	競争、資源分割、ニッチ
第10回	生物多様性の重要性と現状	絶滅のパターン、生物多様性の価値
第11回	生物多様性の保全 その1	生息地の破壊、分断化
第12回	生物多様性の保全 その2	環境汚染
第13回	生物多様性の保全 その3	移入種
第14回	生物多様性の保全 その4	乱獲、病気、遺伝的変異の減少
第15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	80 %	基礎的な内容を理解しているか評価する
日常点	20 %	授業で扱った問題についての意見・感想を求める。不定期に実施する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

普段から新聞の科学欄を読んだり、自然科学系のテレビ番組(NHK「地球ふしぎ大自然」等)を見たりして、生き物に対する意識を高めておくといでしょう。

教科書 / Textbooks

購入する教科書などは特にありません。毎回プリントやビデオなどで解説します。

参考書 / Reference Books

授業で適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

授業で適宜紹介します。

その他 / Others

生命科学と倫理 S

12374

担当者名 / Instructor 松原 洋子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

近年の生命科学、先端医療、生物工学の急速な進展は、人間の生殖・生活・死の諸相と人間を含む生物の定義を大きく揺るがせつつある。この授業では、生命科学史・科学技術社会論(STS)・バイオエシックスなどに依拠しながら、生命科学/技術と社会の境界で生じる諸問題を検討し、現代に生きる市民として、生命科学・先端医療と適正な距離をとるために必要な知識と思考を獲得することをめざす。

到達目標 / Focus and Goal

- ・ 現代の生命科学・先端医療の歴史的背景について、理解できる。
- ・ 生命科学と倫理をめぐる現代的課題を検討し、初歩的な調査ができる。
- ・ 一市民としてどのように問題に対処すべきか、判断するための基盤を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特になし

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	サイエンス・スタディーズ、バイオエシックス、科学リテラシー、科学と市民、リスクコミュニケーション
第2回	生命科学の歴史的背景(1):分子生物学の誕生	DNA、生物学史、科学者
第3回	生命科学の歴史的背景(2):バイオテクノロジーの展開	分子生物学、生命工学、生物特許
第4回	生命科学の制度的基盤:研究はどのように遂行されるのか	科学の制度化・体制化、研究費、ピア・レビュー、人材育成
第5回	生命科学研究における不正行為	データねつ造、研究者倫理、不正監視システム
第6回	被験者と患者の保護(1):「臨床研究」とは	被験者、治験、人体実験
第7回	被験者と患者の保護(2):イレッサをめぐる問題	薬害、がん治療、製薬
第8回	被験者と患者の保護(3):生体肝移植をめぐる問題	臓器移植、ドナー
第9回	被験者と患者の保護(4):歴史的背景	人体実験問題、倫理委員会制度
第10回	先端医療技術と倫理(1):遺伝子医療	ポストゲノム、遺伝子治療、遺伝子診断、オーダーメイド医療
第11回	先端医療技術と倫理(2):生殖補助医療	不妊治療、生殖技術、出生前診断
第12回	先端医療技術と倫理(3):人体の医療資源化	再生医療、クローン技術、バイオバンク
第13回	動物実験の倫理	動物愛護、動物の権利、動物実験規制制度、代替法
第14回	授業のまとめ	
第15回	閉講	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

授業やシラバスで紹介した参考文献や関連サイトについて、インターネットで情報を収集する。さらに、入手できた資料について調査する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	80 %	授業で取り上げた内容を理解し、発展的思考ができる。記述式。
日常点	20 %	数回、授業終了後にコメントの提出を求める。

- ・ 30分以上の遅刻者は入室できません。なお、特別な事情がある学生は申し出てください。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

生命科学・バイオテクノロジー・医学/医療について、日常生活で出会う経験、メディアの情報に注意を傾けること。また、そこで感じた一時的な印象を、多様な情報にもとづく思考に高めるよう工夫すること。

教科書 / Textbooks

特定の教科書は使用せず、毎回配布するレジュメおよび資料、映像資料、インターネットなどを利用しつつ授業をすすめる。原則として各回の資料は授業当日のみ配布する。毎回、参照すべき参考文献、ウェブサイト、有用なデータ等の情報を提供する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
IRBハンドブック 臨床試験の倫理性確保、被験者保護のために	ロバート・J. アムダー編著、栗原千絵子、斉尾武郎訳 / 中山書店 / 4521016510 / 患者と被験者の保護

『科学技術社会論の技法』	藤垣裕子編 / 東京大学出版会 / 4130032046 / 科学技術社会論の方法
『操作される生命』	林真理 / NTT出版 / 4757160089 / 先端医療技術と社会
『人体の個人情報』	宇都木伸、菅野純夫、米本昌平編 / 日本評論社 / 4535514100 / 人体情報の資源化
『DNAの謎に挑む 遺伝子探究の一世紀』	渡辺政隆 / 朝日新聞社 / 4022597089 / 分子遺伝学の歴史

上記の参考書以外に、トピックごとに重要な文献を授業時に紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

「生命科学と倫理」(担当者による授業サポートブログ)

<http://yokom.asablo.jp/blog/>

arsvi.com (立命館大学大学院先端総合学術研究科 立岩真也先生のホームページ)

<http://www.arsvi.com/>

東京大学大学院医学系研究科 生命・医療倫理人材養成ユニット

<http://square.umin.ac.jp/CBEL/>

その他 / Others

地球科学 S

13052

担当者名 / Instructor 桂 郁雄

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

地球変動学

地球表層で生起しているさまざまな変動についてプレートテクトニクスを基礎として理解することを目指す。

はじめに地球についての全体像を解説するほか、現在の地球表層の自然環境がどのように変化して出来上がってきたかを概観する。その後、プレート同士の相互運動により、プレート境界周辺で集中的にさまざまな変動が起きることを学ぶ。

とくに日本列島とその周辺は、世界的に見てもプレート境界で起こる諸現象、すなわち変動がとくに集中しているところである。そこで日本列島の形成と現在生起している変動の特徴についても学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

地球の全体像を理解すると共に、地球の各部分が相互に関連して全体が成り立っていることを理解する。

地球科学の特殊性を理解すると共に、物理や化学といった面から地球を理解する。

地球科学全般にわたる基本的な知識、考え方を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに - 地球システムについて	岩石圏、地殻、マントル、核、プレート、水圏、大気圏、磁気圏、生物圏
2	地球と太陽系の誕生と進化	原始太陽系星雲、微惑星、衝突クレーター、潮汐力、成層構造
3	地球表層環境の進化	海、生命の起源、生物進化、酸化的大気、光合成、太陽定数、熱平衡、温室効果、気候変動
4	地球のかたちと重力場	回転楕円体、水平、ジオイド、重力
5	地震波でわかってきた地球の内部構造	地震波、P波、S波、地震波の反射と屈折、走時曲線、地殻、マントル、中心核
6	地球の構成物質 - 元素・鉱物・岩石	元素、鉱物、岩石
7	地震と火山の発生するところ	地震活動、火山活動、大地形、海底地形
8	プレートの概念と球面を動くプレートの運動	大陸移動、海底拡大、海底更新、球面プレート、プレート境界、プレュームテクトニクス
9	地球の磁場 - 現在と過去	地磁気、偏角、伏角、地心磁気双極子、古地磁気、岩石磁気、地磁気の逆転
10	プレート運動の推定 - 岩石・地層に記された昔の地球磁場の記録	古地磁気、地磁気の逆転、見かけの古地磁気極の移動
11	岩石・地層の年代測定	相対年代、古生物の進化、生層序による年代区分、放射性元素、放射崩壊、放射年代決定
12	プレート境界に働く力 - 地震の発生メカニズム	応力分布、プレート運動、地震波初動、地震発生のメカニズム、断層の型
13	プレート境界で起こる変動 - とくに沈み込み帯にある日本列島を例にして	収束境界、沈み込み、島弧、付加体、圧縮場、活断層、火山、マグマの発生
14	日本列島のテクトニクス	地震活動、海溝型巨大地震、内陸直下型地震、火山活動
15	試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

参考書等による復習が必要。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	100 %	基本的な事項の理解とその応用を問う。原則として説明問題と論述問題を課す。
レポート	20 %	授業では時間の都合で扱いきれなかったトピック的なテーマについてショートレポートを課すことがある。
その他	0 %	レポート点は定期試験の点への加算点である。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

高校地学の知識は要しない。数学・物理・化学等の知識があったほうが多少は有利であるが、必須ではない。

授業の理解には毎回の積み上げが大事である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
使用しない。	// 次の2つ(部分)は便利な参考書である。
ニューステージ新訂地学図表	浜島書店編集部編著 / 浜島書店 / 4-8343-4007-4 / 役に立つ図表集。
理科年表 平成18年版	国立天文台編 / 丸善 / 4-621-07637-X / データブック。一部が参考になる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
図説地球科学	杉村新・他編 / 岩波書店 / 4-00-005669-7 / 講義内容全般に関連する基本事項を調べるのに便利な参考書
地球科学入門 - プレートテクトニクス	河野長 / 岩波書店 / 4-00-005667-0 / 講義内容全般に関連する教科書風の参考書
地球学入門 惑星地球と大気・海洋のシステム	酒井治孝 / 東海大学出版会 / 4-486-01615-7 / 講義内容全般に関連する教科書風の参考書
グローバルテクトニクス	杉村新 / 東海大学出版会 / 4-13-062116-5 / 講義内容全般に関連するやや高度な教科書風の参考書
惑星科学入門	松井孝典 / 講談社学術文庫 / 4-06-159222-X / 講義内容の一部に関連する参考書

その他、以下のものが参考となる。

- 安藤雅孝・吉井敏尅「地震 - 理科年表読本」(丸善, 1993)4-621-03831-1
- 藤田和夫「変動する日本列島」(岩波新書, 1985)4-00-420306-6
- 松田時彦「活断層」(岩波新書, 1995)4-00-430423-7
- 平朝彦「日本列島の誕生」(岩波新書, 1990)4-00-430148-3
- Kenneth J. Hsü 高柳洋吉訳「地球科学に革命を起こした船 - グローマーマチャレンジャー号」(東海大学出版会, 1999)4-486-01460-X
- 土木学会関西支部編「地盤の科学 地面の下をのぞいてみると・・・」(講談社ブルーバックス, 1995)4-06-257088-2
- 池田安隆・他「活断層とは何か」(東海大学出版会, 1996)4-13-063309-0
- 寒川旭「地震考古学 遺跡が語る地震の歴史」(中公新書, 1992)4-12-101096-5
- 上田誠也「プレートテクトニクス」(岩波書店, 1989)4-00-005929-7
- 瀬野徹三「プレートテクトニクスの基礎」(朝倉書店, 1995)4-254-16029-1

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

国土地理院、気象庁、産業技術総合研究所地質調査総合センター、防災科学技術研究所などのホームページ

その他 / Others

シミュレーション S

15201

担当者名 / Instructor 小池 行弘

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

統計学や線形代数学は社会科学においてもよく利用される数理的な手段となっている。大量のデータを一度に扱うために計算機は欠かせないが、この授業においてはEXCELのみを利用して数理的な手法を習得するのがねらいである。受講に当たってはEXCELの基本的な操作(数値や数式の入力、統計量の計算等)に習熟していることが望ましい。また数学的な内容としては主に線形代数、統計学を用いる。

到達目標 / Focus and Goal

- ・数理的な問題処理をEXCELを用いて解決すること。
- ・回帰分析における回帰係数を求めること。
- ・線形計画問題をSimplex法で解くこと。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	EXCELによる金利計算	72の法則
第2～4回目	生存時間解析と年金シミュレーション	平均寿命、負担と給付、ソルバー
第5～7回目	回帰分析	回帰直線、回帰係数、配列関数、逆行列
第8～10回目	線形計画法	図解法、Simplex法、連立1次方程式
第11～13回目	確率分布	二項分布、正規分布、検定
第14回目	問題演習	

 (学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	50 %	回帰分析・線形計画法についての筆記試験
日常点	50 %	授業時に作成したEXCELシート等

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

教材フォルダに用意したEXCELシートに記入しながら授業を進める予定

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

授業の概要 / Course Description

車のCMを見ていて、車のホイールが、進行方向とは逆に回転しているのを見たことはないだろうか。これは、アナログからデジタルに変換する過程で起こる、情報の欠落によるのであるが、おわかりだろうか。

また、人間の未来は、多くの可能性を秘めており、不確定であるが故に、可能性を過大に評価していないだろうか。我々人類が得ることのできる知識の限界や、量をはかり、提示することはできるのであるか。

コンピュータを利用した技術は、日進月歩の進展を見せており、人工知能や人工生命あるいはロボットなど、情報に関わる技術は、映画「2001年宇宙の旅」や「マトリックス」のように、人類を脅かすものとなっていくのだろうか。コンピュータの能力は人間の能力に匹敵するものなのだろうか。このような答えの一端をこの授業で明らかにしていく。

到達目標 / Focus and Goal

情報化とはどのようなことか。また、情報化の進んでいく方向を見極める目を養うことを目的とし、情報処理のメカニズムについて理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特になし

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ 情報科学で扱うこと	キーワード 情報 表現 処理 アナログとデジタル 連続と離散
第2回	テーマ 情報概念出現の歴史的背景と科学的背景	キーワード 物質 エネルギー 情報 汎用化
第3回	テーマ 情報とネット社会の現状	キーワード 世界的盗聴システム エシロン 情報の表現と人類の限界 情報公開とプライバシー保護
第4回	テーマ 情報の表現をどのようにするか	キーワード 符号化と復号化 暗号 個人認証
第5回	テーマ 最適な情報の表現について考える	キーワード コンパクト符号 ハフマンの符号化法 情報の圧縮
第6回	テーマ 情報の価値を科学的に量るために	キーワード 情報量 エントロピー 生起確率
第7回	テーマ 情報量を求めてみる	キーワード TV 光の三原色 DVD CD サイコロ
第8回	テーマ 機械的自動処理のメカニズム	キーワード 人工生命 複雑系 オートマン セル オートマン
第9回	テーマ オートマトンによる情報処理の表現	キーワード 状態図 オートマトンによる認識 形式言語
第10回	テーマ 生物の情報処理のメカニズムを真似て	キーワード 脳 マカロックとビッツ 神経回路網 人工知能 生物知能 自動機械
第11回	テーマ コンピュータの原理を考える	キーワード チューリングマシン コンピュータ
第12回	テーマ 人間と計算機の情報処理能力の比較	キーワード 生物知能と人工知能 チューリングテストゲーデル
第13回	テーマ 人間とコンピュータの情報処理能力を比較する2	キーワード 人間の能力 計算機の能力
第14回	テーマ 全体のまとめ	
第15回	テーマ テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

Turing Testなど授業中に随時レポートを指示します

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	80 %	授業全般にわたっての理解を確認する
レポート	5 %	よく考えられたレポートのみ評価の対象とする
日常点	15 %	授業の進行に従って、問題を出題し、正解が出れば加点する。出席も重視

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書に沿って授業を行う。積み上げ式なので、授業を遅れたり休んだりすると理解しにくい。また、問題には積極的にチャレンジして欲しい。授業を毎回まじめに聞くことが重要。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
情報学概論・Prologプログラミング	吉田要 / 八千代出版(生協書籍部にて販売) / 4-8429-0874-2 /

授業は教科書に沿って

参考書 / Reference Books

授業中随時

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

情報技術と社会 S

13050

担当者名 / Instructor 杉本 英昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

近年の情報技術の発展により、我々の社会は急速に高度情報化社会へ移行している。

本講義では我々の社会において、どのような情報技術が、どのように活用されているかを説明し、情報技術が社会に与える影響について考える。

講義では日常生活で利用されている情報技術の具体的な例を取り上げて説明するとともに、情報技術そのものに関する最新のニュースや情報技術が関係したニュースを取り上げ、社会に与えた影響について考察する。

到達目標 / Focus and Goal

- (1) 講義で説明する情報技術やそれらを用いた製品・サービスについてその仕組みを説明できる。
- (2) 情報技術を用いた製品・サービスが社会に与える影響(長所、短所、問題点など)について説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

特に無し。

WebCTの使い方などは講義の中で説明する。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス(講義の進め方、評価方法、WebCTについて)、情報技術とは?	WebCT、IT、ICT
第2回	情報化社会への歴史	インターネット発展の歴史、日本における情報化社会発展の歴史、デジタルディバイド
第3回	ハードウェアの基礎	コンピュータの5大装置、次世代DVD(Blu-ray Disk, HD-DVD)、新世代DVD(HVD)
第4回	ソフトウェアの基礎	ソフトウェアの分類、ユーザビリティ
第5回	プログラミングの基礎	Java言語、Ajax(Asynchronous JavaScript and XML)、DHTML、Google Maps
第6回	メディアとしてのブログ	ブログ、RSS、Wiki、アフィリエイト、ポッドキャスト、ビデオブログ(ブイログ:Vlog)
第7回	ビジネスにおける情報技術の活用	インターネット広告、Google PageRank、SEO(Search Engine Optimization:サーチエンジン最適化)
第8回	ICタグビジネス	ユビキタスコンピューティング、RFID、ICタグ、ICカード
第9回	地域社会における情報技術の活用	電子政府、電子自治体、e-Japan戦略、u-Japan政策、電子投票、SNS(Social Networking Service)
第10回	医療分野における情報技術の活用	X線CT、MRI、病院情報システム、電子カルテ、地域医療
第11回	個人情報の保護	個人情報、個人情報保護法
第12回	放送と通信の融合	放送法、電気通信事業法、行政規制、著作権法、ワンセグ放送
第13回	情報技術と法律	著作権、特許、ビジネスモデル特許、日本版SOX法、コンプライアンス(法令遵守)
第14回	まとめ	最新の話、Web2.0、EPIC2014
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

講義の内容を復習するとともに、講義で紹介したWWWサイトやサービスを、オープンルーム等で可能な限り実際に利用して欲しい。

講義を受ける前に閲覧・利用が望まれるWWWサイト等がある場合は、事前に指示する。

日々の生活においても、情報技術に関するニュースに出来る限り関心を持って欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	70 %	(1) 講義で説明した情報技術やそれらを用いた製品・サービスについてその仕組みを説明できるかを問う。(2) 講義で説明した情報技術を用いた製品・サービスが社会に与える影響(長所、短所、問題点など)について説明できるかを問う。
レポート	30 %	与えたテーマ(課題)について実際のWebサービス等を利用し、その長所・短所や問題点の指摘および改善のための提言ができていないかを問う。

レポート対象とする題材(情報技術を用いた製品やサービス)については、受講生各自が自由に選択できるような課題にする。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

受講にあたっては基本的には予習は不要である。講義の内容をよく復習してほしい。
予習が必要な場合は、事前に指示する。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。
講義中に適宜プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
情報通信ハンドブック2006年版	情報通信総合研究所 / 情報通信総合研究所 / 4915724875 / 情報通信に関する最新のデータについてさらに知りたい人への参考書。
インターネット広告	太駄 健司 / 翔泳社 / 4798108332 / インターネット広告についてその仕組みや得られる効果などを図表を用いて説明している。インターネット広告についてさらに詳しく知りたい人への参考書。
コンピュータ写真で見る歴史	クリスチャン・ワースター / タッセンジャパン / 4887831749 / 講義の中でもOHCを用いて本書の写真を提示する。コンピュータの歴史について知りたい人への参考書。
1セグ放送教科書	羽鳥 光俊 / インプレス / 4844321188 / 1セグ放送についてその仕組みを詳しく解説した本。
本格学習 Java入門	佐々木 整 / 技術評論社 / 4774120022 / Java言語でプログラム(ソフトウェア)を作成してみたい人への参考書。プログラミングの経験のある人向け。
入門 ビジネスRSS	ケイズプロダクション / ラトルズ / 4899771142 / RSSフィードによる情報配信について興味がある人への参考書。RSSの基礎からビジネスへの利用まで幅広く説明されている。
ブログ・オン・ビジネス - 企業のためのブログ・マーケティング -	シックス・アパート株式会社 / 日経BP / 4822244946 / ブログを活用したマーケティングについて興味のある人への参考書。
ICタグって何だ? ユビキタス社会を実現するRFID技術 テクノロジーを知る	NTTデータユビキタス研究会 / カットシステム / 4877830952 / ICタグの実物が付録として付いている。ICタグやユビキタス社会について知りたい人向けの参考書。
よくわかる u-Japan政策	総務省/ユビキタスネット社会の実現に向けた政策懇談会 / ぎょうせい / 4324076340 / 政府の掲げる「u-Japan政策」についての解説書。
インターネットの法律相談 [全訂版]	牧野 和夫 / 学陽書房 / 4313511261 / インターネットに関する法律問題について豊富な実例で詳しく説明している。
ケータイ白書2006	モバイル・コンテンツ・フォーラム / インプレス / 4844321803 / 携帯電話に関するデータについてさらに知りたい人への参考書。
はじめる! 楽しむ! ポッドキャスト!	「Podcast Now!」管理人JJ / 毎日コミュニケーションズ / 4839918279 / ポッドキャストの聴き方から番組配信の方法まで具体的に解説している。

講義では、上記参考書の中から適宜データ等を取り上げて説明する。
講義で取り扱う各テーマについて、さらに詳しく知りたい人はぜひ読んでほしい。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

日経BP記事検索サービス : <http://www.ritsumei.ac.jp/acd/mr/lib/sogo/nikkeibp.htm>
Japan.internet.com デイリーリサーチ : <http://japan.internet.com/research/>
IT media ニュース : <http://www.itmedia.co.jp/news/>
CNET Japan : <http://japan.cnet.com/>
Japan.internet.com : <http://japan.internet.com/>
ITmedia +D モバイル : <http://plusd.itmedia.co.jp/mobile/>
INTERNET Watch : <http://internet.watch.impress.co.jp/>
NIKKEI NET インターネット IT-PLUS : <http://it.nikkei.co.jp/internet/>

上記サイトの他にも、参考になるWWWサイトやWWWページ(記事)を講義の中で紹介する。

その他 / Others

情報技術と社会 N

20317

担当者名 / Instructor 杉本 英昭

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

近年の情報技術の発展により、我々の社会は急速に高度情報化社会へ移行している。

本講義では我々の社会において、どのような情報技術が、どのように活用されているかを説明し、情報技術が社会に与える影響について考える。

講義では日常生活で利用されている情報技術の具体的な例を取り上げて説明するとともに、情報技術そのものに関する最新のニュースや情報技術が関係したニュースを取り上げ、社会に与えた影響について考察する。

到達目標 / Focus and Goal

- (1) 講義で説明する情報技術やそれらを用いた製品・サービスについてその仕組みを説明できる。
- (2) 情報技術を用いた製品・サービスが社会に与える影響(長所、短所、問題点など)について説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

特に無し。

WebCTの使い方などは講義の中で説明する。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス(講義の進め方、評価方法、WebCTについて)、情報技術とは?	WebCT、IT、ICT
第2回	情報化社会への歴史	インターネット発展の歴史、日本における情報化社会発展の歴史、デジタルディバイド
第3回	ハードウェアの基礎	コンピュータの5大装置、次世代DVD (Blu-ray Disk, HD-DVD)、新世代DVD (HVD)
第4回	ソフトウェアの基礎	ソフトウェアの分類、ユーザビリティ
第5回	プログラミングの基礎	Java言語、Ajax (Asynchronous JavaScript and XML)、DHTML、Google Maps
第6回	メディアとしてのブログ	ブログ、RSS、Wiki、アフィリエイト、ポッドキャスト、ビデオブログ(ブイログ:Vlog)
第7回	ビジネスにおける情報技術の活用	インターネット広告、Google PageRank、SEO (Search Engine Optimization: サーチエンジン最適化)
第8回	ICタグビジネス	ユビキタスコンピューティング、RFID、ICタグ、ICカード
第9回	地域社会における情報技術の活用	電子政府、電子自治体、e-Japan戦略、u-Japan政策、電子投票、SNS(Social Networking Service)
第10回	医療分野における情報技術の活用	X線CT、MRI、病院情報システム、電子カルテ、地域医療
第11回	個人情報の保護	個人情報、個人情報保護法
第12回	放送と通信の融合	放送法、電気通信事業法、行政規制、著作権法、ワンセグ放送
第13回	情報技術と法律	著作権、特許、ビジネスモデル特許、日本版SOX法、コンプライアンス(法令遵守)
第14回	まとめ	最新の話、Web2.0、EPIC2014
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

講義の内容を復習するとともに、講義で紹介したWWWサイトやサービスを、オープンルーム等で可能な限り実際に利用して欲しい。

講義を受ける前に閲覧・利用が望まれるWWWサイト等がある場合は、事前に指示する。

日々の生活においても、情報技術に関するニュースに出来る限り関心を持って欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	70 %	(1) 講義で説明した情報技術やそれらを用いた製品・サービスについてその仕組みを説明できるかを問う。(2) 講義で説明した情報技術を用いた製品・サービスが社会に与える影響(長所、短所、問題点など)について説明できるかを問う。
レポート	30 %	与えたテーマ(課題)について実際のWebサービス等を利用し、その長所・短所や問題点の指摘および改善のための提言ができていないかを問う。

レポート対象とする題材(情報技術を用いた製品やサービス)については、受講生各自が自由に選択できるような課題にする。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

受講にあたっては基本的には予習は不要である。講義の内容をよく復習してほしい。
予習が必要な場合は、事前に指示する。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。
講義中に適宜プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
情報通信ハンドブック2006年版	情報通信総合研究所 / 情報通信総合研究所 / 4915724875 / 情報通信に関する最新のデータについてさらに知りたい人への参考書。
インターネット広告	太駄 健司 / 翔泳社 / 4798108332 / インターネット広告についてその仕組みや得られる効果などを図表を用いて説明している。インターネット広告についてさらに詳しく知りたい人への参考書。
コンピュータ写真で見る歴史	クリスチャン・ワースター / タッセンジャパン / 4887831749 / 講義の中でもOHCを用いて本書の写真を提示する。コンピュータの歴史について知りたい人への参考書。
1セグ放送教科書	羽鳥 光俊 / インプレス / 4844321188 / 1セグ放送についてその仕組みを詳しく解説した本。
本格学習 Java入門	佐々木 整 / 技術評論社 / 4774120022 / Java言語でプログラム(ソフトウェア)を作成してみたい人への参考書。プログラミングの経験のある人向け。
入門 ビジネスRSS	ケイズプロダクション / ラトルズ / 4899771142 / RSSフィードによる情報配信について興味がある人への参考書。RSSの基礎からビジネスへの利用まで幅広く説明されている。
ブログ・オン・ビジネス - 企業のためのブログ・マーケティング -	シックス・アパート株式会社 / 日経BP / 4822244946 / ブログを活用したマーケティングについて興味のある人への参考書。
ICタグって何だ? ユビキタス社会を実現するRFID技術 テクノロジーを知る	NTTデータユビキタス研究会 / カットシステム / 4877830952 / ICタグの実物が付録として付いている。ICタグやユビキタス社会について知りたい人向けの参考書。
よくわかる u-Japan政策	総務省/ユビキタスネット社会の実現に向けた政策懇談会 / ぎょうせい / 4324076340 / 政府の掲げる「u-Japan政策」についての解説書。
インターネットの法律相談 [全訂版]	牧野 和夫 / 学陽書房 / 4313511261 / インターネットに関する法律問題について豊富な事例で詳しく説明している。
ケータイ白書2006	モバイル・コンテンツ・フォーラム / インプレス / 4844321803 / 携帯電話に関するデータについてさらに知りたい人への参考書。
はじめる!楽しむ!ポッドキャスト!	「Podcast Now!」管理人JJ / 毎日コミュニケーションズ / 4839918279 / ポッドキャストの聴き方から番組配信の方法まで具体的に解説している。

講義では、上記参考書の中から適宜データ等を取り上げて説明する。
講義で取り扱う各テーマについて、さらに詳しく知りたい人はぜひ読んでほしい。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

日経BP記事検索サービス : <http://www.ritsumei.ac.jp/acd/mr/lib/sogo/nikkeibp.htm>
Japan.internet.com デイリーリサーチ : <http://japan.internet.com/research/>
IT media ニュース : <http://www.itmedia.co.jp/news/>
CNET Japan : <http://japan.cnet.com/>
Japan.internet.com : <http://japan.internet.com/>
ITmedia +D モバイル : <http://plusd.itmedia.co.jp/mobile/>
INTERNET Watch : <http://internet.watch.impress.co.jp/>
NIKKEI NET インターネット IT-PLUS : <http://it.nikkei.co.jp/internet/>

上記サイトの他にも、参考になるWWWサイトやWWWページ(記事)を講義の中で紹介する。

その他 / Others

情報の数理 GA

15043

担当者名 / Instructor 原 啓介

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「情報」とは何か、について数学的に考察する。「情報」は現実の自然や社会とも密接に関係している一方、数学的にもあらゆる分野と関係する、素朴ではあるが非常に深い概念である。この講義では様々な数学の道具を用いて、「情報」に関する数学について易しく講義する。

到達目標 / Focus and Goal

情報理論の基本的概念について学ぶこと。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

文系の高校生程度の数学に習熟していること。例えば、微積分の初歩、ベクトルと行列、など。理系の高校生程度の数学の知識があれば、なお望ましい。しかし、講義全体として、ほとんど高度な数学は使用しないし、必要な情報はその度に説明するよう努力する。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	情報理論とコーディング(コード化)	
	コーディングの性質(一意復号可能性、即時性、etc)	
	Kraft の不等式、McMillan の不等式	
	最適コード:1	
	最適コード:2	
	エントロピの概念と性質:1	
	エントロピの概念と性質:2	
	エントロピの概念と性質:3	
	情報通信経路の問題:1	
	情報通信経路の問題:2	
	情報通信経路の問題:3	
	その他の話題(誤り訂正符号など、約3回)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	100 %	
中間と最終の二回のレポート提出で評価する。 レポート課題については講義の中で与える。		

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

特になし。情報理論については多くの教科書や専門書が存在するが、それらは概ね専門家向けのものであって、おそらくこの講義より易しく解説されているものは存在しない。

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

数理の世界 GA

14937

担当者名 / Instructor 原 啓介

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「数学」とは何か、「数学者」はどんなことをしているのか、について、易しく解説することを目標とする。
 具体的な例として、確率の概念を数学者はもとらえてきたか、
 数の概念の発展や、面積や体積とは何かといった素朴な疑問が、いかに高度な現代数学に発展していくかを
 題材として解説したい。

到達目標 / Focus and Goal

科目の性質上、達成目標といったものはない。
 概要を参考にされたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特にない。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	数学とは、数学者とは？	
	「確率」をどう扱うか(約4回)	
	「数」をどう作るか(約4回)	
	幾何的な問題について(約4回)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	100 %	
中間レポートと最終レポートの二回で評価する。 課題は講義の中で与える。		

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

講義の性質上、全15回の各回にどのような項目を学ぶかを
 現時点で決定しておくことはできない。おおよそ、上記の
 ような進捗を進めることを予定している。

教科書 / Textbooks

特にない

参考書 / Reference Books

講義の中で、その都度、参考になる書籍、関係図書などを挙げる。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

情報リテラシーI SA

11831

担当者名 / Instructor 長澤 克重

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Focus and Goal

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	
3	インターネット 検索エンジンの利用方法、検索実習、ネットワークの利用とマナー	
4	Webメール 送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理	
5	Webメール メールの整理、添付の利用、データの圧縮・解凍(紹介)、メールのマナー	
6	学術情報 RUNNERS、NACSISWebcat、データベース機能	
7	学術情報 データベースの利用、著作権等、【課題】データ検索(メール添付)	
8	Word Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、入力、範囲選択、編集、配置)	
9	Word 文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、練習問題)	
10	Word 表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設定、練習問題)、【課題】Word文書作成	
11	Excel Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、練習問題)	
12	Excel 表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形式、書式設定、練習問題)	
13	Excel 関数の復習、絶対参照、【課題】表計算	
14	最終講義日試験 筆記	
	中級クラス	
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い、ファイル・フォルダの取扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	

3	インターネット	検索エンジンの便利な利用方法、検索 実習、ネットワークの利用とマナー
4	Webメール	送受信、アドレス帳の登録と利用、メール の検索、メールの整理
5	Webメール	メールの整理、添付の利用、データの圧 縮・解凍方法、メールのマナー
6	学術情報	RUNNERS、NACSISWebcat、データベース 機能
7	学術情報	データベースの利用、著作権等、【課題】 データ検索(メール添付)
8	Word	Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、 入力、範囲選択、編集、配置)
9	Word	文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、 練習問題)
10	Word	表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設 定、練習問題)、【課題】Word文書作成
11	Excel	Excelの基本操作、データ入力(文字データと数 値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、 練習問題)
12	Excel	表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形 式、書式設定、絶対参照)
13	Excel	関数・絶対参照の復習、【課題】表計算
14		最終講義日試験 筆記

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーI SB

11832

担当者名 / Instructor 長澤 克重

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法 (Windowsの操作、ワープロ、表計算) と情報ネットワーク (e-mail、インターネットWWW) の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Focus and Goal

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
初級クラス		
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	
3	インターネット 検索エンジンの利用方法、検索実習、ネットワークの利用とマナー	
4	Webメール 送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理	
5	Webメール メールの整理、添付の利用、データの圧縮・解凍(紹介)、メールのマナー	
6	学術情報 RUNNERS、NACSISWebcat、データベース機能	
7	学術情報 データベースの利用、著作権等、【課題】データ検索(メール添付)	
8	Word Wordの基本操作、文書の作成 (ページ設定、入力、範囲選択、編集、配置)	
9	Word 文書の作成 (インデント、装飾、保存、印刷、練習問題)	
10	Word 表の作成 (表の作成練習、選択方法、書式設定、練習問題)、【課題】Word文書作成	
11	Excel Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、練習問題)	
12	Excel 表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形式、書式設定、練習問題)	
13	Excel 関数の復習、絶対参照、【課題】表計算	
14	最終講義日試験 筆記	
中級クラス		
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い、ファイル・フォルダの取扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	

3	インターネット	検索エンジンの便利な利用方法、検索 実習、ネットワークの利用とマナー
4	Webメール	送受信、アドレス帳の登録と利用、メール の検索、メールの整理
5	Webメール	メールの整理、添付の利用、データの圧 縮・解凍方法、メールのマナー
6	学術情報	RUNNERS、NACSISWebcat、データベース 機能
7	学術情報	データベースの利用、著作権等、【課題】 データ検索(メール添付)
8	Word	Wordの基本操作、文書の作成 (ページ設定、 入力、範囲選択、編集、配置)
9	Word	文書の作成 (インデント、装飾、保存、印刷、 練習問題)
10	Word	表の作成 (表の作成練習、選択方法、書式設 定、練習問題)、【課題】Word文書作成
11	Excel	Excelの基本操作、データ入力(文字データと数 値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、 練習問題)
12	Excel	表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形 式、書式設定、絶対参照)
13	Excel	関数・絶対参照の復習、【課題】表計算
14		最終講義日試験 筆記

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーI SC

11833

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Focus and Goal

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
初級クラス		
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	
3	インターネット 検索エンジンの利用方法、検索実習、ネットワークの利用とマナー	
4	Webメール 送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理	
5	Webメール メールの整理、添付の利用、データの圧縮・解凍(紹介)、メールのマナー	
6	学術情報 RUNNERS、NACSISWebcat、データベース機能	
7	学術情報 データベースの利用、著作権等、【課題】データ検索(メール添付)	
8	Word Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、入力、範囲選択、編集、配置)	
9	Word 文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、練習問題)	
10	Word 表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設定、練習問題)、【課題】Word文書作成	
11	Excel Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、練習問題)	
12	Excel 表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形式、書式設定、練習問題)	
13	Excel 関数の復習、絶対参照、【課題】表計算	
14	最終講義日試験 筆記	
中級クラス		
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い、ファイル・フォルダの取扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	

3	インターネット	検索エンジンの便利な利用方法、検索 実習、ネットワークの利用とマナー
4	Webメール	送受信、アドレス帳の登録と利用、メール の検索、メールの整理
5	Webメール	メールの整理、添付の利用、データの圧 縮・解凍方法、メールのマナー
6	学術情報	RUNNERS、NACSISWebcat、データベース 機能
7	学術情報	データベースの利用、著作権等、【課題】 データ検索(メール添付)
8	Word	Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、 入力、範囲選択、編集、配置)
9	Word	文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、 練習問題)
10	Word	表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設 定、練習問題)、【課題】Word文書作成
11	Excel	Excelの基本操作、データ入力(文字データと数 値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、 練習問題)
12	Excel	表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形 式、書式設定、絶対参照)
13	Excel	関数・絶対参照の復習、【課題】表計算
14		最終講義日試験 筆記

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーI SD

11834

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Focus and Goal

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシーレベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なおの、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	
3	インターネット 検索エンジンの利用方法、検索実習、ネットワークの利用とマナー	
4	Webメール 送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理	
5	Webメール メールの整理、添付の利用、データの圧縮・解凍(紹介)、メールのマナー	
6	学術情報 RUNNERS、NACSISWebcat、データベース機能	
7	学術情報 データベースの利用、著作権等、【課題】データ検索(メール添付)	
8	Word Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、入力、範囲選択、編集、配置)	
9	Word 文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、練習問題)	
10	Word 表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設定、練習問題)、【課題】Word文書作成	
11	Excel Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、練習問題)	
12	Excel 表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形式、書式設定、練習問題)	
13	Excel 関数の復習、絶対参照、【課題】表計算	
14	最終講義日試験 筆記	
	中級クラス	
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い、ファイル・フォルダの取扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	

3	インターネット	検索エンジンの便利な利用方法、検索 実習、ネットワークの利用とマナー
4	Webメール	送受信、アドレス帳の登録と利用、メール の検索、メールの整理
5	Webメール	メールの整理、添付の利用、データの圧 縮・解凍方法、メールのマナー
6	学術情報	RUNNERS、NACSISWebcat、データベース 機能
7	学術情報	データベースの利用、著作権等、【課題】 データ検索(メール添付)
8	Word	Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、 入力、範囲選択、編集、配置)
9	Word	文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、 練習問題)
10	Word	表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設 定、練習問題)、【課題】Word文書作成
11	Excel	Excelの基本操作、データ入力(文字データと数 値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、 練習問題)
12	Excel	表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形 式、書式設定、絶対参照)
13	Excel	関数・絶対参照の復習、【課題】表計算
14		最終講義日試験 筆記

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーI SE

11835

担当者名 / Instructor 黄 盛彬

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法 (Windowsの操作、ワープロ、表計算) と情報ネットワーク (e-mail、インターネットWWW) の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Focus and Goal

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
初級クラス		
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	
3	インターネット 検索エンジンの利用方法、検索実習、ネットワークの利用とマナー	
4	Webメール 送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理	
5	Webメール メールの整理、添付の利用、データの圧縮・解凍(紹介)、メールのマナー	
6	学術情報 RUNNERS、NACSISWebcat、データベース機能	
7	学術情報 データベースの利用、著作権等、【課題】データ検索(メール添付)	
8	Word Wordの基本操作、文書の作成 (ページ設定、入力、範囲選択、編集、配置)	
9	Word 文書の作成 (インデント、装飾、保存、印刷、練習問題)	
10	Word 表の作成 (表の作成練習、選択方法、書式設定、練習問題)、【課題】Word文書作成	
11	Excel Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、練習問題)	
12	Excel 表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形式、書式設定、練習問題)	
13	Excel 関数の復習、絶対参照、【課題】表計算	
14	最終講義日試験 筆記	
中級クラス		
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い、ファイル・フォルダの取扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	

3	インターネット	検索エンジンの便利な利用方法、検索 実習、ネットワークの利用とマナー
4	Webメール	送受信、アドレス帳の登録と利用、メール の検索、メールの整理
5	Webメール	メールの整理、添付の利用、データの圧 縮・解凍方法、メールのマナー
6	学術情報	RUNNERS、NACSISWebcat、データベース 機能
7	学術情報	データベースの利用、著作権等、【課題】 データ検索(メール添付)
8	Word	Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、 入力、範囲選択、編集、配置)
9	Word	文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、 練習問題)
10	Word	表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設 定、練習問題)、【課題】Word文書作成
11	Excel	Excelの基本操作、データ入力(文字データと数 値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、 練習問題)
12	Excel	表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形 式、書式設定、絶対参照)
13	Excel	関数・絶対参照の復習、【課題】表計算
14		最終講義日試験 筆記

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーI SF

11836

担当者名 / Instructor 黄 盛彬

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Focus and Goal

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
初級クラス		
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	
3	インターネット 検索エンジンの利用方法、検索実習、ネットワークの利用とマナー	
4	Webメール 送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理	
5	Webメール メールの整理、添付の利用、データの圧縮・解凍(紹介)、メールのマナー	
6	学術情報 RUNNERS、NACSISWebcat、データベース機能	
7	学術情報 データベースの利用、著作権等、【課題】データ検索(メール添付)	
8	Word Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、入力、範囲選択、編集、配置)	
9	Word 文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、練習問題)	
10	Word 表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設定、練習問題)、【課題】Word文書作成	
11	Excel Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、練習問題)	
12	Excel 表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形式、書式設定、練習問題)	
13	Excel 関数の復習、絶対参照、【課題】表計算	
14	最終講義日試験 筆記	
中級クラス		
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い、ファイル・フォルダの取扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	

3	インターネット	検索エンジンの便利な利用方法、検索 実習、ネットワークの利用とマナー
4	Webメール	送受信、アドレス帳の登録と利用、メール の検索、メールの整理
5	Webメール	メールの整理、添付の利用、データの圧 縮・解凍方法、メールのマナー
6	学術情報	RUNNERS、NACSISWebcat、データベース 機能
7	学術情報	データベースの利用、著作権等、【課題】 データ検索(メール添付)
8	Word	Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、 入力、範囲選択、編集、配置)
9	Word	文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、 練習問題)
10	Word	表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設 定、練習問題)、【課題】Word文書作成
11	Excel	Excelの基本操作、データ入力(文字データと数 値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、 練習問題)
12	Excel	表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形 式、書式設定、絶対参照)
13	Excel	関数・絶対参照の復習、【課題】表計算
14		最終講義日試験 筆記

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

授業の概要 / Course Description

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Focus and Goal

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	
3	インターネット 検索エンジンの利用方法、検索実習、ネットワークの利用とマナー	
4	Webメール 送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理	
5	Webメール メールの整理、添付の利用、データの圧縮・解凍(紹介)、メールのマナー	
6	学術情報 RUNNERS、NACSISWebcat、データベース機能	
7	学術情報 データベースの利用、著作権等、【課題】データ検索(メール添付)	
8	Word Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、入力、範囲選択、編集、配置)	
9	Word 文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、練習問題)	
10	Word 表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設定、練習問題)、【課題】Word文書作成	
11	Excel Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、練習問題)	
12	Excel 表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形式、書式設定、練習問題)	
13	Excel 関数の復習、絶対参照、【課題】表計算	
14	最終講義日試験 筆記	
	中級クラス	
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い、ファイル・フォルダの取扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	

3	インターネット	検索エンジンの便利な利用方法、検索 実習、ネットワークの利用とマナー
4	Webメール	送受信、アドレス帳の登録と利用、メール の検索、メールの整理
5	Webメール	メールの整理、添付の利用、データの圧 縮・解凍方法、メールのマナー
6	学術情報	RUNNERS、NACSISWebcat、データベース 機能
7	学術情報	データベースの利用、著作権等、【課題】 データ検索(メール添付)
8	Word	Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、 入力、範囲選択、編集、配置)
9	Word	文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、 練習問題)
10	Word	表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設 定、練習問題)、【課題】Word文書作成
11	Excel	Excelの基本操作、データ入力(文字データと数 値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、 練習問題)
12	Excel	表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形 式、書式設定、絶対参照)
13	Excel	関数・絶対参照の復習、【課題】表計算
14		最終講義日試験 筆記

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーI SH

11838

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Focus and Goal

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
初級クラス		
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	
3	インターネット 検索エンジンの利用方法、検索実習、ネットワークの利用とマナー	
4	Webメール 送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理	
5	Webメール メールの整理、添付の利用、データの圧縮・解凍(紹介)、メールのマナー	
6	学術情報 RUNNERS、NACSISWebcat、データベース機能	
7	学術情報 データベースの利用、著作権等、【課題】データ検索(メール添付)	
8	Word Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、入力、範囲選択、編集、配置)	
9	Word 文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、練習問題)	
10	Word 表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設定、練習問題)、【課題】Word文書作成	
11	Excel Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、練習問題)	
12	Excel 表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形式、書式設定、練習問題)	
13	Excel 関数の復習、絶対参照、【課題】表計算	
14	最終講義日試験 筆記	
中級クラス		
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い、ファイル・フォルダの取扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	

3	インターネット	検索エンジンの便利な利用方法、検索 実習、ネットワークの利用とマナー
4	Webメール	送受信、アドレス帳の登録と利用、メール の検索、メールの整理
5	Webメール	メールの整理、添付の利用、データの圧 縮・解凍方法、メールのマナー
6	学術情報	RUNNERS、NACSISWebcat、データベース 機能
7	学術情報	データベースの利用、著作権等、【課題】 データ検索(メール添付)
8	Word	Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、 入力、範囲選択、編集、配置)
9	Word	文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、 練習問題)
10	Word	表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設 定、練習問題)、【課題】Word文書作成
11	Excel	Excelの基本操作、データ入力(文字データと数 値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、 練習問題)
12	Excel	表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形 式、書式設定、絶対参照)
13	Excel	関数・絶対参照の復習、【課題】表計算
14		最終講義日試験 筆記

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーI SI

11839

担当者名 / Instructor 長澤 克重

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法 (Windowsの操作、ワープロ、表計算) と情報ネットワーク (e-mail、インターネットWWW) の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Focus and Goal

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
初級クラス		
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	
3	インターネット 検索エンジンの利用方法、検索実習、ネットワークの利用とマナー	
4	Webメール 送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理	
5	Webメール メールの整理、添付の利用、データの圧縮・解凍(紹介)、メールのマナー	
6	学術情報 RUNNERS、NACSISWebcat、データベース機能	
7	学術情報 データベースの利用、著作権等、【課題】データ検索(メール添付)	
8	Word Wordの基本操作、文書の作成 (ページ設定、入力、範囲選択、編集、配置)	
9	Word 文書の作成 (インデント、装飾、保存、印刷、練習問題)	
10	Word 表の作成 (表の作成練習、選択方法、書式設定、練習問題)、【課題】Word文書作成	
11	Excel Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、練習問題)	
12	Excel 表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形式、書式設定、練習問題)	
13	Excel 関数の復習、絶対参照、【課題】表計算	
14	最終講義日試験 筆記	
中級クラス		
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い、ファイル・フォルダの取扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	

3	インターネット	検索エンジンの便利な利用方法、検索 実習、ネットワークの利用とマナー
4	Webメール	送受信、アドレス帳の登録と利用、メール の検索、メールの整理
5	Webメール	メールの整理、添付の利用、データの圧 縮・解凍方法、メールのマナー
6	学術情報	RUNNERS、NACSISWebcat、データベース 機能
7	学術情報	データベースの利用、著作権等、【課題】 データ検索(メール添付)
8	Word	Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、 入力、範囲選択、編集、配置)
9	Word	文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、 練習問題)
10	Word	表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設 定、練習問題)、【課題】Word文書作成
11	Excel	Excelの基本操作、データ入力(文字データと数 値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、 練習問題)
12	Excel	表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形 式、書式設定、絶対参照)
13	Excel	関数・絶対参照の復習、【課題】表計算
14		最終講義日試験 筆記

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーI SJ

11840

担当者名 / Instructor 長澤 克重

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法 (Windowsの操作、ワープロ、表計算) と情報ネットワーク (e-mail、インターネットWWW) の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Focus and Goal

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
初級クラス		
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	
3	インターネット 検索エンジンの利用方法、検索実習、ネットワークの利用とマナー	
4	Webメール 送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理	
5	Webメール メールの整理、添付の利用、データの圧縮・解凍(紹介)、メールのマナー	
6	学術情報 RUNNERS、NACSISWebcat、データベース機能	
7	学術情報 データベースの利用、著作権等、【課題】データ検索(メール添付)	
8	Word Wordの基本操作、文書の作成 (ページ設定、入力、範囲選択、編集、配置)	
9	Word 文書の作成 (インデント、装飾、保存、印刷、練習問題)	
10	Word 表の作成 (表の作成練習、選択方法、書式設定、練習問題)、【課題】Word文書作成	
11	Excel Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、練習問題)	
12	Excel 表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形式、書式設定、練習問題)	
13	Excel 関数の復習、絶対参照、【課題】表計算	
14	最終講義日試験 筆記	
中級クラス		
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い、ファイル・フォルダの取扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	

3	インターネット	検索エンジンの便利な利用方法、検索 実習、ネットワークの利用とマナー
4	Webメール	送受信、アドレス帳の登録と利用、メール の検索、メールの整理
5	Webメール	メールの整理、添付の利用、データの圧 縮・解凍方法、メールのマナー
6	学術情報	RUNNERS、NACSISWebcat、データベース 機能
7	学術情報	データベースの利用、著作権等、【課題】 データ検索(メール添付)
8	Word	Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、 入力、範囲選択、編集、配置)
9	Word	文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、 練習問題)
10	Word	表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設 定、練習問題)、【課題】Word文書作成
11	Excel	Excelの基本操作、データ入力(文字データと数 値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、 練習問題)
12	Excel	表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形 式、書式設定、絶対参照)
13	Excel	関数・絶対参照の復習、【課題】表計算
14		最終講義日試験 筆記

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーI SK

11841

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法 (Windowsの操作、ワープロ、表計算) と情報ネットワーク (e-mail、インターネットWWW) の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Focus and Goal

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	
3	インターネット 検索エンジンの利用方法、検索実習、ネットワークの利用とマナー	
4	Webメール 送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理	
5	Webメール メールの整理、添付の利用、データの圧縮・解凍(紹介)、メールのマナー	
6	学術情報 RUNNERS、NACSISWebcat、データベース機能	
7	学術情報 データベースの利用、著作権等、【課題】データ検索(メール添付)	
8	Word Wordの基本操作、文書の作成 (ページ設定、入力、範囲選択、編集、配置)	
9	Word 文書の作成 (インデント、装飾、保存、印刷、練習問題)	
10	Word 表の作成 (表の作成練習、選択方法、書式設定、練習問題)、【課題】Word文書作成	
11	Excel Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、練習問題)	
12	Excel 表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形式、書式設定、練習問題)	
13	Excel 関数の復習、絶対参照、【課題】表計算	
14	最終講義日試験 筆記	
	中級クラス	
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い、ファイル・フォルダの取扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	

3	インターネット	検索エンジンの便利な利用方法、検索 実習、ネットワークの利用とマナー
4	Webメール	送受信、アドレス帳の登録と利用、メール の検索、メールの整理
5	Webメール	メールの整理、添付の利用、データの圧 縮・解凍方法、メールのマナー
6	学術情報	RUNNERS、NACSISWebcat、データベース 機能
7	学術情報	データベースの利用、著作権等、【課題】 データ検索(メール添付)
8	Word	Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、 入力、範囲選択、編集、配置)
9	Word	文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、 練習問題)
10	Word	表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設 定、練習問題)、【課題】Word文書作成
11	Excel	Excelの基本操作、データ入力(文字データと数 値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、 練習問題)
12	Excel	表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形 式、書式設定、絶対参照)
13	Excel	関数・絶対参照の復習、【課題】表計算
14		最終講義日試験 筆記

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーI SL

11954

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Focus and Goal

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
初級クラス		
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	
3	インターネット 検索エンジンの利用方法、検索実習、ネットワークの利用とマナー	
4	Webメール 送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理	
5	Webメール メールの整理、添付の利用、データの圧縮・解凍(紹介)、メールのマナー	
6	学術情報 RUNNERS、NACSISWebcat、データベース機能	
7	学術情報 データベースの利用、著作権等、【課題】データ検索(メール添付)	
8	Word Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、入力、範囲選択、編集、配置)	
9	Word 文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、練習問題)	
10	Word 表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設定、練習問題)、【課題】Word文書作成	
11	Excel Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、練習問題)	
12	Excel 表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形式、書式設定、練習問題)	
13	Excel 関数の復習、絶対参照、【課題】表計算	
14	最終講義日試験 筆記	
中級クラス		
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い、ファイル・フォルダの取扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	

3	インターネット	検索エンジンの便利な利用方法、検索 実習、ネットワークの利用とマナー
4	Webメール	送受信、アドレス帳の登録と利用、メール の検索、メールの整理
5	Webメール	メールの整理、添付の利用、データの圧 縮・解凍方法、メールのマナー
6	学術情報	RUNNERS、NACSISWebcat、データベース 機能
7	学術情報	データベースの利用、著作権等、【課題】 データ検索(メール添付)
8	Word	Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、 入力、範囲選択、編集、配置)
9	Word	文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、 練習問題)
10	Word	表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設 定、練習問題)、【課題】Word文書作成
11	Excel	Excelの基本操作、データ入力(文字データと数 値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、 練習問題)
12	Excel	表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形 式、書式設定、絶対参照)
13	Excel	関数・絶対参照の復習、【課題】表計算
14		最終講義日試験 筆記

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーI SM

11956

担当者名 / Instructor 黄 盛彬

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法 (Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク (e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Focus and Goal

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
初級クラス		
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	
3	インターネット 検索エンジンの利用方法、検索実習、ネットワークの利用とマナー	
4	Webメール 送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理	
5	Webメール メールの整理、添付の利用、データの圧縮・解凍(紹介)、メールのマナー	
6	学術情報 RUNNERS、NACSISWebcat、データベース機能	
7	学術情報 データベースの利用、著作権等、【課題】データ検索(メール添付)	
8	Word Wordの基本操作、文書の作成 (ページ設定、入力、範囲選択、編集、配置)	
9	Word 文書の作成 (インデント、装飾、保存、印刷、練習問題)	
10	Word 表の作成 (表の作成練習、選択方法、書式設定、練習問題)、【課題】Word文書作成	
11	Excel Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、練習問題)	
12	Excel 表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形式、書式設定、練習問題)	
13	Excel 関数の復習、絶対参照、【課題】表計算	
14	最終講義日試験 筆記	
中級クラス		
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い、ファイル・フォルダの取扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	

3	インターネット	検索エンジンの便利な利用方法、検索 実習、ネットワークの利用とマナー
4	Webメール	送受信、アドレス帳の登録と利用、メール の検索、メールの整理
5	Webメール	メールの整理、添付の利用、データの圧 縮・解凍方法、メールのマナー
6	学術情報	RUNNERS、NACSISWebcat、データベース 機能
7	学術情報	データベースの利用、著作権等、【課題】 データ検索(メール添付)
8	Word	Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、 入力、範囲選択、編集、配置)
9	Word	文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、 練習問題)
10	Word	表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設 定、練習問題)、【課題】Word文書作成
11	Excel	Excelの基本操作、データ入力(文字データと数 値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、 練習問題)
12	Excel	表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形 式、書式設定、絶対参照)
13	Excel	関数・絶対参照の復習、【課題】表計算
14		最終講義日試験 筆記

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーI SN

11957

担当者名 / Instructor 黄 盛彬

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Focus and Goal

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	
3	インターネット 検索エンジンの利用方法、検索実習、ネットワークの利用とマナー	
4	Webメール 送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理	
5	Webメール メールの整理、添付の利用、データの圧縮・解凍(紹介)、メールのマナー	
6	学術情報 RUNNERS、NACSISWebcat、データベース機能	
7	学術情報 データベースの利用、著作権等、【課題】データ検索(メール添付)	
8	Word Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、入力、範囲選択、編集、配置)	
9	Word 文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、練習問題)	
10	Word 表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設定、練習問題)、【課題】Word文書作成	
11	Excel Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、練習問題)	
12	Excel 表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形式、書式設定、練習問題)	
13	Excel 関数の復習、絶対参照、【課題】表計算	
14	最終講義日試験 筆記	
	中級クラス	
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い、ファイル・フォルダの取扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	

3	インターネット	検索エンジンの便利な利用方法、検索 実習、ネットワークの利用とマナー
4	Webメール	送受信、アドレス帳の登録と利用、メール の検索、メールの整理
5	Webメール	メールの整理、添付の利用、データの圧 縮・解凍方法、メールのマナー
6	学術情報	RUNNERS、NACSISWebcat、データベース 機能
7	学術情報	データベースの利用、著作権等、【課題】 データ検索(メール添付)
8	Word	Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、 入力、範囲選択、編集、配置)
9	Word	文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、 練習問題)
10	Word	表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設 定、練習問題)、【課題】Word文書作成
11	Excel	Excelの基本操作、データ入力(文字データと数 値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、 練習問題)
12	Excel	表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形 式、書式設定、絶対参照)
13	Excel	関数・絶対参照の復習、【課題】表計算
14		最終講義日試験 筆記

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーI SO

11958

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Focus and Goal

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	初級クラス	
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	
3	インターネット 検索エンジンの利用方法、検索実習、ネットワークの利用とマナー	
4	Webメール 送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理	
5	Webメール メールの整理、添付の利用、データの圧縮・解凍(紹介)、メールのマナー	
6	学術情報 RUNNERS、NACSISWebcat、データベース機能	
7	学術情報 データベースの利用、著作権等、【課題】データ検索(メール添付)	
8	Word Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、入力、範囲選択、編集、配置)	
9	Word 文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、練習問題)	
10	Word 表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設定、練習問題)、【課題】Word文書作成	
11	Excel Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、練習問題)	
12	Excel 表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形式、書式設定、練習問題)	
13	Excel 関数の復習、絶対参照、【課題】表計算	
14	最終講義日試験 筆記	
	中級クラス	
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い、ファイル・フォルダの取扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	

3	インターネット	検索エンジンの便利な利用方法、検索 実習、ネットワークの利用とマナー
4	Webメール	送受信、アドレス帳の登録と利用、メール の検索、メールの整理
5	Webメール	メールの整理、添付の利用、データの圧 縮・解凍方法、メールのマナー
6	学術情報	RUNNERS、NACSISWebcat、データベース 機能
7	学術情報	データベースの利用、著作権等、【課題】 データ検索(メール添付)
8	Word	Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、 入力、範囲選択、編集、配置)
9	Word	文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、 練習問題)
10	Word	表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設 定、練習問題)、【課題】Word文書作成
11	Excel	Excelの基本操作、データ入力(文字データと数 値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、 練習問題)
12	Excel	表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形 式、書式設定、絶対参照)
13	Excel	関数・絶対参照の復習、【課題】表計算
14		最終講義日試験 筆記

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーI SP

11959

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。

この科目では、パソコンの基本的な利用法(Windowsの操作、ワープロ、表計算)と情報ネットワーク(e-mail、インターネットWWW)の利用法について、入門レベルから体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく。

到達目標 / Focus and Goal

コンピューターの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

情報スキル判定のために、ガイダンス期間中に「情報リテラシー レベル診断」を行う。その結果に基づいて「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。なお、両クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なるため、習得しやすいクラスを選ぶこと。なお、レベル診断の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
初級クラス		
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	
3	インターネット 検索エンジンの利用方法、検索実習、ネットワークの利用とマナー	
4	Webメール 送受信、アドレス帳の登録と利用、メールの検索、メールの整理	
5	Webメール メールの整理、添付の利用、データの圧縮・解凍(紹介)、メールのマナー	
6	学術情報 RUNNERS、NACSISWebcat、データベース機能	
7	学術情報 データベースの利用、著作権等、【課題】データ検索(メール添付)	
8	Word Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、入力、範囲選択、編集、配置)	
9	Word 文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、練習問題)	
10	Word 表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設定、練習問題)、【課題】Word文書作成	
11	Excel Excelの基本操作、データ入力(文字データと数値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、練習問題)	
12	Excel 表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形式、書式設定、練習問題)	
13	Excel 関数の復習、絶対参照、【課題】表計算	
14	最終講義日試験 筆記	
中級クラス		
1	Windows基礎 ID・PW利用の注意点、大学でのシステム利用について、ログイン、文字入力、PC基本操作、タイピング、メディアの取り扱い、ファイル・フォルダの取扱い	
2	Windows実践、コースツール、インターネット ファイル・フォルダの取扱、WebCTの使い方、インターネットの仕組みと情報検索	

3	インターネット	検索エンジンの便利な利用方法、検索 実習、ネットワークの利用とマナー
4	Webメール	送受信、アドレス帳の登録と利用、メール の検索、メールの整理
5	Webメール	メールの整理、添付の利用、データの圧 縮・解凍方法、メールのマナー
6	学術情報	RUNNERS、NACSISWebcat、データベース 機能
7	学術情報	データベースの利用、著作権等、【課題】 データ検索(メール添付)
8	Word	Wordの基本操作、文書の作成(ページ設定、 入力、範囲選択、編集、配置)
9	Word	文書の作成(インデント、装飾、保存、印刷、 練習問題)
10	Word	表の作成(表の作成練習、選択方法、書式設 定、練習問題)、【課題】Word文書作成
11	Excel	Excelの基本操作、データ入力(文字データと数 値データ、計算式、移動・コピー、範囲選択、消去、保存、 練習問題)
12	Excel	表の作成(オートフィル、関数、罫線、表示形 式、書式設定、絶対参照)
13	Excel	関数・絶対参照の復習、【課題】表計算
14		最終講義日試験 筆記

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	出席点、小テスト、最終講義日試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。両クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。

教科書 / Textbooks

使用テキスト: Rainbow Guide2006、情報活用の基礎

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

- ・フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
- ・宿題を数回、提出してもらう予定。
- ・授業に5分以上遅刻したものは欠席と見なす。

情報リテラシーII SA

11892

担当者名 / Instructor 長澤 克重

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習することで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、情報リテラシーIIIは、Eラーニングシステムを利用した自学自習方式で行われる。1ヶ月ごとの進捗状況をEラーニングシステム上で確認するので、所定の進捗に沿って各自学習を進めていくこと。なお、Eラーニングによる学習方法に関するガイダンスが行われるので、必ず出席すること。

到達目標 / Focus and Goal

コンピュータの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期情報リテラシーIの成績によって、「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。前期に実施した「情報リテラシー レベル診断」の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
-----	-----	-----
-----	-----	-----

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	毎月の進捗状況、定期試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

必要に応じて授業中に紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

情報リテラシーII SB

11893

担当者名 / Instructor 長澤 克重

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習することで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、情報リテラシーIIIは、Eラーニングシステムを利用した自学自習方式で行われる。1ヶ月ごとの進捗状況をEラーニングシステム上で確認するので、所定の進捗に沿って各自学習を進めていくこと。なお、Eラーニングによる学習方法に関するガイダンスが行われるので、必ず出席すること。

到達目標 / Focus and Goal

コンピュータの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期情報リテラシーIの成績によって、「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。前期に実施した「情報リテラシー レベル診断」の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	毎月の進捗状況、定期試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

必要に応じて授業中に紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

情報リテラシーII SC

11894

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習することで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、情報リテラシーIIIは、Eラーニングシステムを利用した自学自習方式で行われる。1ヶ月ごとの進捗状況をEラーニングシステム上で確認するので、所定の進捗に沿って各自学習を進めていくこと。なお、Eラーニングによる学習方法に関するガイダンスが行われるので、必ず出席すること。

到達目標 / Focus and Goal

コンピュータの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期情報リテラシーIの成績によって、「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。前期に実施した「情報リテラシー レベル診断」の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	毎月の進捗状況、定期試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

必要に応じて授業中に紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

情報リテラシーII SD

11895

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習することで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、情報リテラシーIIIは、Eラーニングシステムを利用した自学自習方式で行われる。1ヶ月ごとの進捗状況をEラーニングシステム上で確認するので、所定の進捗に沿って各自学習を進めていくこと。なお、Eラーニングによる学習方法に関するガイダンスが行われるので、必ず出席すること。

到達目標 / Focus and Goal

コンピュータの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期情報リテラシーIの成績によって、「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。前期に実施した「情報リテラシー レベル診断」の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	毎月の進捗状況、定期試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

必要に応じて授業中に紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

情報リテラシーII SE

11896

担当者名 / Instructor 黄 盛彬

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習することで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、情報リテラシーIIIは、Eラーニングシステムを利用した自学自習方式で行われる。1ヶ月ごとの進捗状況をEラーニングシステム上で確認するので、所定の進捗に沿って各自学習を進めていくこと。なお、Eラーニングによる学習方法に関するガイダンスが行われるので、必ず出席すること。

到達目標 / Focus and Goal

コンピュータの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期情報リテラシーIの成績によって、「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。前期に実施した「情報リテラシー レベル診断」の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	毎月の進捗状況、定期試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

必要に応じて授業中に紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

情報リテラシーII SF

11897

担当者名 / Instructor 黄 盛彬

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習することで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、情報リテラシーIIIは、Eラーニングシステムを利用した自学自習方式で行われる。1ヶ月ごとの進捗状況をEラーニングシステム上で確認するので、所定の進捗に沿って各自学習を進めていくこと。なお、Eラーニングによる学習方法に関するガイダンスが行われるので、必ず出席すること。

到達目標 / Focus and Goal

コンピュータの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期情報リテラシーIの成績によって、「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。前期に実施した「情報リテラシー レベル診断」の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	毎月の進捗状況、定期試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

必要に応じて授業中に紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

情報リテラシーII SG

11898

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習することで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、情報リテラシーIIIは、Eラーニングシステムを利用した自学自習方式で行われる。1ヶ月ごとの進捗状況をEラーニングシステム上で確認するので、所定の進捗に沿って各自学習を進めていくこと。なお、Eラーニングによる学習方法に関するガイダンスが行われるので、必ず出席すること。

到達目標 / Focus and Goal

コンピュータの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期情報リテラシーIの成績によって、「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。前期に実施した「情報リテラシー レベル診断」の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	毎月の進捗状況、定期試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

必要に応じて授業中に紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

情報リテラシーII SH

11899

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習することで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、情報リテラシーIIIは、Eラーニングシステムを利用した自学自習方式で行われる。1ヶ月ごとの進捗状況をEラーニングシステム上で確認するので、所定の進捗に沿って各自学習を進めていくこと。なお、Eラーニングによる学習方法に関するガイダンスが行われるので、必ず出席すること。

到達目標 / Focus and Goal

コンピュータの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期情報リテラシーIの成績によって、「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。前期に実施した「情報リテラシー レベル診断」の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	毎月の進捗状況、定期試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

必要に応じて授業中に紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

情報リテラシーII SI

11900

担当者名 / Instructor 長澤 克重

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習することで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、情報リテラシーIIIは、Eラーニングシステムを利用した自学自習方式で行われる。1ヶ月ごとの進捗状況をEラーニングシステム上で確認するので、所定の進捗に沿って各自学習を進めていくこと。なお、Eラーニングによる学習方法に関するガイダンスが行われるので、必ず出席すること。

到達目標 / Focus and Goal

コンピュータの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期情報リテラシーIの成績によって、「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。前期に実施した「情報リテラシー レベル診断」の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	毎月の進捗状況、定期試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

必要に応じて授業中に紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

情報リテラシーII SJ

11901

担当者名 / Instructor 長澤 克重

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習することで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、情報リテラシーIIIは、Eラーニングシステムを利用した自学自習方式で行われる。1ヶ月ごとの進捗状況をEラーニングシステム上で確認するので、所定の進捗に沿って各自学習を進めていくこと。なお、Eラーニングによる学習方法に関するガイダンスが行われるので、必ず出席すること。

到達目標 / Focus and Goal

コンピュータの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期情報リテラシーIの成績によって、「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。前期に実施した「情報リテラシー レベル診断」の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	毎月の進捗状況、定期試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

必要に応じて授業中に紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

情報リテラシーII SK

11902

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習することで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、情報リテラシーIIIは、Eラーニングシステムを利用した自学自習方式で行われる。1ヶ月ごとの進捗状況をEラーニングシステム上で確認するので、所定の進捗に沿って各自学習を進めていくこと。なお、Eラーニングによる学習方法に関するガイダンスが行われるので、必ず出席すること。

到達目標 / Focus and Goal

コンピュータの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期情報リテラシーIの成績によって、「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。前期に実施した「情報リテラシー レベル診断」の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	毎月の進捗状況、定期試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

必要に応じて授業中に紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

情報リテラシーII SL

12026

担当者名 / Instructor 生田 正幸

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習することで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、情報リテラシーIIIは、Eラーニングシステムを利用した自学自習方式で行われる。1ヶ月ごとの進捗状況をEラーニングシステム上で確認するので、所定の進捗に沿って各自学習を進めていくこと。なお、Eラーニングによる学習方法に関するガイダンスが行われるので、必ず出席すること。

到達目標 / Focus and Goal

コンピュータの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期情報リテラシーIの成績によって、「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。前期に実施した「情報リテラシー レベル診断」の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	毎月の進捗状況、定期試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

必要に応じて授業中に紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

情報リテラシーII SM

12027

担当者名 / Instructor 黄 盛彬

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習することで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、情報リテラシーIIIは、Eラーニングシステムを利用した自学自習方式で行われる。1ヶ月ごとの進捗状況をEラーニングシステム上で確認するので、所定の進捗に沿って各自学習を進めていくこと。なお、Eラーニングによる学習方法に関するガイダンスが行われるので、必ず出席すること。

到達目標 / Focus and Goal

コンピュータの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期情報リテラシーIの成績によって、「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。前期に実施した「情報リテラシー レベル診断」の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	毎月の進捗状況、定期試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

必要に応じて授業中に紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

情報リテラシーII SN

12028

担当者名 / Instructor 黄 盛彬

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習することで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、情報リテラシーIIIは、Eラーニングシステムを利用した自学自習方式で行われる。1ヶ月ごとの進捗状況をEラーニングシステム上で確認するので、所定の進捗に沿って各自学習を進めていくこと。なお、Eラーニングによる学習方法に関するガイダンスが行われるので、必ず出席すること。

到達目標 / Focus and Goal

コンピュータの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期情報リテラシーIの成績によって、「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。前期に実施した「情報リテラシー レベル診断」の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	毎月の進捗状況、定期試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

必要に応じて授業中に紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

情報リテラシーII SO

12029

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習することで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、情報リテラシーIIIは、Eラーニングシステムを利用した自学自習方式で行われる。1ヶ月ごとの進捗状況をEラーニングシステム上で確認するので、所定の進捗に沿って各自学習を進めていくこと。なお、Eラーニングによる学習方法に関するガイダンスが行われるので、必ず出席すること。

到達目標 / Focus and Goal

コンピュータの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期情報リテラシーIの成績によって、「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。前期に実施した「情報リテラシー レベル診断」の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	毎月の進捗状況、定期試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

必要に応じて授業中に紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

情報リテラシーII SP

12030

担当者名 / Instructor 上出 浩

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。文書作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサ(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について基礎から確実に実習することで、主体的な学修と研究のための基礎的なスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

なお、情報リテラシーIIIは、Eラーニングシステムを利用した自学自習方式で行われる。1ヶ月ごとの進捗状況をEラーニングシステム上で確認するので、所定の進捗に沿って各自学習を進めていくこと。なお、Eラーニングによる学習方法に関するガイダンスが行われるので、必ず出席すること。

到達目標 / Focus and Goal

コンピュータの基礎的なスキルを修得し、大学における学習面での利用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

前期情報リテラシーIの成績によって、「初級」と「中級」の2グレード制のクラス編成を行う。前期に実施した「情報リテラシー1レベル診断」の結果に基づき一定レベル以上のスキルを修得していると判断した者には、「情報処理」の受講を推奨する。

授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	毎月の進捗状況、定期試験によって評価する。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

必要に応じて授業中に紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

スポーツ方法論I 01

10149

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11～15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 02

10150

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11～15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 03

10285

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11～15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 04

10286

担当者名 / Instructor 上 英俊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11～15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 05

10688

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11～15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 06

10689

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11～15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 07

10690

担当者名 / Instructor 梶田 佳津子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11～15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 08

10818

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11～15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 09

10819

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11～15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 10

10820

担当者名 / Instructor 梶田 佳津子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論Iでは、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論I」で学んだ内容を「スポーツ方法論II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11～15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 11

11389

担当者名 / Instructor 藤田 太朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11～15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 12

11390

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論Iでは、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論I」で学んだ内容を「スポーツ方法論II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2~4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5~10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11~15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 13

11391

担当者名 / Instructor 中原 英博

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論Iでは、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

事前登録科目「スポーツ方法論I」で学んだ内容を「スポーツ方法論II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11～15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 14

11563

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論Iでは、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論I」で学んだ内容を「スポーツ方法論II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11～15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 15

11564

担当者名 / Instructor 藤田 太朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論Iでは、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論I」で学んだ内容を「スポーツ方法論II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11～15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 16

11565

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論Iでは、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論I」で学んだ内容を「スポーツ方法論II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2~4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5~10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11~15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 17

11975

担当者名 / Instructor 中原 英博

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論Iでは、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論I」で学んだ内容を「スポーツ方法論II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11～15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 18

11976

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論Iでは、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論I」で学んだ内容を「スポーツ方法論II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2~4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5~10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11~15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 19

12114

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論Iでは、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論I」で学んだ内容を「スポーツ方法論II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2~4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5~10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11~15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 20

12115

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11～15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 21

12395

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論」で学んだ内容を「スポーツ方法論」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11～15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 22

12397

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論Iでは、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論I」で学んだ内容を「スポーツ方法論II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11～15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 23

12396

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論Iでは、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論I」で学んだ内容を「スポーツ方法論II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11～15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 24

12468

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論Iでは、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論I」で学んだ内容を「スポーツ方法論II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2~4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5~10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11~15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 25

12469

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論Iでは、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論I」で学んだ内容を「スポーツ方法論II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11～15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論I 26

12470

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

スポーツ方法論Iでは、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論I」では、主として個人技能に学習の重点をおいて行われる。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論I」で学んだ内容を「スポーツ方法論II」ではさらに展開するため、可能な限り両科目を受講することが望ましい

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2~4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5~10講]	展開:ゲーム解析の視点、方法を学ぶ VTRなどを用いた動作の記述、記録、観察、評価	
[第11~15講]	まとめ:ゲームやプレイ、身体運動を構成する方法について学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 01

10230

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 02

10231

担当者名 / Instructor 川口 晋一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 03

10385

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 04

10386

担当者名 / Instructor 上 英俊

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2~4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5~10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11~15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 05

10779

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画→実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 06

10780

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 07

10781

担当者名 / Instructor 梶田 佳津子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 08

10911

担当者名 / Instructor 今村 悟

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 09

10912

担当者名 / Instructor 長谷川 豪志

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 10

10913

担当者名 / Instructor 梶田 佳津子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 11

11451

担当者名 / Instructor 藤田 太朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 12

11452

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 13

11453

担当者名 / Instructor 中原 英博

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 14

11649

担当者名 / Instructor 遠藤 保子

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 15

11650

担当者名 / Instructor 藤田 太朗

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 16

11651

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 17

12046

担当者名 / Instructor 中原 英博

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research.

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 18

12047

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 19

12199

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 20

12200

担当者名 / Instructor 藤田 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 21

12425

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2~4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5~10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11~15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 22

12426

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 23

12427

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal**履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment**(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 24

12552

担当者名 / Instructor 稲岡 純史

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画-実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 25

12553

担当者名 / Instructor 金井 淳二

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

スポーツ方法論II 26

12554

担当者名 / Instructor 平野 嘉彦

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

「スポーツ方法論」では、スポーツを教養の一つと位置づけ、スポーツの科学的な知識・視点を重視しつつ、実践過程そのものを学びの対象として授業を展開し、生涯スポーツのための基礎的な能力を養うことをめざす。「スポーツ方法論」では、主としてスポーツ実践に関わる諸要素の結合・統合をはかり、個々のチームの練習・トレーニングの計画・立案・評価方法について学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

事前登録科目「スポーツ方法論」は「スポーツ方法論」で学んだ内容を展開するものであり、可能な限り両科目を受講することが望ましい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
[第1講]	ガイダンス:授業のねらいや進め方	
[第2～4講]	導入:グループ編成、ゲームやプレイ、身体運動などの成り立ち、及び技術要素について把握する	
[第5～10講]	展開:ゲームや試合などを通して、チームや個々人の「練習計画ー実施」を総合的に評価する視点と方法を学ぶ	
[第11～15講]	まとめ:ゲーム・コンテストの運営方法を学ぶ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

この科目は事前登録科目となっているので、各学部の履修要項(事前登録についての項を参照)をよく読んでおくこと。また、実習(実技)にともなう授業が展開されるので、健康・体調状態に留意し、必要ならば必ず担当教員に相談すること。

イタリアの言語とコミュニケーション応用I LA § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用I) LA § 1.4426
講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用I) GA

担当者名 / Instructor CROCE MARCELLA, Ugo Dessi

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

The purpose of this course, mainly based on conversation, is to improve and develop the students' ability in understanding, speaking and reading the Italian language and thus to acquire some knowledge of Italian culture and way of life. Current events, topics related to general culture, the Italian world and the youth in general will be discussed according to the students' knowledge of the Italian language and for the purpose of improving it.

到達目標 / Focus and Goal

この授業はイタリア語の既修者向けであるので、全くの初心者の受講は認められない。
自分の語学能力に自信のないものは、事前に教員に相談すること。イタリアの言語と文化に興味があり、積極的に会話に取り組む学生が望ましい。
学生の積極的な参加および出席が求められる。さらに、授業の準備が必要なので、注意して下さい。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	35 %	
日常点	65 %	

Attendance and participation will be considered very important.

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

Photocopies will be supplied by teacher.

参考書 / Reference Books

Italian-Japanese and Japanese-Italian dictionary is required.

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

イタリアの言語とコミュニケーション応用I LB § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用I) LB § 1.4428 講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用I) GB
--

担当者名 / Instructor CROCE MARCELLA, Ugo Dessi

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

The purpose of this course, mainly based on conversation, is to improve and develop the students' ability in understanding, speaking and reading the Italian language and thus to acquire some knowledge of Italian culture and way of life. Current events, topics related to general culture, the Italian world and the youth in general will be discussed according to the students' knowledge of the Italian language and for the purpose of improving it.

到達目標 / Focus and Goal

この授業はイタリア語の既修者向けであるので、全くの初心者の受講は認められない。
自分の語学能力に自信のないものは、事前に教員に相談すること。イタリアの言語と文化に興味があり、積極的に会話に取り組む学生が望ましい。
学生の積極的な参加および出席が求められる。さらに、授業の準備が必要なので、注意して下さい。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**授業スケジュール / Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	35 %	
日常点	65 %	

Attendance and participation will be considered very important.

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks**

Photocopies will be supplied by teacher.

参考書 / Reference Books

Italian-Japanese and Japanese-Italian dictionary is required.

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

イタリアの言語とコミュニケーション応用II LA § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用II) LA § .14625 講義(イタリアの言語とコミュニケーション・応用II) GA

担当者名 / Instructor MAJERU ANTONIO, CROCE MARCELLA

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

The purpose of this course, mainly based on reading passages supplied by teacher, conversation and practice through little compositions and exercises to be done during each lesson and at home, is to develop the students' ability in understanding, speaking and writing the Italian language and thus to increase their knowledge of Italian culture and way of life. Various subjects as books, music, films, youth, the contemporary world and aspect of Italy will be examined and discussed according to the students' knowledge of the Italian language and for the purpose of improving it.

到達目標 / Focus and Goal

この授業はイタリア語の既修者向けであるので、全くの初心者の受講は認められない。
自分の語学能力に自信のないものは、事前に教員に相談すること。イタリアの言語と文化に興味があり、積極的に会話に取り組む学生が望ましい。
学生の積極的な参加および出席が求められる。さらに、授業の準備が必要なので、注意して下さい。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**授業スケジュール / Schedule**

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	35 %	
日常点	65 %	

Attendance and participation will be considered very important.

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks**

Photocopies will be supplied by teacher.

参考書 / Reference Books

Italian-Japanese and Japanese-Italian dictionary is required.

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

イタリアの言語とコミュニケーション・基礎 LA § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎) LA § 1.4317
講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎) GA

担当者名 / Instructor MAJERU ANTONIO, CROCE MARCELLA

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

The purpose of this course, mainly based on conversation, is to supply the linguistic instruments to discover some aspects of Italian culture and way of life. During the course various subjects will be discussed with the support of newspaper articles, extracts from Italian authors and material supplied by teacher depending on the students' proficiency in Italian and for the purpose of developing it.

到達目標 / Focus and Goal

文学部の学生で初修外国語のイタリア語(基礎、展開、表現、応用)を受講している学生は、この授業を受講しないようにして下さい。正しいイタリア語の発音と多数の新しい言葉を覚えるために、イタリア人講師の会話を聞く、そしてそれを真似することが重要であるので、出来るだけ出席することが求められます。さらに、授業を復習することが評価されるので、注意して下さい。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験	35 %	
日常点	65 %	

Attendance and participation will be considered very important.

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

Photocopies will be supplied by teacher.

参考書 / Reference Books

Italian-Japanese and Japanese-Italian dictionary is required.

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

イタリアの言語とコミュニケーション・基礎 LB § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎) LB § 1.14477
講義(イタリアの言語とコミュニケーション・基礎) GB

担当者名 / Instructor MAJERU ANTONIO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

イタリア語の日常会話の基礎を学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

日常会話の練習を通して、イタリア語の文法やイタリア文化などの基礎を習得します。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	自己紹介・挨拶	
	紹介する・自分に関して話す・ご馳走する	
	情報を聞く・感謝する	
	許可を求める	
	好みに関して話す	
	提案する・注文する	
	意見を聞く・リクエストする	
	道を尋ねる・案内する	
	お願いする・疑いを表現する	
	買い物をする	
	物を比較する	
	旅行を語る	
	招待する	
	招待を受け入れる	
	説得する	
	時間を言う	
	アドバイスする	
	自分の習慣に関して話す	
	意見や希望などを表現する	
	ホテルを予約する	
	旅行を計画する	
	物の値段を訪ねる	
	約束をする・待ち合わせを決める	
	義務を表現する	
	電車の切符を買う	
	スケジュールを教える	
	自分の一日を語る	
	口答試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	最終講義口答試験

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

文学部の学生で初修外国語のイタリア語(基礎、展開、表現、応用)を受講している学生は、この授業を受講しないようにして下さい。正しいイタリア語の発音と多数の新しい言葉を覚えるために、イタリア人講師の会話を聞く、そしてそれを真似することが重要であるので、出来るだけ出席することが求められる。さらに、授業を復習することが評価されるので、注意して下さい。

教科書 / Textbooks

イタリア語の日常会話の基礎を学ぶ。

参考書 / Reference Books

教室で指示する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

イタリアの言語と文化・基礎 LA § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語と文化・基礎) LA § 特殊講義(イタリアの言語と文化・基礎) GA

担当者名 / Instructor 遠藤 礼子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

イタリア語の基礎を学ぶクラスです。授業はグループでのゲームや口頭演習を通して、語彙・語形・文型を身に付けて行きます。

- ・イタリア語を全く・ほとんど学習したことのない人向けのクラスです。
- ・文学部のイタリア語・基礎を履修したことのある人、している人は登録しないでください。
- ・参加型の授業です。じっと座って、ただ話を聞いていただけの人、板書をノートに写したいだけの人も登録しないでください。
- ・忘れることや間違えることを恐れず、積極的に参加できる人の参加を希望します。
- ・やれば出来ることしかないので、やる前から「出来な～い」「分からな～い」と言うことは禁止します。

到達目標 / Focus and Goal

簡単なイタリア語を聞き読み話し書けるようになることを目標とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

宿題を出します

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	出席, 参加態度, 日常の提出物を総合的に評価

3 / 4の出席を基準とするので, 3 / 4以上出席するつもりの人だけ登録してください。

今年は宿題も出します。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
イタリア語ひとさら (改訂版)	遠藤礼子, 三宅剛 / 白水社 / 4-560-01762-X /
2006年に改訂されているので去年までの初版の「おさがり」では対応できません。新しく購入してください。	

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ポケットプログレッシブ伊和・和伊辞典	/ 小学館 / 40-9506-121-9 /
伊和中辞典	/ 小学館 / 40-9515-402-0 /
和伊中辞典	/ 小学館 / 40-9515-451-9 /
電子辞書 XD-H7400, XD-L7450	/ カシオ / /

辞書は、持ち歩くには、ポケットプログレッシブ、しっかり調べるには『伊和中辞典』。お金のない人は、ポケットプログレッシブだけ買って、あとは図書館で調べるという手もある。和伊中は、作文をがしがしやりたい人には必須だが、普通の人には、必要なときに図書館で利用すれば充分だろう。

電子辞書はカシオとセイコーのものがあり、いずれも小学館の伊和中と和伊中が入っているが、セイコーのものには動詞変化表が入っていないので勧められない。

このクラスだけをとれば、辞書はなくても参加できるが、ポケットプログレッシブくらいは買っておきたいところ。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

<http://reiko-e-web.hp.infoseek.co.jp/>

その他 / Others

イタリアの言語と文化・基礎 LB § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語と文化・基礎) LB § 特殊講義(イタリアの言語と文化・基礎) GB 14321

担当者名 / Instructor MAJERU ANTONIO

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

イタリア語の文法基礎を学ぶ。

到達目標 / Focus and Goal

授業で習うイタリア語文法基礎を日常会話に応用しながら、イタリア文化と日本文化の相違に関して、議論する。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	発音・主語代名詞	
	動詞essereとavereの現在形	
	動詞andareとvenire	
	前置詞の用法	
	冠詞	
	規則動詞の現在形	
	不規則動詞の現在形	
	形容詞の合わせ方	
	動詞piacereの用法	
	従属動詞potere,dovere,volere	
	間接代名詞	
	指示形容詞・指示代名詞	
	助動詞avereを使った過去形	
	過去分詞の作り方	
	不規則過去分詞	
	助動詞essereを使った過去形	
	半過去	
	動詞essereとfareの半過去	
	所有代名詞・所有形容詞	
	命令形	
	非人称動詞	
	不定代名詞・直接代名詞	
	接続詞の用法	
	進行形	
	規則動詞と不規則動詞の未来系	
	副詞・冠詞前置詞	
	条件法	
	仮説文	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

授業中に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	最終講義筆記試験
出席率、授業への参加度、期末テストの結果による評価		

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

文学部の学生で初修外国語のイタリア語(基礎、展開、表現、応用)を受講している学生は、この授業を受講しないようにして下さい。出来るだけ出席することが求められる。さらに、授業を復習することが評価されるので、注意してください。

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

教室で指示する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

イタリアの言語と文化・入門 LA § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語と文化・入門) LA § 特殊講義(イタリアの言語と文化・入門) GA

担当者名 / Instructor 松田 博

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

ルネサンス以降の文化史的背景、自治都市の形成と都市文化、近現代の文化芸術の特徴と日本への影響、生活文化の意義などを各論的テーマとしてとりあげ、イタリア文化への理解と関心を深め、各自の問題意識を養成する。

到達目標 / Focus and Goal

イタリア文化の歴史的特質およびその現代的意義の基礎について考え、さらに日本への影響についての基本的理解を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

文化史、社会史などの歴史系の基礎的科目

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス シラバス説明 参考文献紹介 評価方法など についての質疑	
第2～第4回	ルネサンス文化の形成と特徴 「ルネサンスとはなにか」 パーク『ルネサンス』岩波書店、ブルクハルト『	イタリア・ルネサンスの文化』中公文庫ほか(映画「薔薇の名前」、プレヒト「ガリレオの生涯」岩波文庫、ロラン「ミケランジェロの生涯」同前)
第5～第7回	都市文化の形成と特徴 市民の形成、市民的自治 伝統、都市景観ほか	(「エコのイタリア案内」、「フィレンツェ」)
第8回	中間まとめ 質疑応答、小論文作成	
第9～11回	近代文化 「未来派」、ファシズム・レジスタンスほか	(映画「1900年」、「無防備都市」、「戦火のかなた」ひまわりなど)
第12～14回	現代文化 映像文化(ネオリアリズム)、生活文化(ス ローフード、スローライフ)、政治文化(国民投票制)ほか
第15回	まとめ 質疑応答 小論文作成ほか	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

紹介する参考文献の自主的学習、イタリア映画の鑑賞、イタリア関係の美術展、フェアなどの実際の研修を薦めたい。また休暇中にスタディツアーなどへの参加も学生時代にしかできない生きた学習・研究の機会となるので薦めたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	70 %	小論文による文章表現能力、問題意識などを評価
日常点	30 %	出席点その他を評価

小論文などの文章表現能力の向上への自覚的努力を期待したい。授業外学習で述べた各種イベントに関してはイタリア文化会館や京都イタリア会館、日伊協会のHP参照。須賀敦子の作品(とくに「トリエステの坂道」「ミラノ 霧の風景」新潮文庫)や塩野七生、若桑みどりの著作を薦めます。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

授業外学習で述べたことを重視して欲しい。実地体験(フィールドワーク)の面白さを味わって欲しい。イタリアの有名な諺に「枇杷の実が熟すには、時間と薫が必要」というのがあります。関心あるテーマを見つけること、そのテーマをじっくり掘り下げること、それを文章に表現すること、つまり問題意識の形成、探究心、文章表現能力の向上を自覚的に追究することを期待します。「未来というワケのわからぬ存在を 私の形に切り抜いていく」(現代学生百人一首)。「ばさばさに乾いてゆく心を ひとのせいにはするな みずから水やりを怠っておいて……自分の感受性くらい自分で守れ」(茨木のり子詩集)。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。必要に応じて資料レジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
イタリアを知るための55章	共著 / 明石書店 / イタリアの歴史、文化の入門書
世界の君主制	共著 / 大月書店 / イタリア君主制の終焉と共和制など
イタリア入門	共著 / 三省堂 / レジスタンス史の概要など

アソシエーション革命へ

共編著 / 社会評論社 / イタリア・アソシエーションの歴史など

テーマに応じて参考文献を適時紹介する。イタリア史概説書、入門書の近現代の章は通読しておくこと。イタリア映画の名作鑑賞を薦めます。「Life is beautiful」「山猫」「道」「ニューシネマパラダイス」等

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

イタリアの都市や美術館、歴史博物館のサイト(英文もある)にアクセスして欲しい。

その他 / Others

講義内容に対する質問や講義方法についての意見や提案を歓迎します。

イタリアの言語と文化・入門 LB § ヴィジョン形成特殊講義(イタリアの言語と文化・入門) LB § 特殊講義(イタリアの言語と文化・入門) GB

担当者名 / Instructor RUGGERI ANNA

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

イタリアの文化を理解するためには、キリスト教を知る必要がある。なぜなら、国の宗教として国民の考え方、習慣と伝統の中に生きており、そして町の建築や美術の作品の中にも多く見られるからである。この授業の目的はキリスト教の根源からこの宗教の発展と変化、そしてそのイタリア文化との関連を分析・紹介することである。

その中で、特にイタリアの歴史におけるローマカトリック教会の役割は非常に重要であったので、それについて考察しながら、イタリアの文学や美術におけるその影響を紹介したい。同時に、イタリアの宗教家の中でアッシジのサン・フランチェスコやサン・ベネデットのようイタリアの宗教者とそれらの思想について論じたい。

到達目標 / Focus and Goal

本講義は、イタリア文化におけるキリスト教を中心にする。全体的にイタリアの文化を見せることだけでなく、キリスト教にかかわるイタリアの美術と文学、様々な習慣と祭りを紹介することもこの授業の目標である。とくに、旧約と新約聖書に基づいている教会のフレスコや絵などを理解することが望まれているので、授業中多くの資料を見せながら、詳細な説明と解釈を行う。さらに、ほぼ毎回視聴覚教材を利用することになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

イタリアの文化と比較文化学に対して興味を持つ学生が望ましい。しかし、この授業は「イタリアの言語と文化・基礎」「イタリアの言語とコミュニケーション・基礎」を受講している学生のための入門講義である。従って、受講者は上記の科目を受講していることが好ましい。この授業は将来イタリアの文化を研究する者に役立つような情報、知識を与えることを目的としている。

観光情報的なものを期待している人にはやや難しいかもしれないので、注意して下さい。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	授業の紹介
第2回	キリスト教におけるパラダイムとパラダイム転換	パラダイム転換、地球倫理
第3回	イタリアの美術を通してイエス・キリストの生涯(1)	イエス・キリスト、新約聖書
第4回	イタリアの美術を通してイエス・キリストの生涯(2)	イエス・キリスト、新約聖書
第5回	イタリアのレネサンス:レオナルド	レオナルド
第6回	イタリアのレネサンス:ミケランジェロ	ミケランジェロ
第7回	イタリアの修道院:聖ベネディクト	修道院、ベネディクト
第8回	アッシジの聖フランチェスコ	アッシジ、聖フランチェスコ
第9回	イタリアの文化におけるキリスト教:祭りと習慣	イタリアの祭り
第10回	イタリアの文学におけるキリスト教:ダンテの『神曲』	ダンテ、『神曲』
第11回	ローマ帝国とキリスト教	ロマン人、ローマ帝国、神話
第12回	キリスト教における殉教者と聖人	殉教者、聖人
第13回	天使と悪魔	大天使、天使、悪魔
第14回	教会のミサに参加する(衣笠教会)	ミサ
第15回	レポートの提出とその発表	レポート、発表

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

毎回配布された資料を学習することが必要

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	60 %	最後の授業においてレポートの発表も行う
日常点	10 %	場合によって、様々な感想文を書くことになる
その他	30 %	できるだけ出席することが望ましい

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

授業内において配布するプリント等。

参考書 / Reference Books

教室でそのつど参考書を指示する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

第1回授業の前に、総括的導入講義を実施します。詳細は別途掲示等で案内します。

担当者名 / Instructor 遠藤 礼子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

白地に赤のブチの犬, ピンパの漫画とアニメを使って, 訳や作文, 発表, 芝居などを行います。前期は漫画, 後期はアニメを使います。

- ・「イタリア語・基礎」や「イタリアの言語と文化・基礎」と同等の知識のある人向けのクラスです。
 - ・イタリア語の文法を全く知らない人は登録しないでください。
 - ・具体的には「イタリア語・基礎」等の単位のあるなしにかかわらず, 下記程度のイタリア語の意味が, 辞書を引かなくても分かる人は参加資格があります。
- Dove vai? - Vado a scuola.
Ho mangiato una pizza ieri.
Posso prendere questo? - Sì.
Che cosa facevi adesso? - Guardavo la tv.
- ・参加型の授業です。じっと座って, ただ話を聞いていただいただけの人, 板書をノートに写したいだけの人は登録を遠慮してください。
 - ・忘れることや間違えることを恐れず, 積極的に参加できる人の参加を希望します。
 - ・やれば出来ることしかしないので, やる前から「出来な～い」「分からな～い」等と言うことは禁止します。
 - ・今年は宿題も出します。

到達目標 / Focus and Goal

イタリア語の基本的な構文を, 体で覚えることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to**授業スケジュール / Schedule****(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	出席・参加態度・日常の提出物(宿題など)

3 / 4の出席を基準とするので, 3 / 4以上出席するつもりの人だけ登録してください。
今年は宿題も出します。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Pimpa tante piccole storie	Altan / Franco Panini Cosimo / 88-8290-612-4 / 図書館の入ってすぐ右のところにあります

辞書関係はイタリアの言語と文化・基礎 LAの参考書をみてください

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

担当者名 / Instructor 遠藤 礼子

単位数 / Credit 4

授業の概要 / Course Description

訳読がどこまで楽しく出来るかに挑戦！カルビーノの「イタリア民話集」を、2週間で1作品を目標に、どんどん読みます。また、単に意味がわかるだけではなく、「翻訳」してみることで、「翻訳」の困難さと楽しさも味わいます。朗読の訓練もします。たまに息抜きに歌や詩作もしましょう。

- ・訳読ですが、グループ学習の参加型のクラスです。積極的な参加が必要です。積極的にグループワークに参加する気のない人は登録を遠慮してください。
- ・予習は不可欠です。
- ・「イタリア語・基礎」や「イタリアの言語と文化・基礎」と同等の知識のある人向けのクラスです。
- ・イタリア語の文法を全く知らない人は登録しないでください。
- ・具体的には「イタリア語・基礎」等の単位のあるなしにかかわらず、下記程度のイタリア語の意味が、辞書を引かなくても分かる人は参加資格があります。

Dove vai? - Vado a scuola.

Ho mangiato una pizza ieri.

Posso prendere questo? - Sì.

Che cosa facevi adesso? - Guardavo la tv.

到達目標 / Focus and Goal

イタリア語の長文読解のスキルを身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to**授業スケジュール / Schedule****(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment****(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style****成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation**

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	出席・参加態度・日常の提出物(宿題など)

3 / 4の出席を基準とするので、3 / 4以上出席するつもりの人だけ登録してください。

今年は宿題も出します。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks****参考書 / Reference Books**

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Fiabe italiane	Italo Calvino / / / 文学部図書館に入っています

辞書関係はイタリアの言語と文化・基礎 LAの参考書をみてください。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course**その他 / Others**

人文科学総合講座特殊講義Ⅰ LC § 特殊講義(総合) GA § 特殊講義(基礎)Ⅰ TA § 特殊講義(基礎)Ⅰ C § ヴィジョン形...13310
 特殊講義 GA

担当者名 / Instructor 秋田 典昭、佐々 充昭、吉島 一彦、杉橋 隆夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

9・11テロ以降の世界、またカルト事件が相次ぐ国内を見ても、今日の世界、社会情勢を分析する際、宗教は最も重要な視点となる。社会構造の複雑化、激変に伴って「心の時代」が叫ばれ、宗教的癒しやスピリチュアリティの理解が求められる現代において宗教の現代的意義がますます重要になっていること、冷戦終結によるイデオロギー対立の終焉や、グローバル化の進展とそれに伴う文化や経済の交流・摩擦による宗教や民族・地域を軸にした紛争の激化が国際社会の大きな課題となっているなか、文化や文明における「宗教」の理解が、国際社会で活躍する上で決定的に重要であることから、世界平和の理念の下に社会的な実践を行っている世界的に著名な宗教人を招き、異文明の相互理解、時代の迷宮へと分け入る手引としての宗教の現代的側面を幅広く学ぶ。

なお、この講師陣でリレー講義を実施するのは、2006年度限りであるので注意すること。

到達目標 / Focus and Goal

このリレー講義の受講を通して世界の様々な宗教にふれ、よりグローバルな視点から宗教と現代社会を考える。また、世界の宗教を通して、再び日本における状況について考える機会を提供する。「宗教」について寛容(無関心)な世界的には特異な日本社会において、特に日本の若者を対象として、日本社会と現代国際社会における「宗教」の理解と、「宗教」に対する自らの考えの確立を目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4/19	フェリックス・マチャード(バチカン・カトリック・バチカン諸宗教対話評議会副議長)	バチカンの世界戦略
4/26	ウィリアム・ベンドレイ(アメリカ・カトリック・世界宗教者平和会議 <WCRP> 国際事務総長)	宗教間対話に根ざした宗教協力
5/10	スラック・シバラクサ(タイ・仏教)	仏教による社会平和活動の理論
5/24	ハイダー・アブドル・カリム(イラク・イスラム教・WCRPイラク諸宗教評議会コーディネーター)	イラクにおけるシーア派、スンニ派、キリスト教の和解活動
6/7	山折哲雄(日本・国際日本文化研究センター名誉教授)	
6/21	ギュレチ・セリム(トルコ・イスラム教・イスラム文化センター代表)	人間観 / 家族観 / イスラムから見た日本社会
7/5	カール・ベッカー(アメリカ・京都大学大学院人間・環境学研究科教授)	今、なぜ宗教か。共生人間学 / 日本の死生観 / 医療倫理

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	50 %	
日常点	50 %	毎回コミュニケーションペーパーの提出を求める

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

激動期の現代、幅広く宗教への理解を持つことは、特定の信仰、その有無に関係なく極めて重要である。国際交流の時代、例えば生命倫理問題など理系でも、世界や自国の文化基盤としての宗教の知識は不可欠である。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

開講日については2時限連続講義として実施する。英語等で授業を行う講師については、通訳をつけるため、受講にあたって語学力は必要ではない。

前期・後期と両方受講することが望ましい。

人文科学総合講座特殊講義I LD § 特殊講義(総合) GB § 特殊講義(基礎)II TB § 特殊講義(基礎)2 C § ヴィジョン形.15440
特殊講義 GB

担当者名 / Instructor 秋田 典昭、佐々 充昭、吉島 一彦、杉橋 隆夫

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

9・11テロ以降の世界、またカルト事件が相次ぐ国内を見ても、今日の世界、社会情勢を分析する際、宗教は最も重要な視点となる。社会構造の複雑化、激変に伴って「心の時代」が叫ばれ、宗教的癒しやスピリチュアリティの理解が求められる現代において宗教の現代的意義がますます重要になっていること、冷戦終結によるイデオロギー対立の終焉や、グローバル化の進展とそれに伴う文化や経済の交流・摩擦による宗教や民族・地域を軸にした紛争の激化が国際社会の大きな課題となっているなか、文化や文明における「宗教」の理解が、国際社会で活躍する上で決定的に重要であることから、世界平和の理念の下に社会的な実践を行っている世界的に著名な宗教人を招き、異文明の相互理解、時代の迷宮へと分け入る手引としての宗教の現代的側面を幅広く学ぶ。

なお、この講師陣でリレー講義を実施するのは、2006年度限りであるので注意すること。

到達目標 / Focus and Goal

このリレー講義の受講を通して世界の様々な宗教にふれ、よりグローバルな視点から宗教と現代社会を考える。また、世界の宗教を通して、再び日本における状況について考える機会を提供する。「宗教」について寛容(無関心)な世界的には特異な日本社会において、特に日本の若者を対象として、日本社会と現代国際社会における「宗教」の理解と、「宗教」に対する自らの考えの確立を目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
スケジュールを変更しました(9/1)		
10/11	ボブ・マークス(イスラエル・平和のための学校)	
10/25	ヨゼフ・ピタウ(イタリア・カトリック・大司教、元上智大学学長)	ローマ教皇 / 第2バチカン公会議
11/8	ブリシラ・エルワージ(イギリス・クエーカー)	対話を基盤とした反核平和活動を展開。
11/22	ハンス・ウコー(スウェーデン・プロテスタント・世界教会協議会 < WCC > 宗教間関係・対話部門責任者)	
12/6	アルボムッレ・スワナサーラ(スリランカ・仏教・スリランカ上座仏教長老)	初期仏教、ヴィパッサナー、慈悲、瞑想
12/13	スワミ・アグニベッシュ(インド・ヒンズー教・国連奴隷現代フォーラムファンド議長)	
12/20	島園 進(東京大学大学院人文社会系研究科教授)	新宗教をめぐる状況について

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	50 %	
日常点	50 %	毎回コミュニケーションペーパーの提出を求める

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

激動期の現代、幅広く宗教への理解を持つことは、特定の信仰、その有無に関係なく極めて重要である。国際交流の時代、例えば生命倫理問題など理系でも、世界や自国の文化基盤としての宗教の知識は不可欠である。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

開講日については2時限連続講義として実施する。英語等で授業を行う講師については、通訳をつけるため、受講にあたって語学力は必要ではない。

前期・後期と両方受講することが望ましい。

特殊講義(総合) V § ヴィジョン形成特殊講義 PA

20473

担当者名 / Instructor 島村 漱、品田 隆、林 基継

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

現代社会において、映画、テレビ放送、コマーシャル、アニメーション、ミュージック・クリップ等、映像作品は、我々の生活に不可欠なものとして定着しており、その必要性はますます増大している。映像体験を通して、受容者は自らのアイデンティティを構成し、自我の認識形成や異文化交流などが育まれていくのであり、映像は、情報を伝達するコミュニケーション・ツール以上に、文化を表現する手段である。

本講座では、映像に関する基本的な制作力・読解力のリテラシーを短期間で身につけるべく、CMなどのショート映像作品を中心にとりあげ、プロのCM監督や撮影監督、録音技師によるショート映像作品の表現方法を、講義と実習を交えた形式で、企画、シナリオ、監督、撮影、録音の各視点から実践的に探求する。

到達目標 / Focus and Goal

映像作品に関する基本的な制作力・読解力のリテラシー

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

映像と表現

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業概論と進行説明、映像制作のスタッフ・ワーク	ショート・ストーリー、スタッフ・ワーク
第2回	ショート・ストーリー映像についての分析と解説	映像読解力
第3回	企画・脚本・演出講義1	ショート・ストーリー映像の企画から脚本まで
第4回	企画・脚本・演出講義2	ショート・ストーリー映像の演出法
第5回	企画・脚本・演出実習1	ショート・ストーリー映像の企画制作
第6回	企画・脚本・演出実習2	ショート・ストーリー映像の脚本制作、演出プラン
第7回	撮影講義1 映像で語る	撮影術、映像表現
第8回	撮影講義2 映像で語る	撮影術、映像表現
第9回	撮影実習1	演出プランに即した撮影プラン
第10回	撮影実習2	演出プランに即した撮影プラン
第11回	録音講義1	音で物語る
第12回	録音講義2	音の表現
第13回	録音実習3	音作りのプラン
第14回	録音実習4	音作りのプラン
第15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

実習では、受講生それぞれにショート映像作品の企画からシナリオ、演出から音作りまで全工程のプランを作成する課題を課すため、受講前から各自の企画案を練っておくこと。また、他者に自分の企画を明確に伝えることが実習では必要となるため、画コンテなども描けると望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	50 %	
日常点	50 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

映像・映画に対する真摯な姿勢、誠実さ、熱意を求める。日々目にするCM、ミュージックビデオなどのショート・映像も、ぼんやりと感覚的に流し見せず、作品としてしっかり「見る」こと。

教科書 / Textbooks

参考文献、参考映像作品は多数あるが、授業テキストは特になし。

参考書 / Reference Books

授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

授業中に指示する。

その他 / Others

特殊講義(国際平和交流セミナー) GA § ヴィジョン形成特殊講義(国際平和交流セミナー) GA § 特殊講義(自由選択)I(E_20300
 平和交流セミナー) GA § 特殊講義(基礎)I(国際平和交流セミナー) GA § 特殊講義(基礎)1(国際平和交流セミナー) GA

担当者名 / Instructor 藤岡 惇

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

国際平和交流セミナーは、教員の指導のもとでの旅行と実地体験を通して、平和な世界づくりに貢献する「地球市民」を育てようとする正課の
 教学プログラムです。戦後50周年を記念して1995年度より開始し、今年で12回目になります。毎年、夏期休暇の期間を利用し担当教員のガイド
 のもとで様々な地域を旅し、現場に身をさらし、5感で感じ取ってもらう国際的な体験学習を通して、世界平和の構築、国際理解と協力の道を探っ
 てきました。2006年度は、広島・長崎(担当者 藤岡 惇)、韓国(担当者 徐 勝)、中国(担当者 金丸裕一)の3つのプログラムを実施し
 ます。

到達目標 / Focus and Goal

教員の指導と支援のもとで、戦争遺跡やミュージアムを訪ね、外国の若者との交流を通じて、戦争の歴史と平和づくりの課題についての知見を
 広め、平和な世界づくりに貢献する「国際人」になっていただきたいと願っています。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

募集人数: 広島・長崎15名、韓国20名、中国20名。最小催行人数は5名とし、満たないばあいには実施しないばあいがあります。受講登録制限
 外科目とします。4月に募集要項を掲示し、募集説明会を開催します。

授業スケジュール / Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
 (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	50 %	
日常点	50 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

特殊講義(国際平和交流セミナー) GB § ヴィジョン形成特殊講義(国際平和交流セミナー) GB § 特殊講義(自由選択)I(E_20305
 平和交流セミナー) GB § 特殊講義(基礎)I(国際平和交流セミナー) GB § 特殊講義(基礎)1(国際平和交流セミナー) GB

担当者名 / Instructor 徐 勝

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

国際交流セミナーは、教員の指導のもとでの旅行と実地体験をとおして、平和な世界づくりに貢献する「地球市民」を育てようとする正課の教学プログラムです。戦後50周年を記念して1995年度より開始し、今年で7回目になります。毎年、夏休みの期間を利用して担当教員と様々な地域を旅し、国際的な実地体験をとおして、国際理解と協力、世界平和の構築の道を探ってきました。

植民地支配の経験から60年、日韓関係はその間長足の発展があり、韓国に対する認識は大きく改まりました。しかし、昨年、いわゆる、領土問題や教科書問題をめぐって「反日デモ」があり、小泉総理の靖国神社参拝で大きな亀裂が生まれました。まず、このプログラムを通じて韓国の学生たちと交流し、相互理解を深めたいと思います。次に、朝鮮半島は植民地支配の時代が終わり、南北に分断され、数百万の犠牲者を出した朝鮮戦争を経験し、冷戦の下で、何北朝鮮は厳しい対立を繰り返してきました。今日、韓国をとりまく状況には依然として厳しいものがあり、朝鮮戦争の記憶はまた、社会の隅々に残っています。しかし、2000年の金大中大統領のピョンヤン訪問と南北共同宣言の発表は、このような対立状況を平和・和解の方向に大きく転換させる景気となりました。だから、平和は今日、朝鮮半島南北にとって最も重要な価値となりました。04年11月、盧武鉉大統領はロサンゼルスで、「どんなことがあっても、朝鮮半島で戦争をするわけには行かない。対話で問題解決するしかない」と講演したのです。世界最初の、唯一の被爆国日本では、とてつもない大惨事の記憶が薄れようとする近頃ですが、韓国では多くの不幸な事件を経験してきたからこそ、平和への強い願いを持つようになったといえるでしょう。今回のセミナーでは、韓国の人たちが平和についてどのように考え、平和を守ろうとしているのかを、38度線、板門店、米軍の射爆場のあった梅香里、元日本軍「慰安婦」がお住まいの「ナナムの家」への訪問、韓国の学生、平和NGOの人たちなどとの対話を通じて理解していただきたいと思います。

到達目標 / Focus and Goal

今日の韓国の理解と韓国人の友人を作ること。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

募集人数:20名 最少催行人数は5名とし、満たない場合は実施しない場合があります。

受講登録制限外科目とします。

4月に募集要項を掲示し、募集説明会を開催します。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

別途募集説明会等で説明します。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind 割合 / Percentage 評価基準等 / Grading Criteria etc.

レポート 50 % 事後に提出するレポート

日常点 50 % 事前事後講義への参加状況、現地実習における状況

この科目の登録は一般の受講登録とは別に行い、受講登録制限外の扱いになります。単位取得には旅行に参加するだけでなく、事前・事後に行われるセミナーへの参加、事後レポートの作成が必要です。

所定の学修成果に対して2単位が与えられます。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

特殊講義(国際平和交流セミナー) GC § ヴィジョン形成特殊講義(国際平和交流セミナー) GC § 特殊講義(自由選択)I(E_20310
 平和交流セミナー) GC § 特殊講義(基礎)I(国際平和交流セミナー) GC § 特殊講義(基礎)1(国際平和交流セミナー) GC

担当者名 / Instructor 金丸 裕一

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

現在のギクシャクとした日中関係を、建設的に再編する意欲と知見を備えた学生を養成するために、中国(含・香港)各地での実地学習を行う。

到達目標 / Focus and Goal

各自が見聞・思考した事柄を文章化して、対外的に公表できる報告書を作成する。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enrolle in, but not required to

語学(中国語か英語)、中国関連の科目。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	事前学習 1	
	事前学習 2	
	実地学習	
	事後学習 1	
	事後学習 2	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment (大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

平素から「中国」をめぐる関心を抱き続けること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

上海・南通・南京・香港において活動する予定である。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

「見聞した印象をそのまま語るのは誰でも可能な営為である」。

「知的な大学生であるのなら、感性を尊重しつつ、それらを理性的に分析せよ」。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

なし。

その他 / Others

募集人数: 20名 最少催行人数は5名とし、満たない場合は実施しない場合もあります。

受講登録制限外科目とします。

4月に募集要項を掲示し、募集説明会を開催します。

特殊講義(茶道文化史) GA § 特殊講義(基礎)I(茶道文化史) GA § ヴィジョン形成特殊講義(茶道文化史) GA

20279

担当者名 / Instructor 筒井 紘一、千 玄室

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

茶道は現在、日本を代表する伝統文化として世界中に知られるようになった。しかし、一般的には未だ、礼儀作法のための稽古事という感覚でとらえる人が多い。それは茶の湯の本質と全く違った見方と言える。茶道に礼儀作法の要素が全くないとは言わないが、その本質は日本を代表する総合的な文化体系であると言える。その総合性とは、哲学的な要素などを含む点にある。

茶が日本に伝来して以来1000年以上も経過しているが、伝来した当初から文化性を備えていたわけではない。本講では、照葉樹文化を代表する嗜好飲料である茶を通して、その文化性の特色を探るとともに、わが国の飲料として伝来した茶が、日本独自の文化性を備えた茶道へと変遷していく過程を明らかにしていきたい。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

この科目は事前登録科目です。

授業期間・講義内容詳細については、6月頃に学部掲示板にて連絡します。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)

テーマ / Theme

キーワード / Key Word

詳細は6月頃掲示で案内します

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind

割合 / Percentage

評価基準等 / Grading Criteria etc.

レポート

30 %

最終講義日に課題提示します。提出されたレポート内容を評価し成績に加味します。

日常点

70 %

講義と実技への参加態度と筆記試験をもとに評価します。

* レポート提出は必須とします。

* 筆記試験は最終講義日に実施します。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

授業内容の詳細については6月頃に学部掲示板にて案内します。

特殊講義(日本政治のメカニズム) GA § ヴィジョン形成特殊講義(日本政治のメカニズム) GA

13582

担当者名 / Instructor 福岡 政行

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

"今"の日本政治のメカニズムを分析し、その実像を描出してゆく。現場主義(フィールドワーク)を研究の中心的視座に置き、現状分析の中から問題を明らかにしてゆく。政治学は時として(古典的な表現)マスターサイエンスと呼ばれるが、実在する状況から出発しなければ意味がない。若い学生にとって、政治・マスメディア・日々のニュースに興味を持てるような方向を考えている。

到達目標 / Focus and Goal

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1講	イントロダクション～講義を始めるにあたって～	
第2講	序章:政治<学>へのプレリュード～現場主義(on the spot)こそ原点～	キーワード:仮説・検証・現場・検証,「科学として」と「学問として」の政治学,政治は言葉ではなく行動・結果(小泉政治の検証),政治の形-田中角栄・土井たか子・細川護熙・小泉純一郎
第3講	第一章:政党政治の限界と無党派層 - 政党も政治家も使い捨て! -	キーワード:小選挙区比例代表制,自民・民主の二大政党時代,公明・共産・社民がどうなる,政権交代可能なシステムとなるか,無党派層は主役になれるか
第4講	第二章:日本の政官関係	キーワード:霞ヶ関主権 財務省・外務省は何か,族議員・陳情政治・利益誘導,官の自信喪失と反撃,政治の復権は可能か
第5講	第三章:リーダー不在の現状	キーワード:小泉首相・中二階・若手,「率い型」と「まとめ型」,スペシャリストかゼネラリストか,ポスト小泉と野党のリーダー,リーダーの条件 - 耳 心 決断力 -
第6講	第四章:アメリカと日本の距離	キーワード:吉田茂のスタンス,日米安保と沖縄,自衛隊と憲法改正,イラク戦争 - ブッシュ・小泉同盟 -, 日米が全てか
第7講	第五章:日中関係 そしてアジアの一員	キーワード:戦前の日中の歴史,田中角栄と中国,中国の現状 - 政冷経熱 -, 日中は未来志向,アジアの一員としての日本
第8講	第六章:日本の財政危機 - 借金大国日本 -	キーワード:730兆超円の借金と赤字財政,国税収入に匹敵する公務員給与,年金一元化は可能か,国家予算はどうなっているのか,財政再建への処方箋
第9講	第七章:国際社会における日本の責務	キーワード:イラク自衛隊,インド洋大津波 - 国際NGO -, 国際貢献とは何か,日本版国際緊急援助隊
第10講	第八章:日本国憲法をどうするか	キーワード:日本の安全保障は,日米安保と在日米軍,第9条をどうするか,憲法改正へのロードマップ
第11講	第九章:市町村合併と三位一体の改革	キーワード:平成の大合併,アメとムチ - アメはいつまで? -, 三位一体の改革とは,地方から国を変える人々
第12講	第十章:虐待・いじめ・ヴァーチャル - 子どもたちのいま -	キーワード:母性本能は? - 虐待 -, 佐世保同級生殺人事件,ヴァーチャルの中で - メールは何を -, 人中が薬 - そして 命の重さ
第13講	第十一章:ボランティアとは	キーワード:新潟地震とインド洋大津波,カンボジアの子どもたち,神戸から10年,見たものの責任
第14講	終章:沈む日本の浮上	キーワード:コミュニティの復活,行政改革 - 税金の重さ -, スローな時代へ - 共生社会 -
第15講	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
日常点	100 %	

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

教科書 / Textbooks

随時紹介する。

参考書 / Reference Books

随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

その他 / Others

担当者名 / Instructor 木野 茂

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

環境と生命に関する諸問題は20世紀以来、人々から大きな関心をもたれているテーマである。科学技術の急速な発達、環境問題、増大する地球人口、資源の枯渇、貧富の格差拡大、絶え間ない戦争、生殖医療技術の発達、生命と倫理の諸問題など、そこにはさまざまな問題が含まれている。

一方、現代の私たちは膨大な情報に困まれているが、その中から必要な情報を得ることはきわめて難しい。様々な媒体から与えられる情報をただ受け止めるだけでなく、それを読み解く能力が必要である。

この授業ではテレビ・ドキュメンタリーを題材に、環境と生命に関する諸問題をみんなで考えることを通して、その能力を磨くことを目標にする。そのため、授業は一般的な講義形式を取らず、みんなでドキュメンタリーを観た後、教室での議論を通じて理解を深め、考えることに集中する。授業では必要な資料を授業プリントとして用意するが、授業の後、自分でインターネットや図書館を利用して調べる習慣を身に付ける。

授業の早分かりは以下の通りである。

- * 毎回、チャイムとともにテレビ・ドキュメンタリーを鑑賞する。
- * 鑑賞後、グループに分かれてディスカッションをする。(メンバーは適宜入れ替える)
- * 授業の後、自分の意見をWebCTの電子掲示板に送る。(400字程度)
- * 優れた意見を選んできて、次回の出席時に投票する。(最多得票者は教室で紹介、祝福)
- * 私も別途、いくつかの意見を選抜き、WebCTで紹介する。

到達目標 / Focus and Goal

- ・ドキュメンタリーを観て、何が問題かを理解できるようになる。
- ・ドキュメンタリーに関連した情報を自分で調べることができるようになる。
- ・ドキュメンタリーに対する自分の意見を持つことができるようになる。
- ・自分の意見を所定の字数にまとめ、人に伝えることができるようになる。
- ・他の人とディスカッションをし、人の意見を理解することができるようになる。
- ・所定の時間でスピーチができるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特になし

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業ガイダンス、第1回目のドキュメンタリー鑑賞	
第2～6回	ドキュメンタリー鑑賞、グループ・ディスカッション	
第7回	第1回1分間スピーチ(授業で観たドキュメンタリーから各自1本を選択し、課題のレポートを書くことになっているが、その中から自分の意見を1分間にまとめてスピーチする。第1回は第1～6回目のドキュメンタリーを対象とし、申し込み順で受講生の半数までとする。)	
第8～13回	ドキュメンタリー鑑賞、グループ・ディスカッション	
第14回	第2回1分間スピーチ(第8～13回目のドキュメンタリーを対象とし、第1回目にスピーチをした人は除く)	
第15回	今回の授業の総評、授業アンケート、レポート提出	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

- ・毎回、6人ずつ、ドキュメンタリーの内容要約(400字)を指示する。
- ・授業の後、ドキュメンタリーに関連する情報をインターネットや図書館を利用して調べる。
- ・授業の後、授業のドキュメンタリーに対する自分の意見をWebCTの電子掲示板に投稿する。
- ・次回の授業までに、みんなの意見を電子掲示板で読み、優秀意見を選んでくる。
- ・要約ベスト、みんなの選んだ優秀意見、私の選んだ選抜意見はWebCTで紹介する。
- ・レポート課題は以下の二つである。

授業期間中にTVで放送されるドキュメンタリーの中から1本を選び、その要旨(400字程度)と自分の意見(400～600字)をまとめる。

授業で取り上げたドキュメンタリーの中から1本を選び、教室でのディスカッション及び電子掲示板による意見交換をふまえて、1000字程度のレポートにまとめる。(1分間スピーチではそれを300字以内にして口頭発表する)

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	20 %	課題のそれぞれについて、10%ずつの割合で評価に加える。
日常点	50 %	毎回の出席と意見メールの電子掲示板への投稿を50%の割合で評価に加える。欠席や意見メールの未提出は減点する。
その他	30 %	1分間スピーチの評価を10%の割合で評価に加える。優秀な意見及び要約は、それぞれ1回につき5%までの割合で評価に加える。

[レポート]

*評価の基準は、所定の字数が守られているか、書き方(誤字、段落、引用・参考文献など)の是非のほか、どこまで自分で考えたかという考察力である。

*A4判・縦型用紙に、横書きのこと。ワープロが望ましいが、手書きも可とする。

【その他】

*グループ・ディスカッションの代表を務め、報告を提出した人にも5%の割合で評価に加える。

*「その他」の評価については、授業に対する積極性を総合的な視点から行う。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research

WebCTの電子掲示板を使えることと、インターネットで情報検索ができることが受講の条件なので、開講までにできるようになっておくこと。この授業を受ける人は、受け身の受講ではなく、授業に自分も参加しているという意識を持ってほしい。

教科書 / Textbooks

当日プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

必要に応じて授業で紹介する

その他 / Others

担当者名 / Instructor 桜井 政成

単位数 / Credit 2

授業の概要 / Course Description

大学生の学びの場はキャンパス内にとどまるものではない。ボランティア活動などの、地域へ参加する活動を通じて、かけがえのない学びを得ることができる。人間的な成長や、専門知識への関心を高めることが出来る。地域参加の活動は、地域に貢献するだけでなく、参加する学生にとっても、得るものが大きいのである。

しかし、地域参加活動の魅力や、そこで得られる学びは、活動を行っていない者にはなかなか理解しがたい。また、社会的な活動であるため、事前に諸々の注意事項を理解しておく必要がある。本講義は、そうした地域参加活動へ誘う動機付けと、参加のための心構えを身につけることを目的に開講する。

本講義では多くのゲストスピーカーが登場する。いずれも日常の学生生活では出会えない人ばかりなので、臆せずに質問等を行ってほしい。

到達目標 / Focus and Goal

地域参加活動の意義・現状・課題や、地域参加活動の方法を学ぶことで、地域参加活動を行うための準備となることを目指す。本講義を終え、地域に参加する受講者が一人でも多く現れてほしいと望んでいる。

履修しておくことが望まれる科目 / Courses which students are recommended to enroll in, but not required to

特になし。

授業スケジュール / Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	本授業の目的とスケジュール、担当者の経験など。(桜井)
第2回	若者と地域参加(1)	歴史的な文脈における地域参加の有り様。その変化について
第3回	若者と地域参加(2)	大学生にとっての地域参加の現代的な意義
第4回	地域問題と大学生の地域参加(1) 環境保全と学生の地域参加	京都市右京区京北地域「NPO森守協力隊」の活動と学生の地域参加(ゲストスピーカー:NPO森守協力隊 理事長 宮西恵津子氏)
第5回	地域問題と大学生の地域参加(2) 多世代による「育ち合い」は復活するか?	京都市南区「塔南の園児童館」の活動から学ぶ(ゲストスピーカー:塔南の園児童館 児童厚生員 瀬戸優美子氏)
第6回	地域問題と大学生の地域参加(3) 多文化共生のまちづくり	京都YWCA APTの活動から学ぶ(ゲストスピーカー:京都YWCA APT 森田紀子氏)
第7回	地域問題と学生の地域参加(4) 学生から地域への情報発信	学生による地域への情報発信事例から学ぶ(ゲストスピーカー:ぼららじスタッフ、丹後村おこし開発チームスタッフ)
第8回	大学生の地域参加の課題(1) 大学ボランティアセンターからみた大学生の地域参加支援の課題	立命館大学ボランティアセンターの活動と、立命館大学生の地域参加の特徴、課題について学ぶ(ゲストスピーカー:立命館大学ボランティアセンター主事、ボランティアセンター学生スタッフ)
第9回	地域問題と学生の地域参加(5) 大学近隣地域からみた大学生の地域参加の必要性	大学周辺の地域への学生の参加と大学と近隣地域との共生の課題を学ぶ(ゲストスピーカー:京都歴史回廊協議会事務局 梶野勝氏)
第10回	大学生の地域参加の課題(2) 青少年支援団体からみた大学生の地域参加の課題	青少年の地域参加を支援している機関から見た大学生の地域参加の現状・課題(ゲストスピーカー:青少年ユースサービス協会ユースワーカー 中村彰利氏)
第11回	大学生の地域参加の課題(3) 授業を通じた地域参加活動をすすめるには	ボランティア活動を授業の中に取り入れた教育手法であるサービス・ラーニングについて、その意義、あり方等について学ぶ。
第12回	大学生の地域参加の課題(4) 海外事例	カナダ・バンクーバーUBCでのボランティア活動支援、サービス・ラーニングの事例
第13回	大学生の地域参加の課題(5) 地域参加におけるリスクマネジメント	ボランティア保険等の紹介、ケーススタディで学ぶ地域参加のリスクマネジメント
第14回	まとめ	
第15回	修了試験	試験に変わるレポートを実施

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Out of class assignment

(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Course Style

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート	50 %	与えられた設題について十分に論じられているか。文章は論理的か。誤字脱字やインターネット丸写しはないか。
日常点	50 %	中間まとめのときに、レポート課題を課す。

受講生および研究に関するアドバイス / Advice regarding students and/or research**教科書 / Textbooks**

特に指定はしない。

参考書 / Reference Books

授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Internet Websites related to the Course

授業中に紹介する。

その他 / Others